

田植機重要ポイント

1. ほ場まで移動するときは、

トラック等に載せて運搬します。

2. 燃料を補給するときは、

火気厳禁します。

エンジンを停止し冷機状態で行います。

3. エンジンを始動するときは、

ブレーキペダルを踏み込んで行います。

周囲の安全を確認してから行います。

4. トラックへ積み降ろしするときは、

強度・幅・長さの十分あるスリップしないアユミ板を使用します。

スピードを落としアユミ板の中央を上り、下りします。

上り、下りの途中では、ブレーキペダルや主変速レバーを操作しません。

アユミ板の上でステアリングを大きく操作しません。

5. ほ場へ出入りするときは、

スピードを落としあぜに直角に走行します。

上り、下りの途中では、ブレーキペダルや主変速レバーを操作しません。

6. 田植機を点検整備するときは、

必ず安全な場所で、エンジンを止め、植付部の油圧固定します。

7. 補助者と共同作業を行うときは、

合図をし安全を確認します。

この機械をお使いになるときは復唱してください。

正しく作業していただくため、ぜひ守っていただきたい重要ポイントは上記のとおりですが、これ以外にも本文の中で作業上ぜひ守っていただきたい事項を  を付して説明のつど取り上げています。よくお読みいただくと共に必ず守っていただくようお願いいたします。

重要なお知らせ

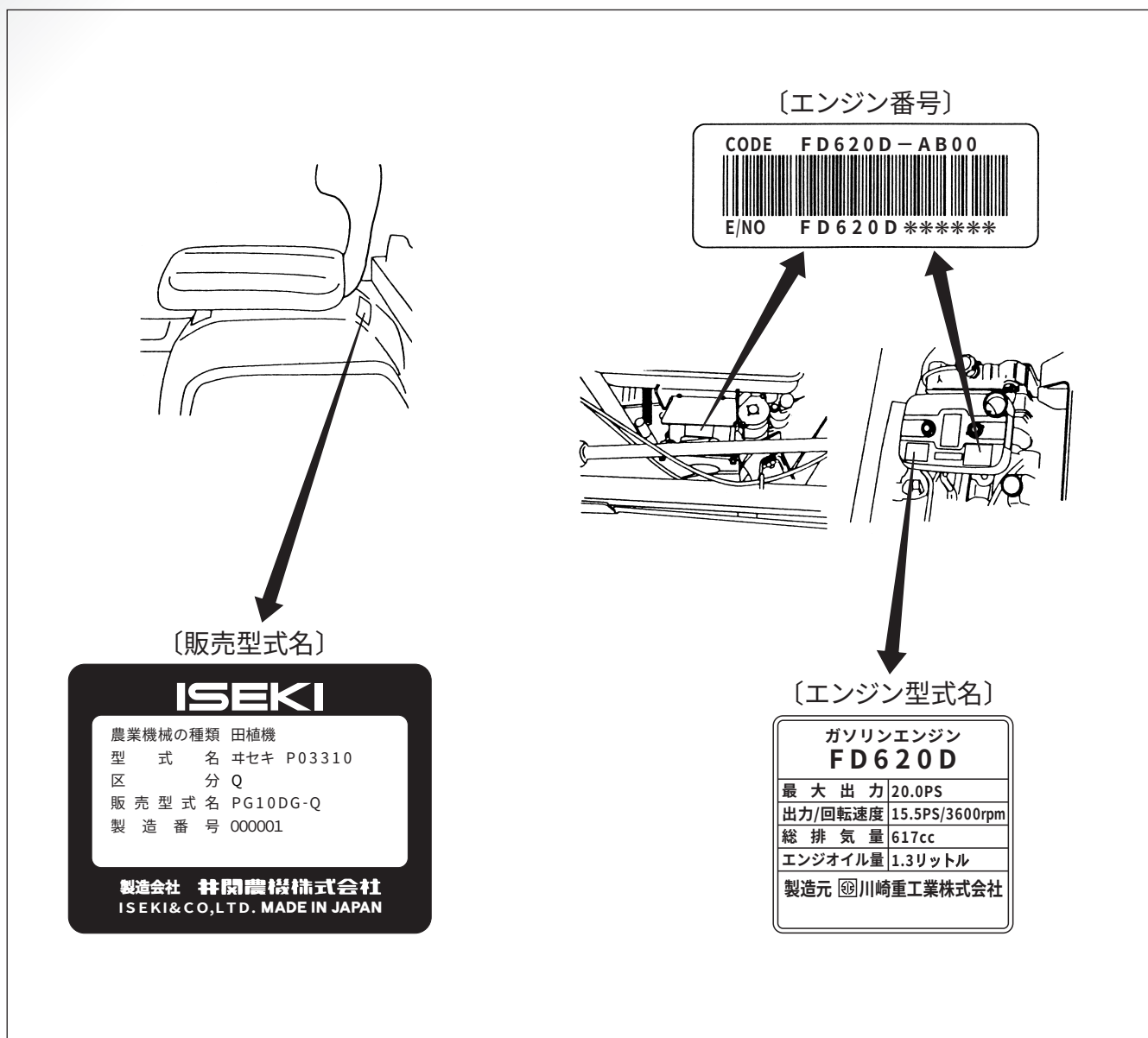
- このたびは、キセキ田植機をお買いあげいただき、まことにありがとうございました。
- 本商品は、稲の苗を植え付ける作業機として使用してください。
改造や使用目的以外の作業はしないでください。
改造や使用目的以外の作業をした場合は、保証の対象にはなりませんのでご注意ください。
(詳細は保証書をご覧ください。)
- 井関農機株式会社（以降当社と記す）は、この取扱説明書記載の指示事項を守らなかったり、キセキ田植機（以降田植機と記す）を改造したり、あるいは運転・保守作業にあたり、通常必要とされる注意または用心をしないで生じた損害または傷害に対しては一切責任を負いません。
- この田植機の取扱上の危険について、すべての状況を予測することはできません。したがって、この取扱説明書の記載事項や田植機に表示してある注意事項は、すべての危険を想定しているわけではありません。
よって、田植機の操作または、日常点検を行う場合は、この取扱説明書の記載および田植機本体に表示されている事項に限らず、事故防止対策に関しては十分な配慮が必要です。
- 田植機の性能、故障および耐久性は、それ自身の設計の良否、使用材料の適否および製作技術の巧拙によることはいくつまでもありませんが、他方、日常の取り扱い、整備いかなによることも、また看過できません。
- この田植機は、国内での使用を前提にしています。したがって、海外諸国での安全規格等の適用・認定等は実施していません。この田植機を国外へ持ち出した場合に当該国での使用に対し、事故等による補償等の問題が発生することがあっても、当社は直接・間接を問わず一切の責任を免除させていただきます。
- 傷害の発生を避けるため、本来の使用目的以外の田植機の使用やこの取扱説明書に述べている以外の運転・保守作業はおやめください。
- 本田植機を譲渡または貸与される場合は、相手の方に取扱説明書の内容を十分理解していただき、この取扱説明書を田植機に添付してお渡しください。譲渡（または転売）される場合は、必ず譲渡先を当社へご連絡ください。また、添付されているすべてのものを譲渡し、譲渡（または転売）した側は一切の複製物を保持しないでください。
- この取扱説明書の内容は田植機の改良のため、予告なしに変更する場合があります。
- 本田植機とこの取扱説明書のイラストとは異なることがあります。またイラストの一部は、田植機内部の説明を容易にするために省略していることがあります。あらかじめご了承ください。
- この取扱説明書は著作権を有します。この取扱説明書の全体もしくは部分的にも、当社の事前の文書による同意なしに複写、コピー、翻訳してはならず、また読み取りのできるいかなる電子装置や機械にも転写しないでください。
- この取扱説明書を紛失または損傷された場合は、速やかに「お買いあげ先」にご注文ください。
- さらに詳しい情報を必要としたり、質問があるとき、または内容につき不明な点がありましたら「お買いあげ先」へお問い合わせください。

型式と装備内容について

■商品の使用にあたって

この取扱説明書では、同じシリーズの型式・区分の田植機について併記しています。
お買いあげいただいた田植機の型式・区分を機体に貼付してある銘板で確認され、該当部分をお読みください。

■銘板の位置



PG0001

■装備内容

装 備 内 容		型 式 名 機						施肥機		車輪	参 照 ページ
		D G						F	M	K	
		Q	QB	QBY	QJ	QA	QAS				
エンジン	FD620(最大20.0PS)	○	○	○	○	○	○				—
変 速	ベルト式5段変速装置	○	○	○	○	○	○				—
スパーくるっとターン		○	○	○	○	○	○				38
電動マーカ		○	○	○	○	○	○				88
ロングホイールベース		○	○	○	○	○	○				—
ショートフロート		○	○	○	○	○	○				—
条 間	30cm	○	○	○	○						—
	33cm					○	○				—
植 付 爪	フィンガ (13/G)	○			○						—
	フィンガ (14/G)		○	○		○	○				—
車 輪	太リムラグ車輪	○	○	○	○	○	○				—
	鉄ラグ車輪									○	—
補 助 苗 枠 数	10枚	○	○								—
	20枚					○					—
	40枚				○		○				—
	14枚			○							—
側 条 施 肥 機	粒状							○			—
	ペースト								○		—
マイコン 機 能	バックリフト(切換え付)	○	○	○	○	○	○				—
	油圧ローリング	○	○	○	○	○	○				—
	音声モニター	○	○	○	○	○	○				29
	自己診断	○	○	○	○	○	○				—
	らくらくレバー	○	○	○	○	○	○				36

警告表示について

本田植機を正しくお使いいただくために、この取扱説明書の指示に従って操作・保守を行ってください。

また、田植機で危険が想定される箇所またはその付近には警告ラベルを貼付しています。取扱説明書および警告ラベルでは、危険の程度を表す方法として次の表示で区分しています。

■表示の説明

 危険	その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。
 警告	その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。
 注意	その警告に従わなかった場合、けがを負うおそれがあるものを示します。
注意	その警告に従わなかった場合、装置の破損、故障のおそれがあるものを示します。
補足	知っておくと役に立つ情報や、便利なことなどを示します。

■図記号の意味

危険に対する注意・表示は次の3種類の記号を使って表しています。それぞれの記号は次のような意味で区分しています。

(例) 	注意の喚起	この記号は指示を守らないと、危険が発生するおそれがあることを表します。記号の中の絵表示は危険の内容を図案化したものです。 (左図の場合は爆発注意)
(例) 	禁止行為	この記号は行為の禁止を表します。記号の中や近くの絵表示は、してはならない行為の内容を図案化したものです。 (左図の場合は火気厳禁)
(例) 	強制行為	この記号は行為の強制を表します。記号の中の絵表示は、しなければならない行為の内容を図案化したものです。危険を避けるためにはこの行為が必要です。 (左図の場合はメガネ着用)

目次

重要なお知らせ	i
型式と装備内容について	ii
警告表示について	iv
目次	v

1. 使用上のポイント

1.1 非特殊自動車としての取り扱い ...	1
1.2 使用上のご注意	1
1.2.1 運転者の条件	1
1.2.2 作業を開始する前に	2
1.2.3 エンジンの始動と発進	3
1.2.4 走行する場合には	4
1.2.5 運搬時の注意事項	7
1.2.6 作業中は	9
1.2.7 夜間作業の禁止	10
1.2.8 点検・整備	10
1.2.9 格納・保管時は	12
1.3 電装関係を取り扱うときは	14
1.3.1 電気配線点検時の注意事項	14
1.3.2 バッテリー取り扱い時の注意事項	15
1.3.3 ブースタケーブル使用時の注意事項	16
1.3.4 バッテリー液の注意事項	16
1.4 警告ラベルについて	17
1.5 警告ラベル貼付位置	18

2. 保証とサービスについて

2.1 商品の保証	20
2.2 サービスネット	20
2.3 補修用部品供給年限について	20

3. 各部の名称とはたらき

3.1 各部の名称	21
3.1.1 全体	21
3.1.2 計器・レバー・ペダル・スイッチ関係	22
3.2 計器およびスイッチのはたらき	23
3.2.1 スイッチのはたらき	23
3.2.2 計器のはたらき	27
3.2.3 音声モニター	29
3.3 レバー、ペダル、シート関係の取扱い	32
3.3.1 アクセルレバーとアクセルペダル	32
3.3.2 主クラッチペダル	33
3.3.3 ロック解除ペダル	33
3.3.4 ブレーキペダル	34
3.3.5 駐車ブレーキレバー	34
3.3.6 主変速レバー	35
3.3.7 移動牽制レバー	35
3.3.8 らくらくレバー	36
3.3.9 超低速レバー	36
3.3.10 前輪デフロックペダル	37
3.3.11 チルトペダル	37
3.3.12 座席の調節	38
3.3.13 スーパーくるっとターン	38
3.3.14 株数切替レバー	38
3.3.15 株数副変速レバー	38
3.3.16 油圧感度調節レバー	39
3.3.17 植込杆停止レバー	39
3.3.18 らくらくレバー(3つのボタン)	39
3.3.19 植付ポジションレバー	40
3.3.20 下降ロックレバー	41
3.3.21 苗取量調節レバー	41
3.3.22 植付深さ調節レバー	41
3.3.23 横送り切替レバー	42

3.3.24	ナエオサエ	42
3.3.25	苗ストッパー	43
3.3.26	植付補助レバー	43

4. 作業前点検

4.1	給油、注油箇所の点検と補給	44
4.1.1	燃料(無鉛ガソリン)	45
4.1.2	エンジンオイル	45
4.1.3	冷却水	47
4.1.4	チェンジミッションオイル (全型式)	48
4.1.5	植込杆	48
4.1.6	グリース注入箇所 (グリースニップル)	49
4.1.7	グリース塗布箇所	49
4.1.8	オイル注油箇所	50

5. 運転のしかた

5.1	エンジンの始動と停止のしかた	52
5.1.1	エンジンの始動	52
5.1.2	エンジンの停止	54
5.2	発進、停止、駐車 of しかた	55
5.2.1	発進のしかた	55
5.2.2	停止のしかた	56
5.2.3	駐車 of しかた	57
5.3	移動、運搬 of しかた	58
5.3.1	収納 of しかた	58
5.3.2	トラックへの積み・降ろし of しかた	66
5.3.3	運搬中の固定方法	68
5.4	ほ場への出入りのしかた	70

5.4.1	ほ場への入りかた	71
5.4.2	ほ場からの出かた	71

6. 作業前の準備

6.1	ほ場の準備	72
6.1.1	作業とほ場条件	72
6.2	植付作業前の準備	73
6.2.1	植付株数(株間)の決め方	73
6.2.2	株数副変速レバーと株数切替レバー の切り替えかた	74

7. 作業前に必要な調節

7.1	植付深さの調節 of しかた	76
7.2	横送り量の調整 of しかた	77
7.3	苗取り量の調整 of しかた	78
7.4	油圧感度調節 of しかた	79
7.5	抵抗棒の調節 of しかた	80
7.6	整地板の調整 of しかた	81

8. 作業のしかた

8.1	植付作業の手順	82
8.1.1	枕地一工程植え of しかた (Y型のみ)	85
8.1.2	枕地のとりかた	86
8.1.3	旋回 of しかた	86
8.1.4	オートマーカの使いかた	87
8.1.5	電動マーカの使いかた	88
8.1.6	マーカ両出し of しかた	88
8.1.7	バックリフトの使いかた	89
8.1.8	傾き調節ダイヤルの使いかた	89

8.1.9	苗の補給のしかた	89
8.1.10	植えじまいのしかた	90
8.1.11	残り苗の取り出し	92
8.1.12	安全クラッチが作動したとき	92

9. 点検整備

9.1 定期的な点検整備 94

9.1.1	点検、給油、調整一覧表	95
9.1.2	エンジンオイルの交換	96
9.1.3	エンジンオイルフィルタの交換	96
9.1.4	冷却水(リザーブタンク)	97
9.1.5	冷却水(ラジエータ)	97
9.1.6	ラジエータホース	99
9.1.7	ラジエータの清掃	99
9.1.8	エアクリーナエレメントの洗浄	99
8.1.9	点火プラグの清掃	100
9.1.10	油圧サクションフィルタの清掃	100
9.1.11	リヤミッションオイルの給油	101
9.1.12	植付クラッチケースの給油	101
9.1.13	ブレーキペダルの点検	102
9.1.14	主クラッチペダルの点検と調整	102
9.1.15	ヒューズの交換 (5A、10A、20A)	103
9.1.16	ヒューズの交換 (10A、20A)	103
9.1.17	スローブローヒューズの交換	104
9.1.18	スローブローヒューズの交換 (F型)(2ヶ)	104
9.1.19	ランプの交換	105
9.1.20	フィンガ(13/G)(14/G) の点検交換	105

9.2 電装関係を取扱ときは 106

9.2.1	電気配線点検時の注意事項	106
-------	--------------	-----

9.2.2	バッテリー取扱い時の注意事項	106
9.2.3	バッテリーの点検と取扱い	107
9.2.4	バッテリーの取扱い	108
9.2.5	ブースターケーブル使用時の注意事項	108
9.2.6	バッテリー液の注意事項	109

10. 格納時の手入れ

10.1 日常の格納 110

10.1.1	作業機の手入れ	110
--------	---------	-----

10.2 長期格納 111

11. 不調時の処置

11.1.1	不調と処理	113
11.1.2	油圧ローリングの応急処置	117
11.1.3	植付ポジションレバーの応急処置	117

11.2 ブザーが鳴り続くとき (水冷エンジンの場合) 118

12. 付表

12.1	推奨潤滑油一覧表	119
12.2	主要諸元	120
12.3	機能装備一覧表	121
12.4	標準付属品一覧表	122
12.5	主な消耗部品一覧表	124
12.6	注文部品一覧表	127

1. 使用上のポイント

本章では、田植機を効率よくお使いいただくために、必ず守っていただきたい事項を説明しています。十分に熟読されて、正しい作業を行ってください。

1.1 非特殊自動車としての取り扱い

この田植機は、小型特殊自動車（農耕作業用自動車）として、道路走行車両の型式認定を受けていません。したがって、一般道路を走行することは、違法行為になります。移動する場合は、トラック等に載せて運搬してください。

1.2 使用上のご注意

記号の説明については「警告表示について」の説明を参照してください。

1.2.1 運転者の条件

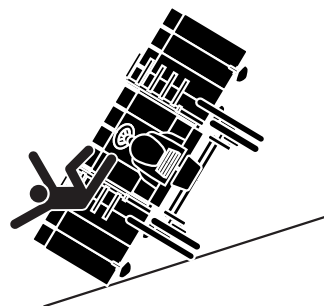
警告



こんなときは、運転をしないでください。

- 過労、病気、薬物の影響、その他の理由により、作業に集中できないとき
- 18才未満の人
- 妊娠しているとき
- 酒を飲んだとき

※ 誤作動しやすく思わぬ事故の原因になります。



作業に適した服装を着用してください。

はち巻き・首巻き・腰タオルは厳禁です。
ヘルメット・滑り止めのついた靴を着用し、作業に適した防護具等をつけて、だぶつきのない服装をしてください。

※ 機械に巻き込まれたり、すべて転倒し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



1. 使用上のポイント

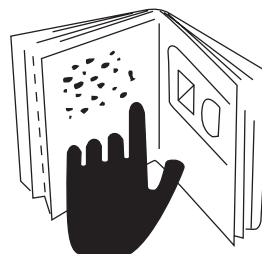
⚠ 警告



機械を貸すときは正しい使い方を指導してください。

取り扱いの方法をよく説明し、使用前に「取扱説明書」を必ず読むように指導してください。

※ 借りた人が、機械の運転に不慣れなため、思わぬ事故を引き起こすことがあります。



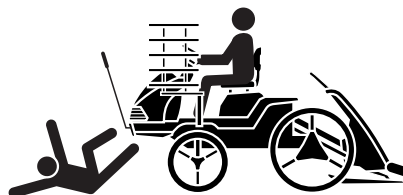
1.2.2 作業を開始する前に

⚠ 警告



無理のないゆとりある作業計画を立ててください。

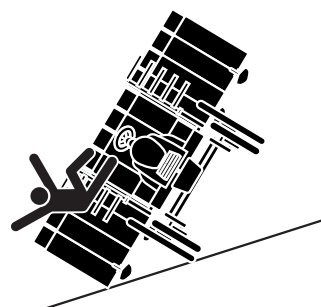
※ 無理な作業計画は、あせり等から思わぬ事故を引き起こすことがあります。



必ず点検・整備を行ってください。

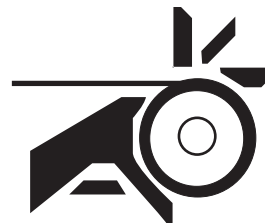
特に、ブレーキおよびクラッチ関係は忘れないでください。

※ 点検を怠ると、ブレーキのききが悪かったり、クラッチが切れなかったりして、走行中や作業中お思わぬ事故につながります。



保護カバー類が外されたままになっていないか確認してください。

※ 外したままエンジンを掛けると、機械に巻き込まれたりして、傷害事故の原因となります。



⚠ 危険



燃料補給は、エンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。
また、くわえタバコや裸火照明は絶対にしないでください。

※ 守らないと、燃料に引火し、やけどや火災の原因になることがあります。



1.2.3 エンジンの始動と発進

⚠ 警告



屋内で始動する場合は、十分に換気をしてください。

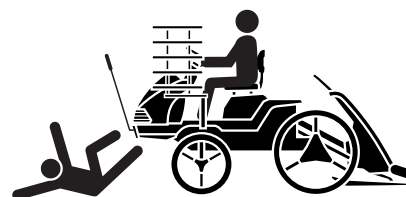
閉め切った屋内などではエンジンを始動しないでください。エンジンは風通しのよい屋外で始動してください。

※ 守らないと、排気ガス中毒を起こし、死亡事故にいたるおそれがあります。



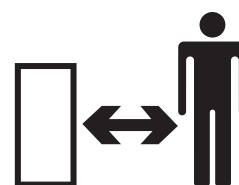
エンジンを始動するときは、変速レバーやその他レバー類の位置と、周囲の状況を確認してから行ってください。

※ 確認を怠ると、傷害事故を引き起こす原因になります。



田植機を発進させるときは、周囲の安全を確認し、田植機の近くに人を近づけないようにしてください。

※ 急発進すると、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



1. 使用上のポイント

1.2.4 走行する場合には

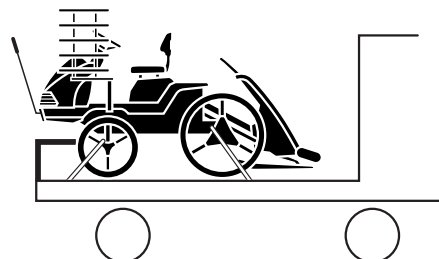
⚠ 警告



ほ場への移動は、必ずトラック等に乗せて移動してください。

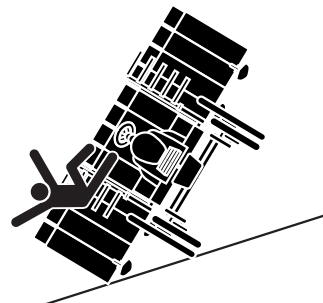
この田植機は、自動車としての認定を受けていません。

※ 公道を乗用歩行することは違法行為になります。



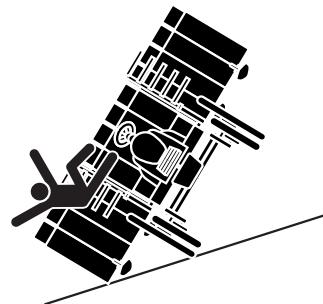
ステアリング（ハンドル）やブレーキは、正しく操作し、わき見運転や片手運転をしないでください。

※ 接触事故や、転倒事故につながるおそれがあります。



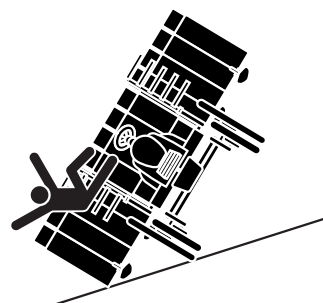
田植作業以外のときは、必ず左右のブレーキペダルを「連結」してください。

※ 「連結」にしていないと、衝突・転倒・転落事故等を引き起こすおそれがあります。



ブレーキペダルを踏むときは、先ずアクセルレバーでエンジン回転を低速にしてから、主クラッチペダルと同時に踏み込んでください。

※ 守らないとブレーキが効かず衝突、転倒、転落事故を引き起こすおそれがあります。

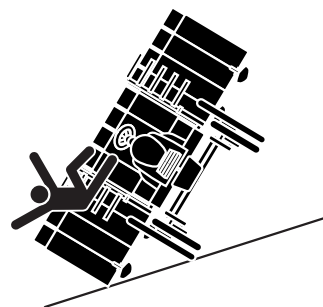


警告



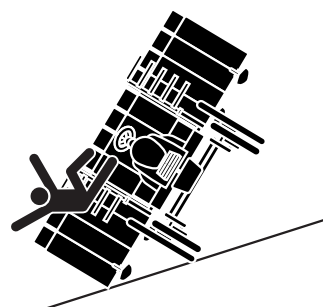
田植作業以外のときは、必ずデフロックペダルを解除してあるか確認してください。

※ 解除していないと衝突・転落事故を引き起こすおそれがあります。



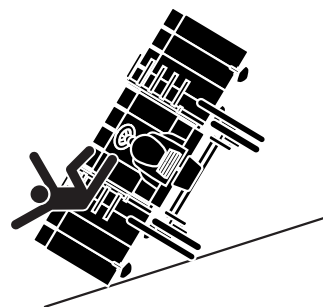
田植機の上や連結部には、いかなる場合も、絶対に人は乗せないでください。

※ 守らないと、人が転落するおそれがあります。



高速で急旋回しないでください。

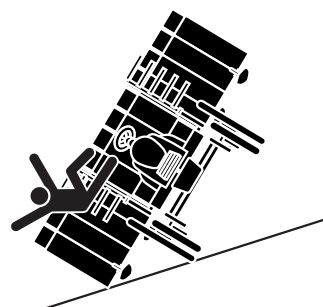
※ 急旋回すると転倒事故につながるおそれがあります。



凸凹の激しい場所、地面の軟弱な場所、傾斜地等での高速運転はしないでください。

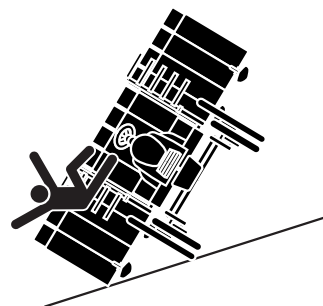
地面状況に応じた適切な速度で走行してください。

※ 守らないと、衝突・転倒・転落事故を引き起こすおそれがあります。



坂道では、急な旋回をしないでください。

※ 急旋回すると、転倒事故の原因となります。



1. 使用上のポイント

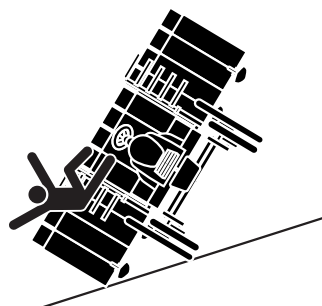
警告



坂道では決して主クラッチペダルを踏み込んだり、変速レバーを「中立」状態にしないでください。

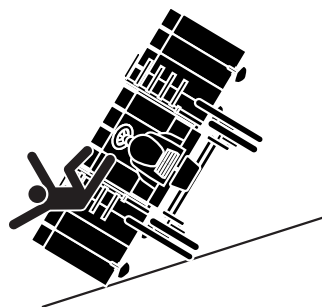
坂道を上るときは、低速でゆっくりと、下るときは、エンジンブレーキをかけてください。

※ 足ブレーキの多用は、ブレーキを傷めるとともに、スリップや転倒の原因となります。ブレーキペダルも踏み込まないようにしてください。



側溝のある農道や両側が傾斜している農道を走行するときは、速度を落とし十分注意して走行してください。

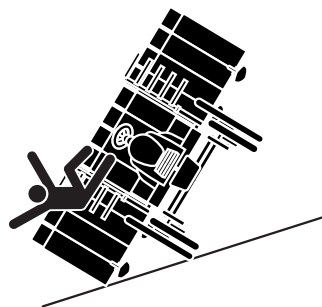
※ 守らないと、路肩が崩れて転倒するおそれがあります。



田植機から離れるときは、エンジンを停止し、メインスイッチ（キー）を抜き取り、駐車ブレーキをかけ、車止めをしてください。

また、止める場所は、地面の硬い広い場所を選んでください。

※ 田植機が、自然に動き出したりして、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



田植機を草やワラの上に止めて空吹かしをしたり、エンジンを高回転にしないでください。

※ 排気管の熱や排気ガスにより、ワラ等に着火し、火災の原因となるおそれがあります。



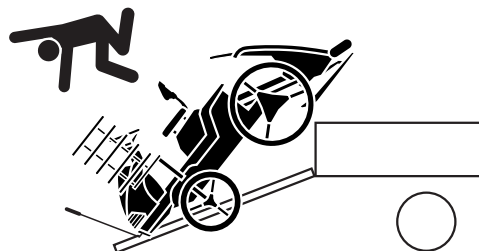
1.2.5 運搬時の注意事項

⚠ 警告



積み込むトラックは、エンジンを止めて、変速を「1 速」または「R」位置にして、駐車ブレーキをかけ、車止めをして行ってください。

※ 守らないと、積み込みや積み降ろし時、トラックが動いて転落事故を引き起こすおそれがあります。



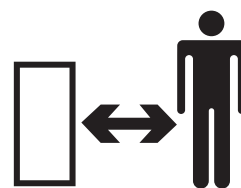
⚠ 注意



誘導者を付けて、周囲の状況を十分確認して行ってください。

田植機の直前や直後には、絶対に立たないでください。

※ 守らないと、傷害事故の原因となります。



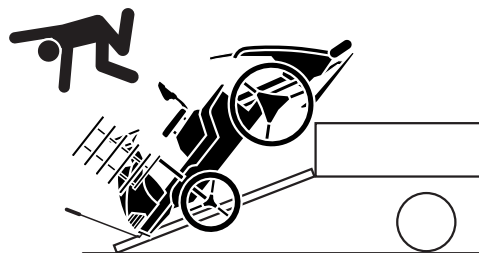
⚠ 警告



積み・降ろしは、強度・幅・長さの十分あるスリップしないアユミ板を使用し、直進性を見定めて、副変速レバーを「超低速」にし、積み込みは「後進」、積み降ろしは「前進」で、ゆっくり行ってください。

(66 ページ)

※ 守らないと、転落事故の原因となります。



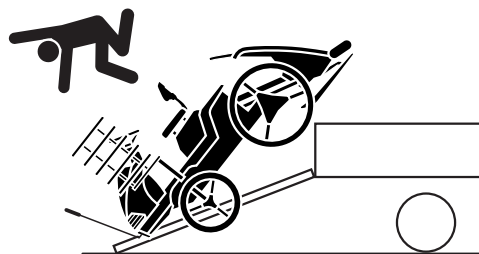
1. 使用上のポイント

⚠ 警告



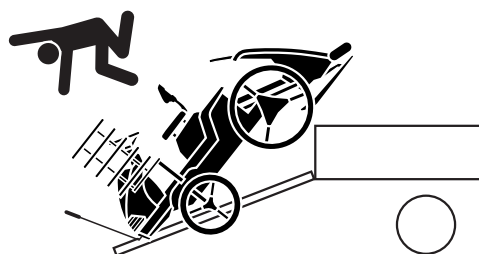
積み・降ろし中は、必ず左右のブレーキペダルを「連結」してください。

※ 連結していないと田植機が横ブレして、転落事故の原因となります。



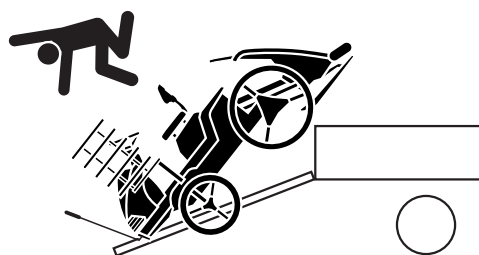
ステアリング（ハンドル）を左右に大きくきったり、主クラッチペダルを踏み込んだり、ブレーキペダルを踏み込んだりしないでください。

※ 守らないと、田植機が横ブレして、転落事故の原因となります。



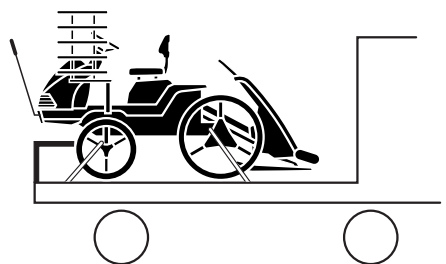
途中でエンストした場合は、すぐブレーキペダルを踏み込み、その後、徐々にブレーキペダルをゆるめ、いったん道路まで降ろし、あらためてエンジンを始動してください。

※ 守らないと、転落事故の原因となります。



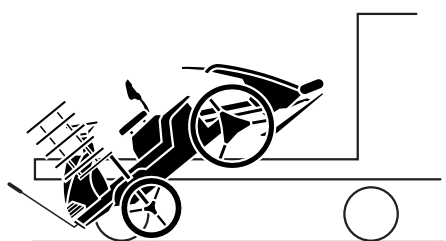
トラック等で運搬するときは必ずロープ等で荷台に固定してください。

※ 守らないと、田植機が移動し転落事故の原因となります。



運搬中は、不必要な急発進・急旋回・急ブレーキはしないでください。

※ 守らないと、田植機が移動し転落事故の原因となります。



1.2.6 作業中は

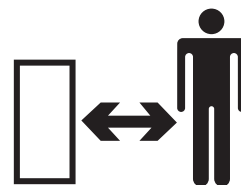
気象条件等に注意して、作業実施の判断、作業方法や装備の選択に十分配慮してください。

警告



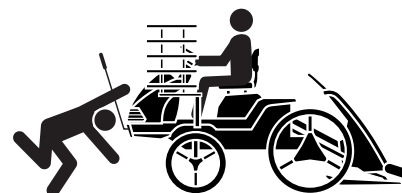
作業中は、作業員以外の人を田植機に近づけないでください（特に子供）。

※ 田植機自体や、作業による飛散物等で、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



作業を開始するときは、周囲の状況を確認し、特に補助者とともに作業するときは、合図してから行ってください。

※ 守らないと、傷害事故の原因となります。



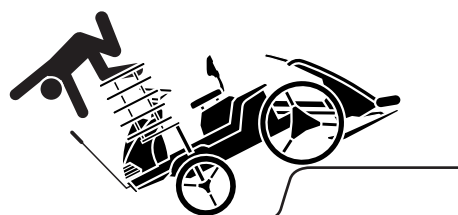
あぜを横断するときは、作業機の回転を止め、作業機を低くして低速で、あぜと直角にゆっくり走行してください。

※ 斜めになると、スリップや転倒の原因となります。



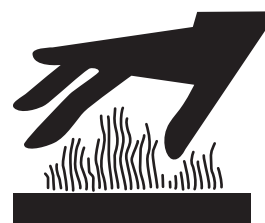
あぜの高さが高いところでのほ場の出入りでは、必ずアユミ板を使用してください。

※ 使用しなかった場合、衝撃で田植機を破損させたり、転倒することがあります。



運転中は、植付爪・苗送り等の回転部や、エンジン・マフラ等の過熱部、バッテリー端子などの通電部等には手を触れないでください。

※ 傷害事故の原因となります。



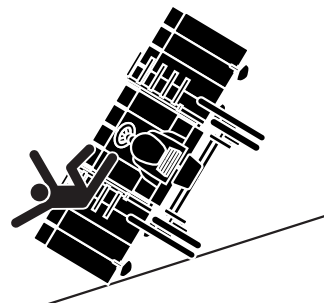
1.2.7 夜間作業の禁止

⚠ 警告



夜間作業は危険なので行わないでください。

※ この田植機は、ライトを装着していますが、暗くなるまで作業をしていると、衝突・転倒・転落事故を引き起こすおそれがあります。



1.2.8 点検・整備

⚠ 注意



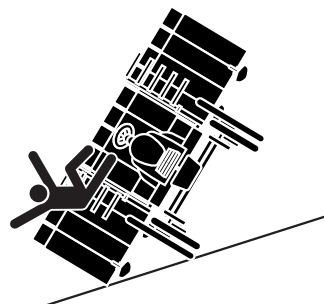
取扱説明書に従って定期点検を実施してください。

※ 田植機を長持ちさせるとともに、正しく効率的な作業が行える第一歩です。



点検・整備をするときは、平たんな広い場所で行ってください。

※ 守らないと、重大な傷害事故を引き起こすおそれがあります。



点検や整備をするときは、十分な明るさを確保してください。

※ 暗い所で行っていると、重大な傷害事故を引き起こすおそれがあります。



警告



点検・整備するときは、必ずエンジンを停止し、ブレーキペダルをロックし、駐車ブレーキをかけて、植付部の油圧を油圧感度調節レバー「植付固定」位置で固定してから行ってください。

※ 怠ると手や衣服が巻き込まれたり、はさまれたりするおそれがあります。



点検・整備を行うときは、適正な工具を正しく使用して行ってください。

※ 間に合せの工具で行うと、整備中の傷害事故や整備不良により重大な傷害事故を引き起こします。



エンジンを切ったすぐに点検・整備をしないでください。

エンジン等の過熱部分が完全に冷えてから行ってください。

※ 守らないと、やけど等の原因となります。



ラジエータキャップは、エンジン運転中および停止直後に開けないでください。

運転停止後10分以上たってよく冷えてから、注意しながら開けてください。

※ 守らないと、熱湯が噴出してやけどをするおそれがあります。



点検・整備するときは、マフラ等の過熱部分のゴミ・ホコリはきれいに除去しておいてください。

※ 怠ると、作業中に発火したりして火災を引き起こすおそれがあります。



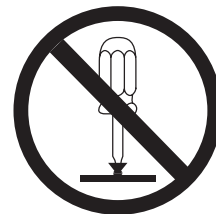
1. 使用上のポイント

⚠ 警告



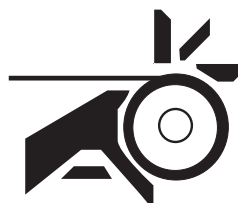
指定以外のアタッチメントの取り付けや、改造は、絶対にしないでください。

※ 守らないと、故障や事故の原因となります。



点検・整備で取り外した保護カバー類は、必ず元のとおりに取り付けてください。

※ 外したままエンジンをかけると、回転部や過熱部がむき出しになり、傷害事故の原因となります。



傷害や火災のおそれがある場合は、救急箱や消火器を準備してください。

※ 万一、傷害や火災が起きても大事に至ることを防ぎます。



1.2.9 格納・保管時は

⚠ 危険



燃料は必ず抜きとってください。

燃料コックレバーを「排出」位置にして抜き取り、抜き取り後「運転」の位置にしてください。

※ 怠ると、燃料が変質するばかりでなく引火等で火災の原因となります。

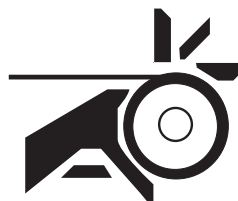


⚠ 警告



作業が終了して、シートカバー等を田植機にかけるときは、過熱部分が完全に冷えてから行ってください。

※ 熱いうちにカバー類をかけると、火災の原因となります。



 警告

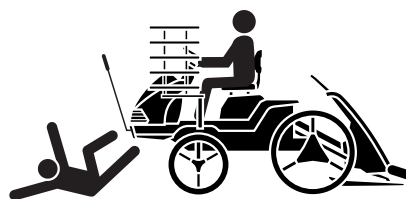
長期格納する場合は、バッテリーケーブルを外しておいてください。

※ ネズミなどがケーブルをかじり火災事故を引き起こす原因となります。



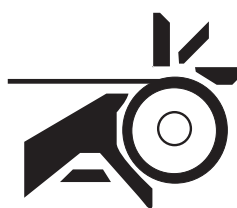
主クラッチペダルを踏み込んでクラッチを確実に切れた状態にしておいてください。

※ クラッチを接続したまま長期間格納すると、クラッチディスクが錆付いてクラッチが切れなくなることがあり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



田植機の格納場所は、十分な明るさを確保してください。。

※ 点検や移動等のとき、暗い所で行っていると重大な傷害事故を引き起こすおそれがあります。



1.3 電装関係を取り扱うときは

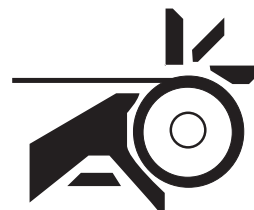
1.3.1 電気配線点検時の注意事項

⚠ 警告



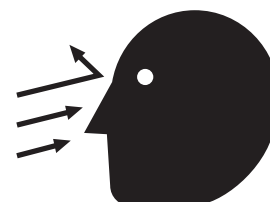
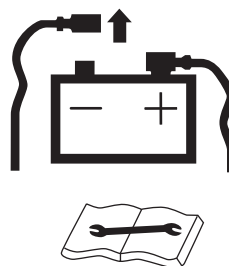
電気配線の点検は、必ずエンジンを停止して行ってください。

※ エンジンをかけた状態での点検は、手や衣服を回転部に巻き込まれたりして、傷害事故の原因となります。



接続部の点検は、メインスイッチを「切」にし、バッテリーの⊖コードを外して行ってください。

※ これを怠ると、火花がとんだり、感電したり傷害事故を引き起こすおそれがあります。



傷んだ配線は、早めに交換・修理してください。

※ 配線の端子や接続部のゆるみおよび配線の損傷は、電気部品の性能を損なうだけでなく、ショート(短絡)・漏電の原因となり火災事故になるおそれがあります。



バッテリー、電気配線およびマフラやエンジン周辺部のワラくず・ゴミ等は、取り除いてください。

※ これを怠ると、火災の原因となります。



1.3.2 バッテリー取り扱い時の注意事項

⚠ 危険



ショートやスパークさせたり、タバコ等の火気を近づけないでください。また充電や使用は、通風のよいところで行ってください。

※ 守らないと、引火爆発するおそれがあります。



バッテリー液を身体や衣服に付けないようにしてください。

バッテリー液（電解液）は希硫酸で劇物です。

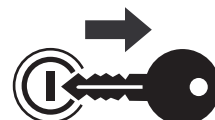
※ 失明や、やけどをするおそれがあります。

もし、目・皮膚・衣服に付いたときは、直ちに多量の水で洗ってください。なお、目に入ったときは、水洗い後、医師の治療を受けてください。



バッテリーの脱着および点検をするときは、エンジンを停止し、メインスイッチを「切」にしてください。

※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

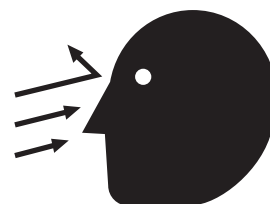
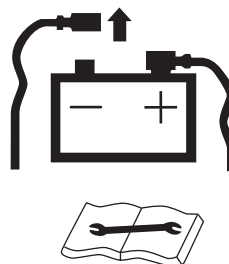


⚠ 警告



バッテリーコード（端子）を取り外すときは⊖のコードを先に外してください。バッテリーコードを取り付けるときは、⊕コードを先に取り付けます。

※ 守らないと、ショートして火花が飛ぶおそれがあります。



1. 使用上のポイント

1.3.3 ブースタケーブル使用時の注意事項

ブースタケーブル使用時には、危険のないように取り扱ってください。

⚠ 警告



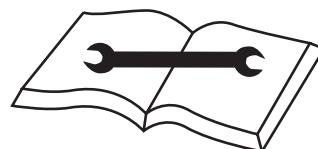
バッテリーの補水キャップを取り外してから接続してください。

※ 補水キャップが取り外してあれば、万一引火しても爆発力は低下しますので、被害は少なくなります。



ブースタケーブル接続前に、エンジンを停止してください。

※ 守らないと、重大な傷害事故を引き起こすおそれがあります。



ブースタケーブルは、できるだけ通電容量の大きいものを選んで使用してください。

※ 通電容量が小さすぎると、ブースタケーブルが熱をもったり、火災や焼損するおそれがあります。



1.3.4 バッテリー液の注意事項

バッテリー液量の点検は作業前に必ず実施してください。

⚠ 警告



バッテリーの液量がバッテリーの側面に表示されている下限（LOWER LEVEL）以下になったまま充電または使用しないでください。

※ 容器内の各部位の劣化が促進され、バッテリーの寿命を縮めたり、破裂（爆発）の原因となるおそれがあります。



 警告

バッテリーの液量がバッテリーの側面に表示されている下限（LOWER LEVEL）以下で使用を続けしないでください。

※ 容器内の各部位の劣化が促進され、バッテリーの寿命を縮めたり、破裂（爆発）の原因となるおそれがあります。

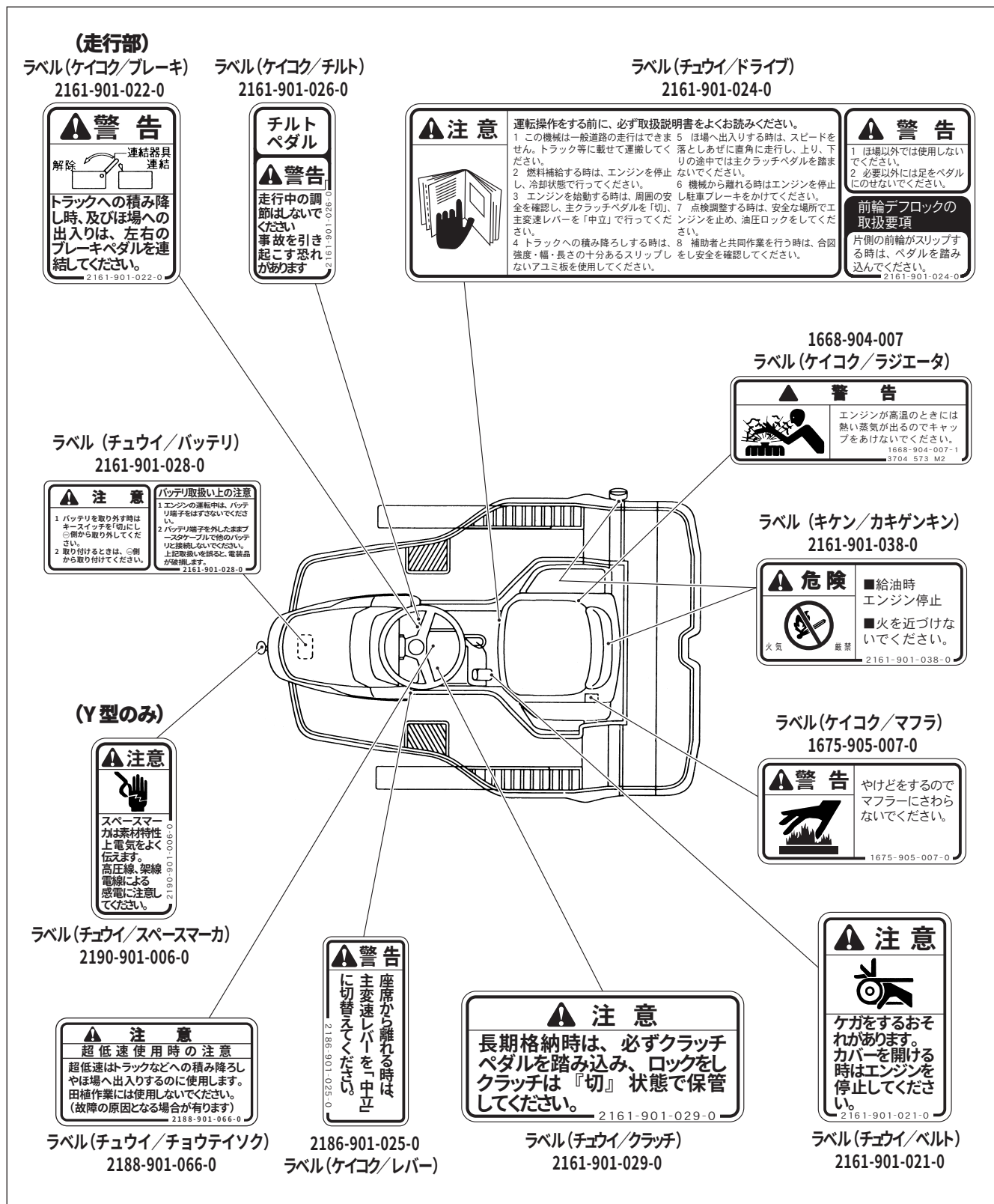


1.4 警告ラベルについて

- 本田植機には、正しく作業をしていただくため、警告ラベルが貼付してあります。必ずよく読み、これらの注意に従ってください。
- 警告ラベルを破損・紛失したり、記載文字が読めなくなった場合は、新しいラベルに貼り替えてください。警告ラベルは、お買い上げ先へご注文ください。
- 汚れた場合は、きれいにふき取り、いつでも読めるようにしてください。
- 警告ラベルが貼付してある部品を交換する場合は、同時に警告ラベルをお買い上げ先へご注文ください。
- ラベルには、洗車時に直接圧力水をかけないでください。

1. 使用上のポイント

1.4 警告ラベル貼付位置



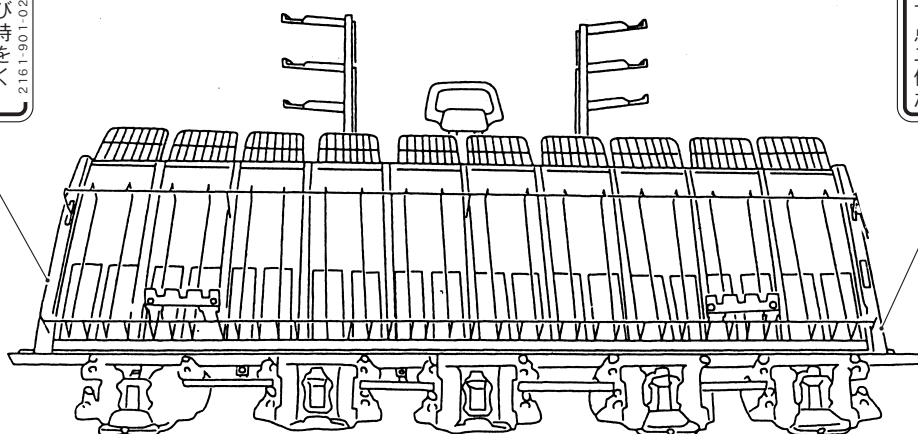
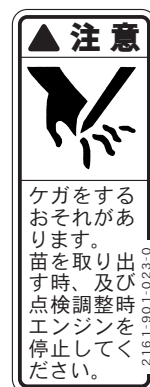
PG0002

(走行部)

ラベル (チェウイ/テンケン)
2161-901-023-0



ラベル (チェウイ/テンケン)
2161-901-023-0



PG0003

2. 保証とサービスについて

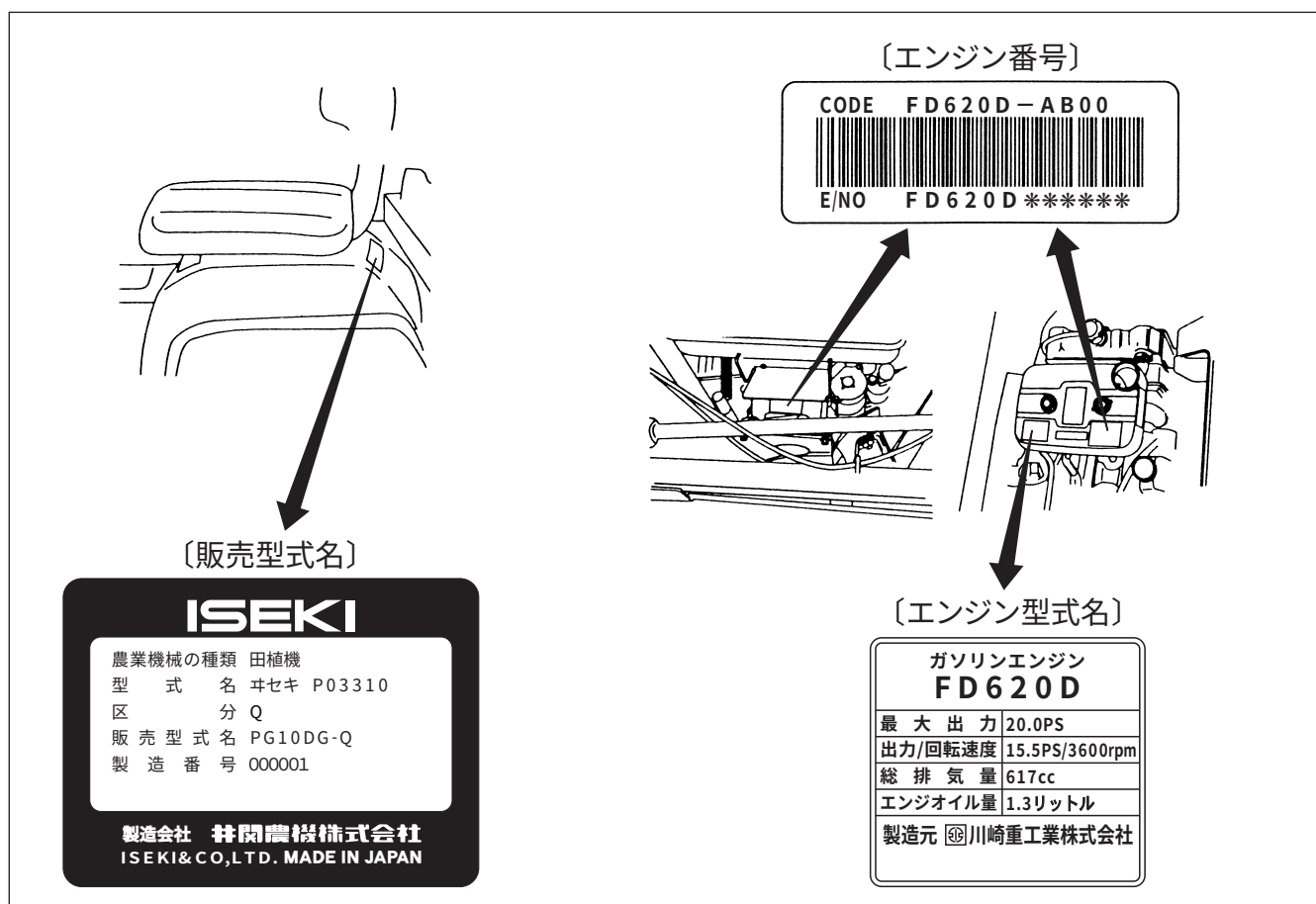
2.1 商品の保証

この商品には、キセキ保証書が添付されています。詳しくは保証書をご覧ください。

2.2 サービスネット

ご使用中の故障やご不審な点およびサービスに関するご用命は、お買いあげ先へお気軽にご相談ください。その際、

- (1) 販売型式名と製造番号
- (2) エンジン型式名とエンジン番号 をあわせてご連絡ください。



PG0004

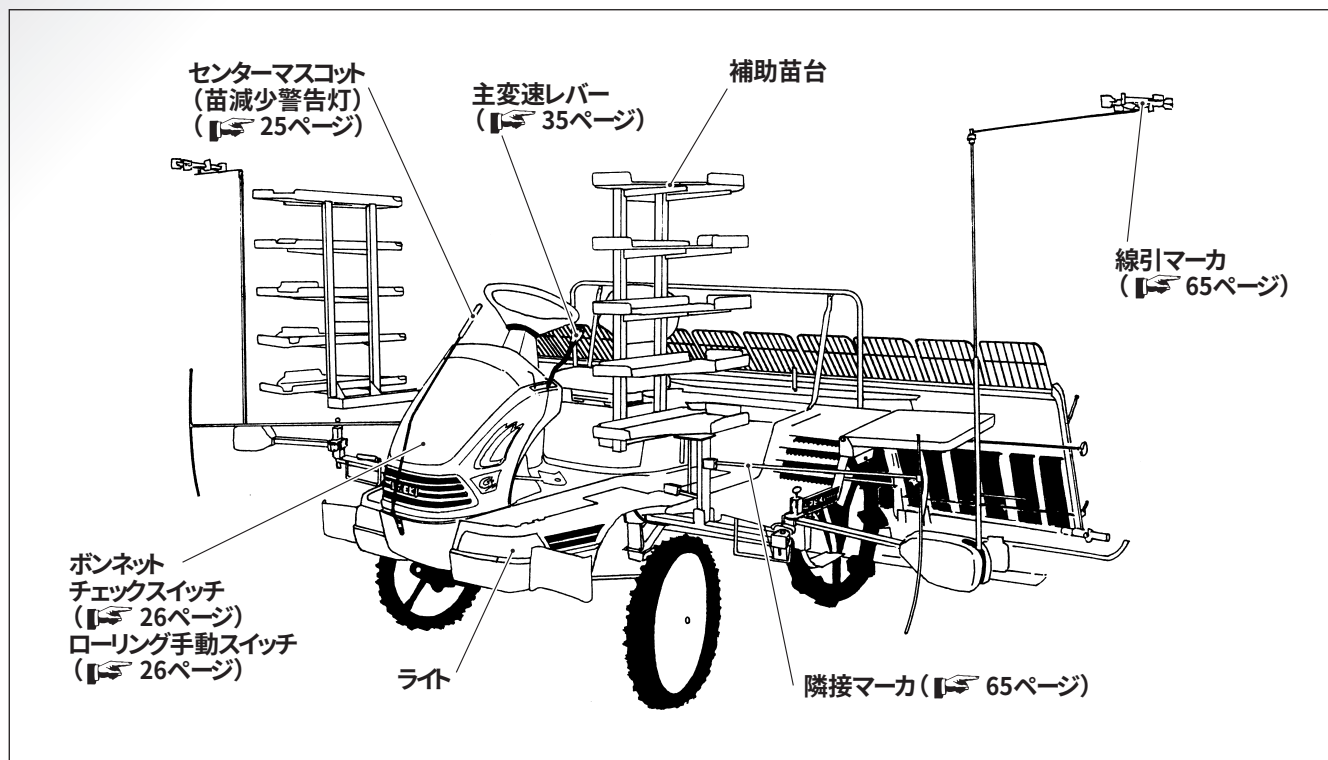
2.3 補修用部品供給年限について

- この商品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後9年といたします。
ただし、供給年限内であっても、特殊部品につきましては、納期等についてご相談させていただく場合もあります。
- 補修用部品の供給は、原則的には、上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

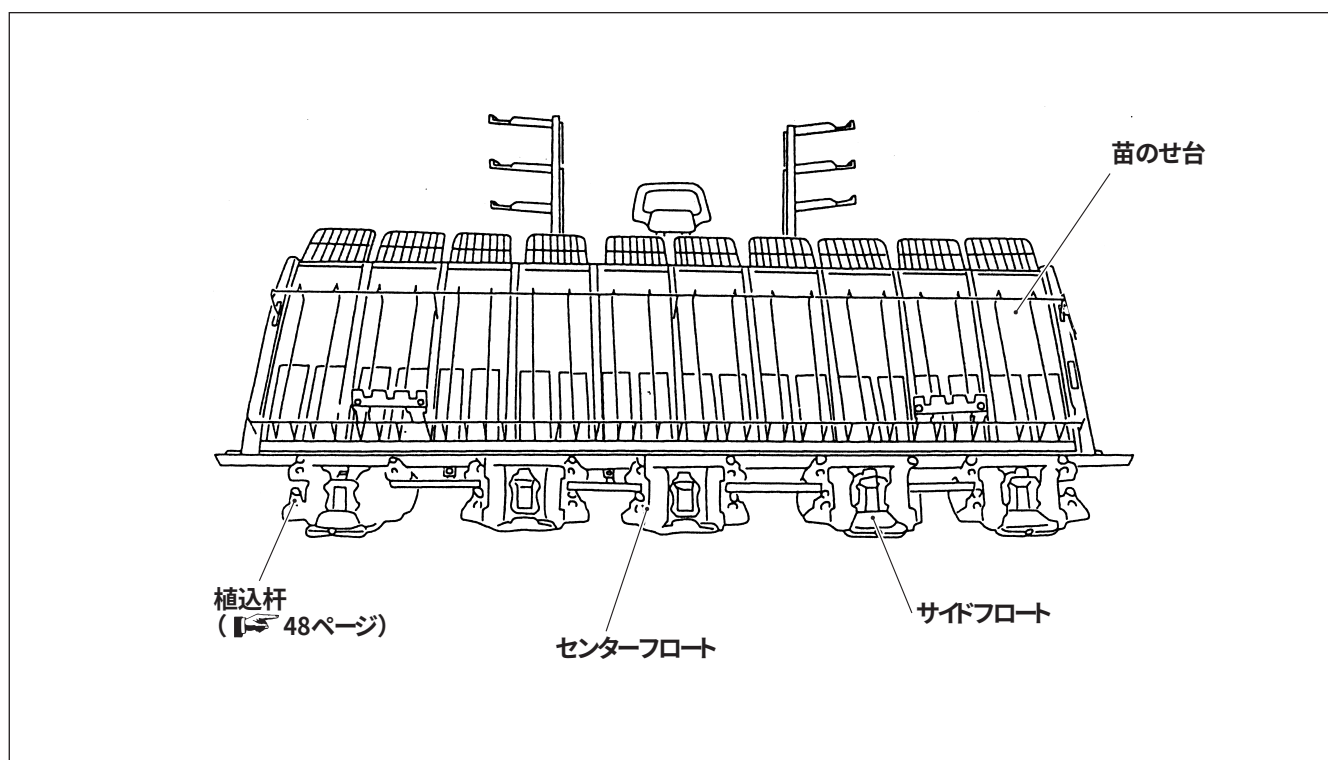
3. 各部の名称とはたらき

3.1 各部の名称

3.1.1 全体

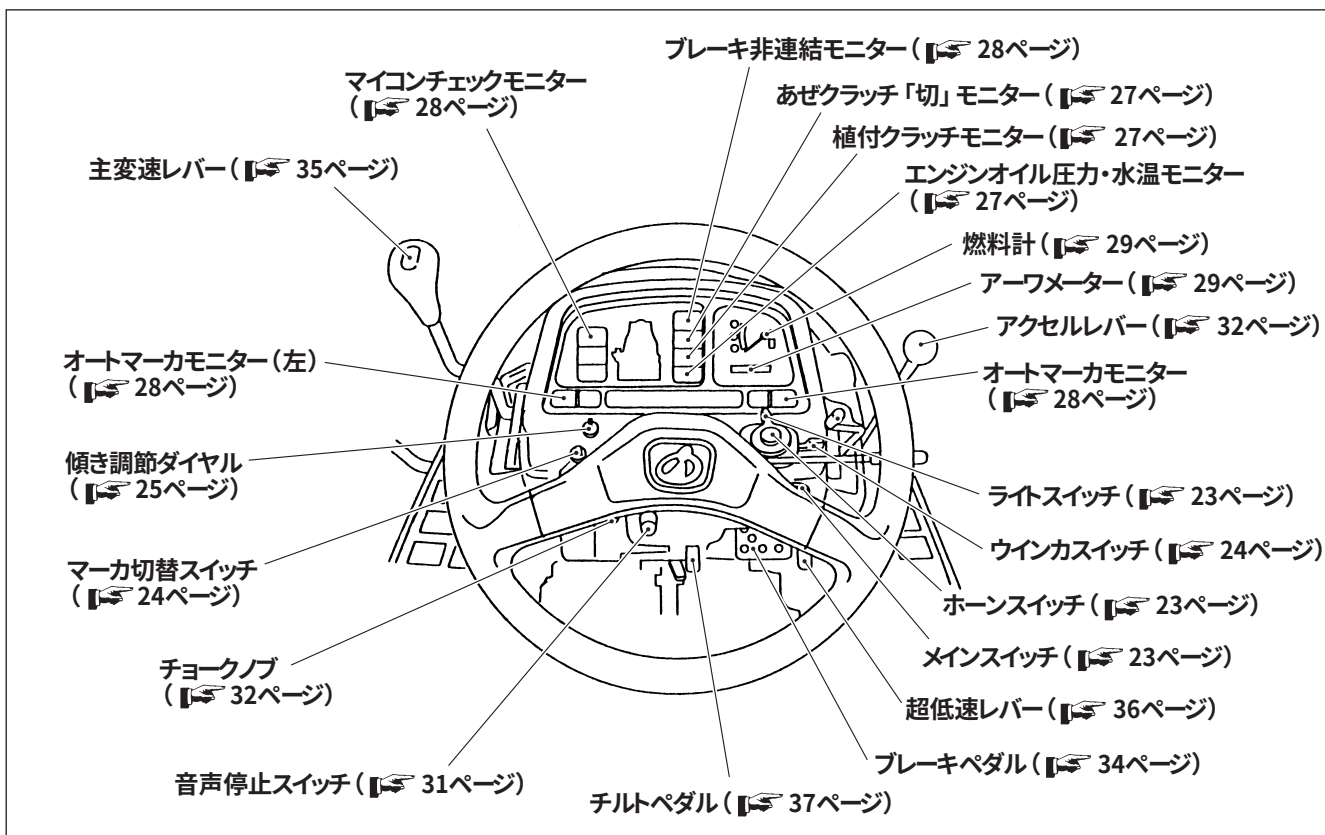


PG0005

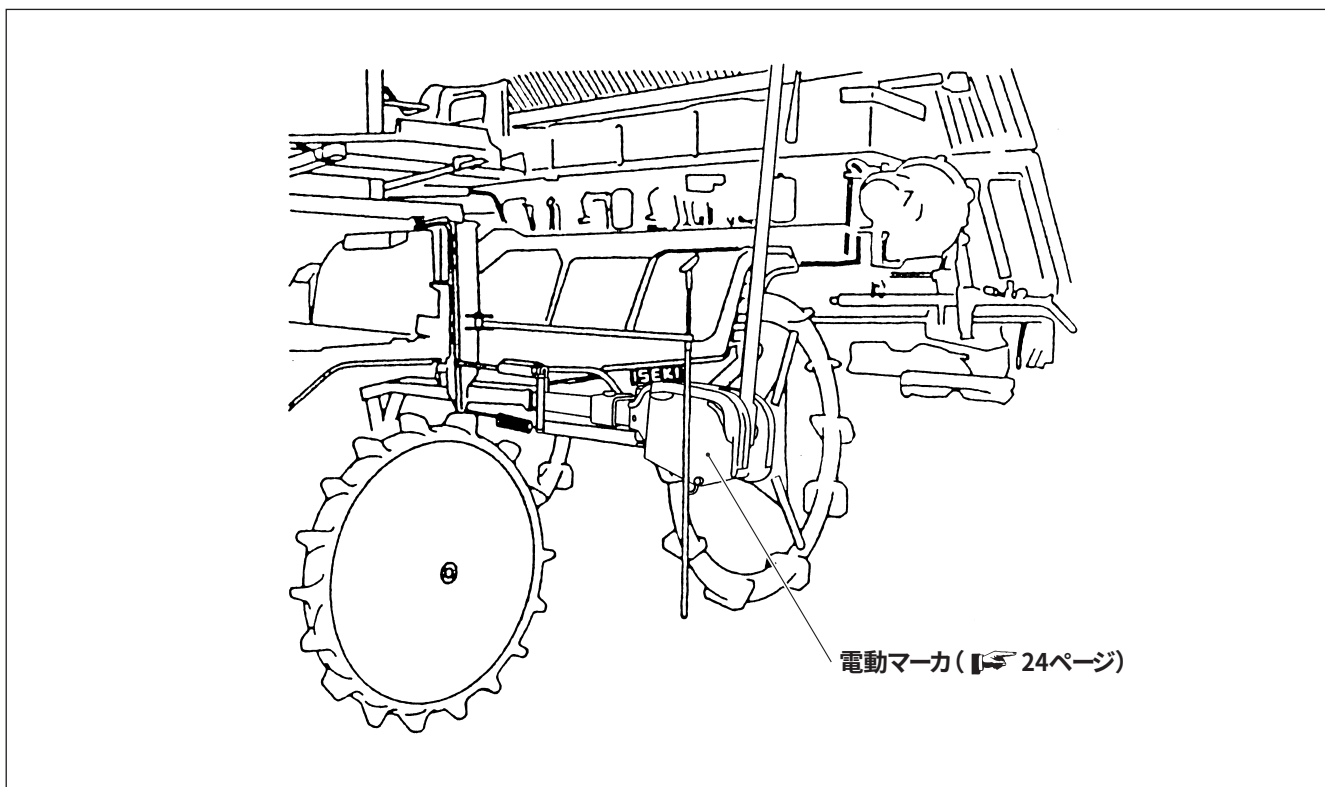


PG0006

3.1.2 計器・スイッチ・レバー・ペダル関係



PG0007



PG0008

3.2 計器およびスイッチのはたらき

3.2.1 スイッチのはたらき

■メインスイッチ

切……エンジンが停止します。

入……エンジンが回転中の位置です。

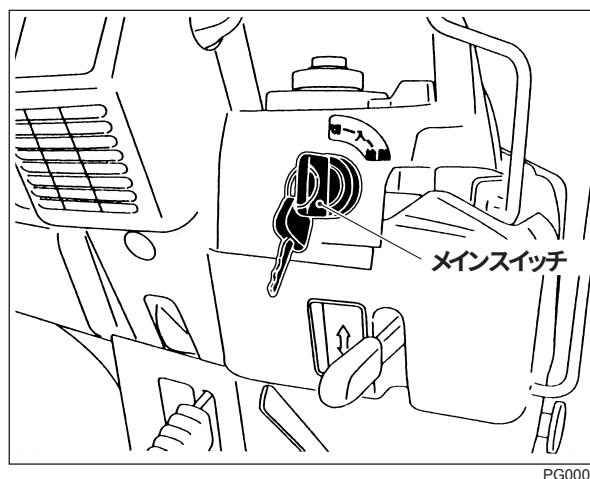
始動……クラッチペダルをいっぱい踏みこんでエンジン始動。手をはなせば「入」にもどります。

補 足

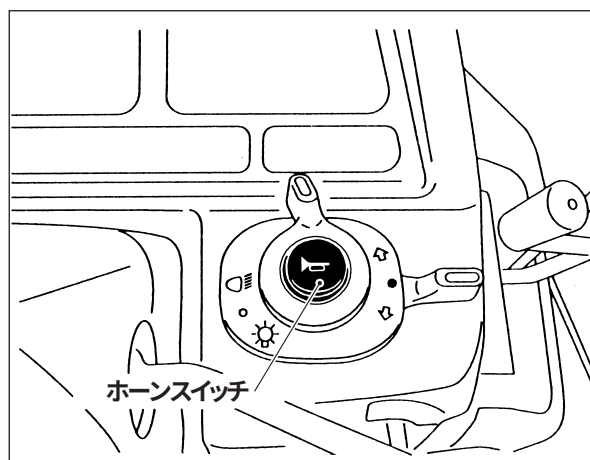
- エンジン回転中は、メインスイッチを「始動」の位置にしないでください。
- スタータの作動は1回10秒程度とし、始動しないときは30秒程度停止してから、再び操作をくり返してください。

■ホーンスイッチ

メインスイッチが「入」位置のとき、ホーンスイッチを押すとホーンが鳴ります。



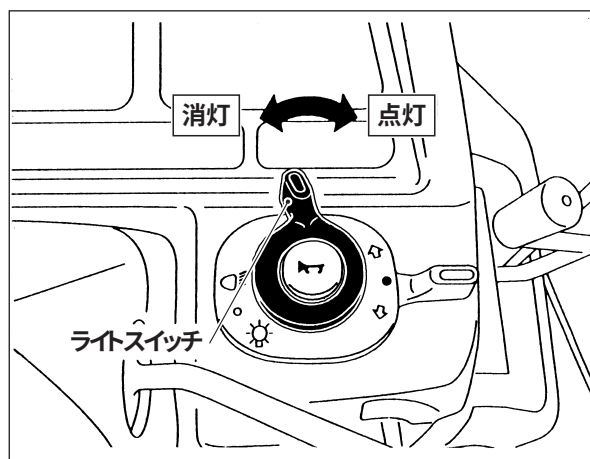
PG0009



PG0010

■ライトスイッチ

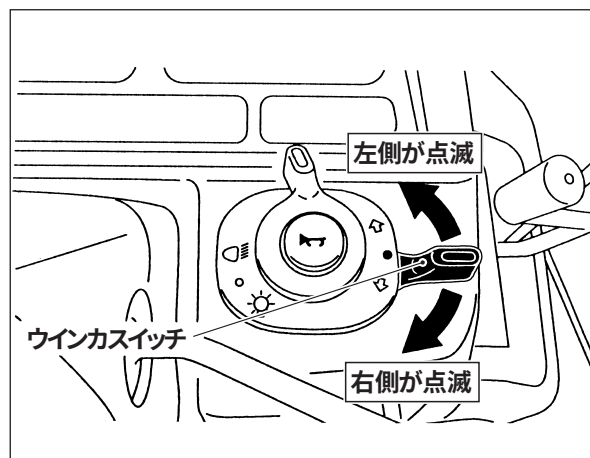
メインスイッチが「入」位置のとき、ライトスイッチを右方向に回すとライトが点灯します。



PG0011

■ウィンカスイッチ

メインスイッチが「入」位置のとき、旋回する側の矢印方向にウィンカスイッチを回すと、ウィンカとウィンカパイロットランプが点滅し、旋回方向を知らせます。



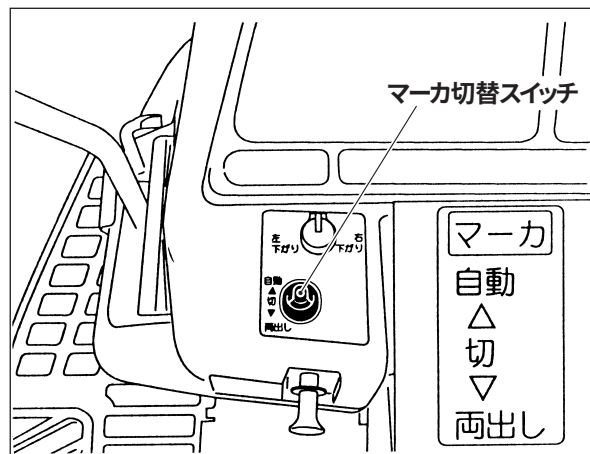
PG0012

■マーカ切替スイッチ

自動 …… 線引マーカが交互に出るようになります。このとき、オートマーカモニターランプが点滅している側のマーカが出ます。

切 …… 線引マーカは出ません。

両出し …… 左右の線引マーカが同時に出ようになります。このとき、オートマーカモニターランプは左右とも点灯します。



PG0013

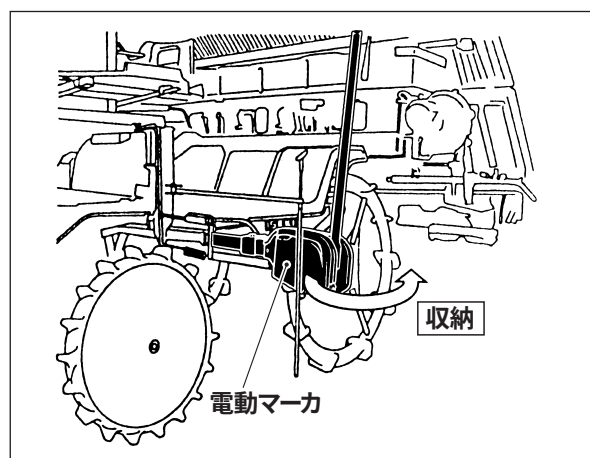
■電動マーカ

植付部に連動し、線引きマーカを電動にて作動させます。

補 足

- 電動マーカ下降時、障害物等で電動マーカが降りないときは、自動でもとの位置に復帰します。
- 電動マーカ上昇時、障害物等で電動マーカが上がらないときは、モータの保護機能がはたらき、モータが停止します。

保護機能がはたらいた時は、障害物を取り除いてください。また復帰には30秒程度時間がかかるため、電動マーカは作動しません。



PG0014

■電動マーカ左右切替スイッチ

植付部が「下」のときに、このスイッチを押すとマーカの出る方向が交互に入れ替わります。

■電動マーカ高さ調節スイッチ

植付部が「下」のときに、このスイッチを操作するとマーカの高さを変えることができます。

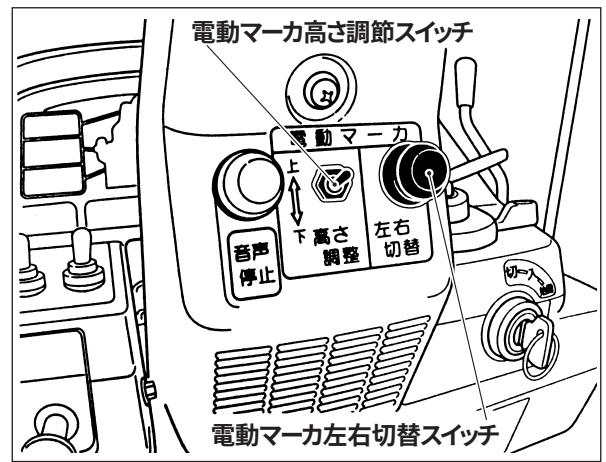
ほ場の条件により、マーカが接地しないときに使用してください。

補 足

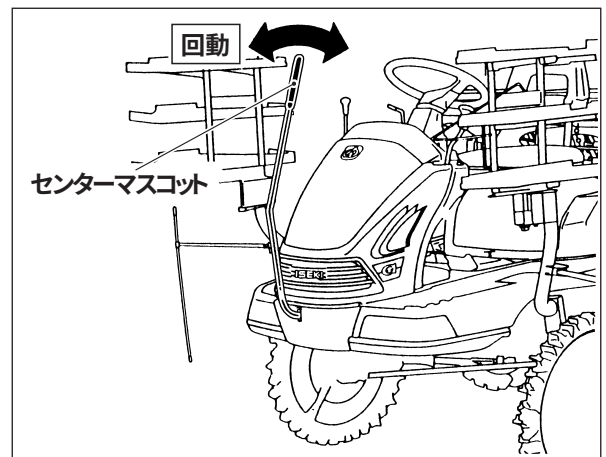
- 電動マーカ高さ調節スイッチにて調節したマーカの高さは、メインスイッチを「切」にするまで保持され、再度「入」にすると工場出荷時の高さにもどります。

■センターマスコット

- (1) 苗のせ台の苗が一定量までなくなると点滅します。
- (2) 植付クラッチ「止まる」時け点滅しません。
線引マーカの引いた跡に合わせて植付けると、適正な隣接条間が保て、直進の目安になり楽に直進できます。
- (3) センターマスコットは、前後に回動しますので、見やすい位置にセットしてください。



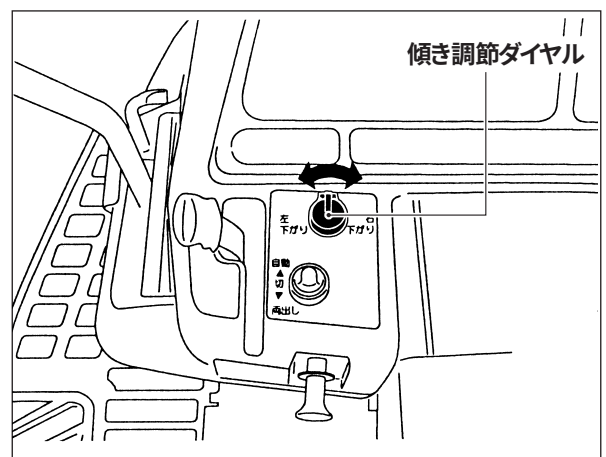
PG0015



PG0016

■傾き調節ダイヤル

- (1) 植付中、左右どちらかが浮ききみ、または沈みきみ傾向のときにこのダイヤルで調整します。
- (2) 「中央」位置が植付部の水平位置です。通常はこの位置で作業します。
- (3) ダイヤルを右に回すと右下がりに、左に回すと左下がりに植付部の傾きを調節できます。
- (4) あぜぎわなどで、少し傾けて植え付けたいときにも使用します。



PG0017

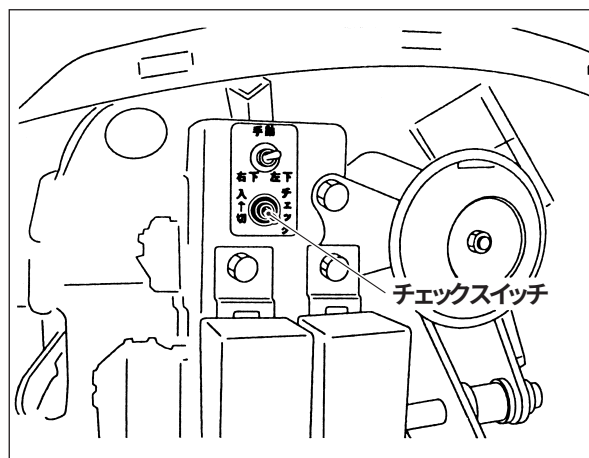
3. 各部の名称とはたらき

■チェックスイッチ

- (1) 「入」にすると各センサーの故障がチェックできます。このとき、自動制御は作動しません。
- (2) 通常作業中は、「切」で使用してください。

補 足

- チェックスイッチは、ボンネット内にあります。



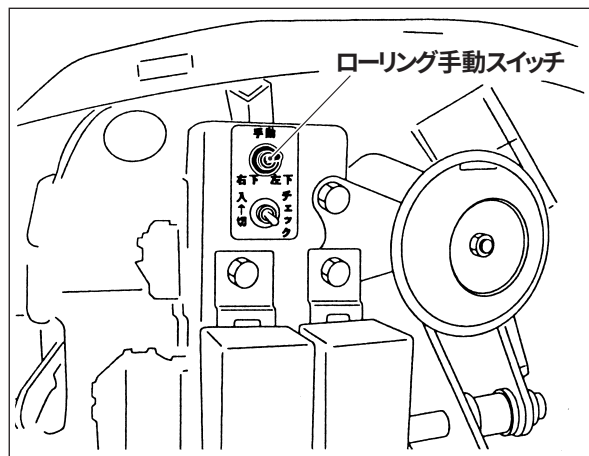
PG0018

■ローリング手動スイッチ

スイッチを右に操作すると、植付部が右下がり方向に動くように、左に操作すると左下がり方向に動くように油圧ローリングが作動します。

補 足

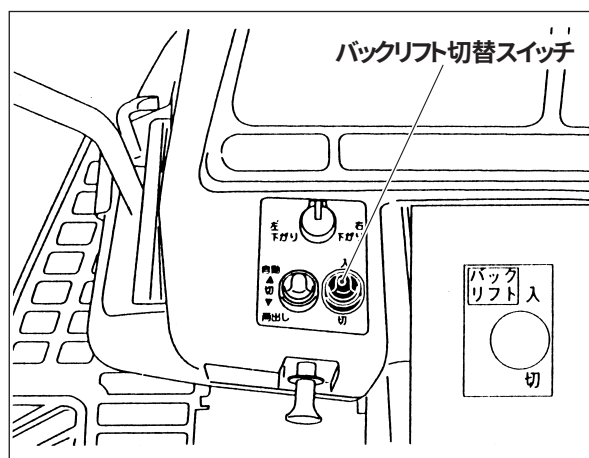
- ローリング手動スイッチはボンネット内にあります。



PG0019

■バックリフト切替えスイッチ

- (1) 「入」にするとバックリフトが作動します。
- (2) 「切」にするとバックリフトは作動しません。

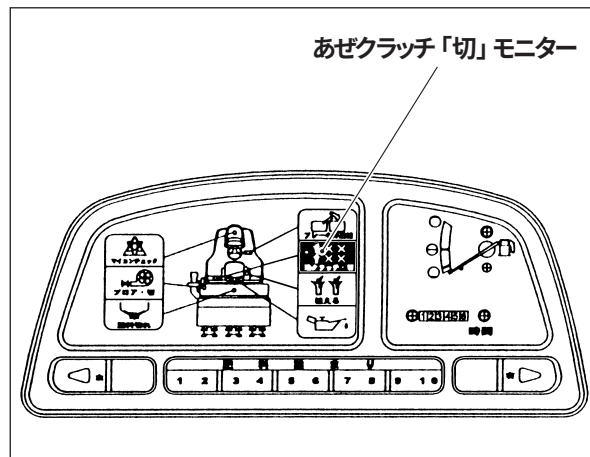


PG0020

3.2.2 計器のはたらき

■あぜクラッチ「切」モニター

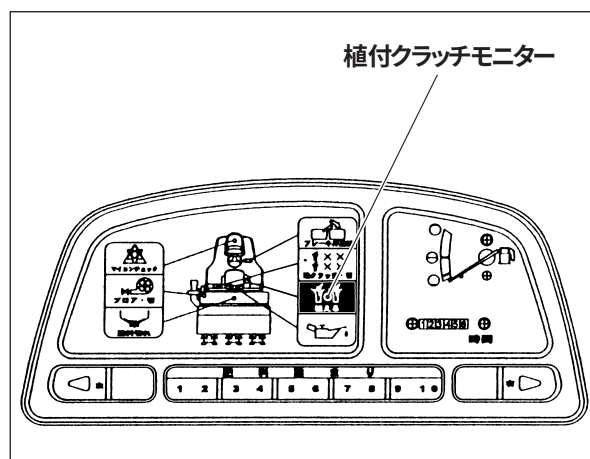
植込杆停止レバーが「切」位置のときに点灯します。



PG0021

■植付クラッチモニター

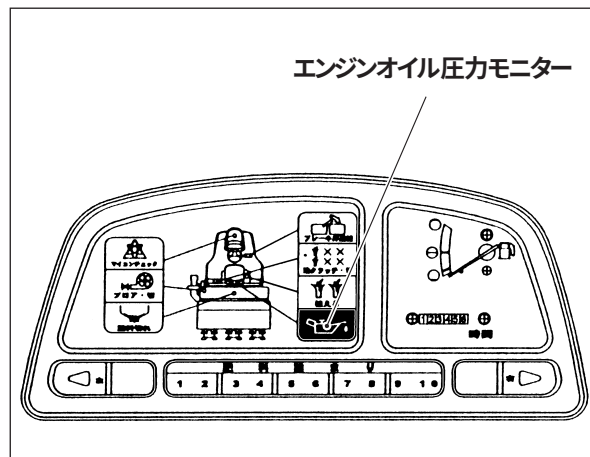
らくらくレバーで植付クラッチを「入」にしたとき点灯します。



PG0022

■エンジンオイル圧力モニター

エンジン回転中、オイル潤滑系統が異常のとき点灯します。点灯したままのときは、エンジンオイル量及びオイル潤滑系統を点検してください。



PG0023

3. 各部の名称とはたらき

■ブレーキ非連結モニター

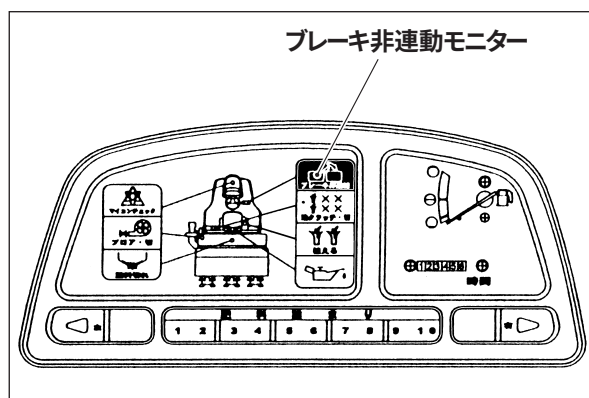
⚠ 警告



田植作業以外のときは、必ず左右のブレーキペダルを「連結」してください。また、ブレーキは必ず左右同時にきくよう定期的に点検してください。

※ 連結を忘れると、ブレーキが片ぎきして転倒事故を引き起こす恐れがあります。

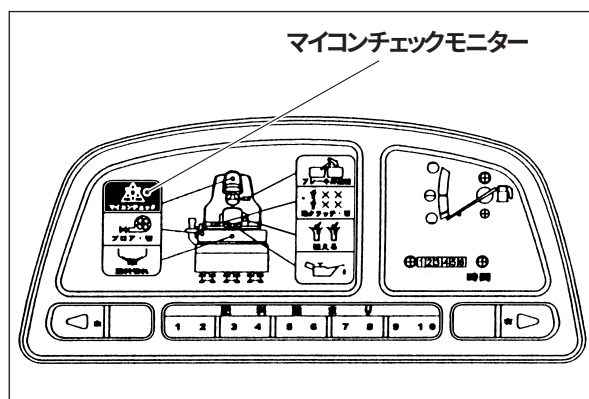
ブレーキペダルの連結金具が連結されていないときに点灯します。



PG0024

■マイコンチェックモニター

- (1) チェックスイッチを「入」にすると点灯します。
- (2) 各センサーの回路が断線したときには点滅します。

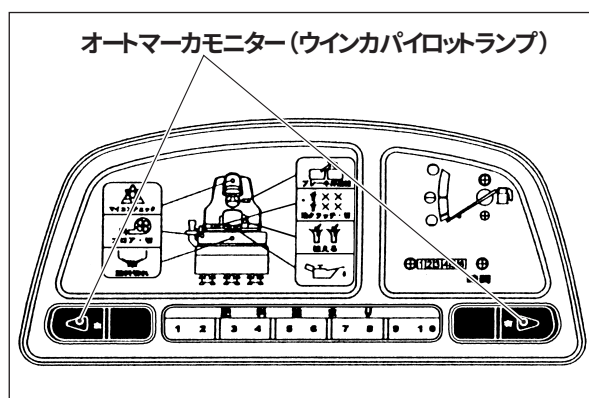


PG0025

■オートマーカモニター (ウインカパイロットランプ)

モニターランプが点灯している側の線引きマーカが出ます。

(ウインカ点滅と同時に点滅します。)



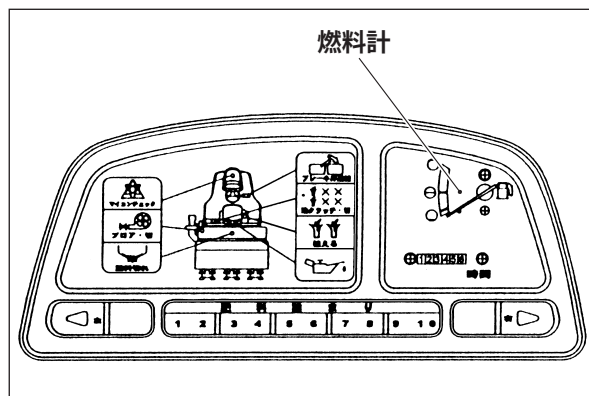
PG0026

■燃料計

ガソリンの残り量を表示します。

- 燃料満量
- 燃料1／2残量
- 燃料空

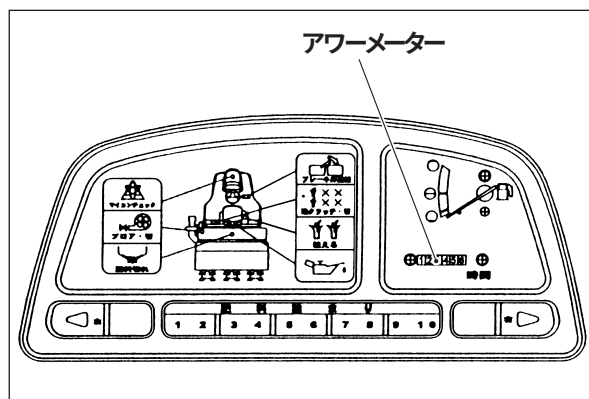
(早めに補給してください。)



PG0027

■アワメーター

運転時間を表示します。



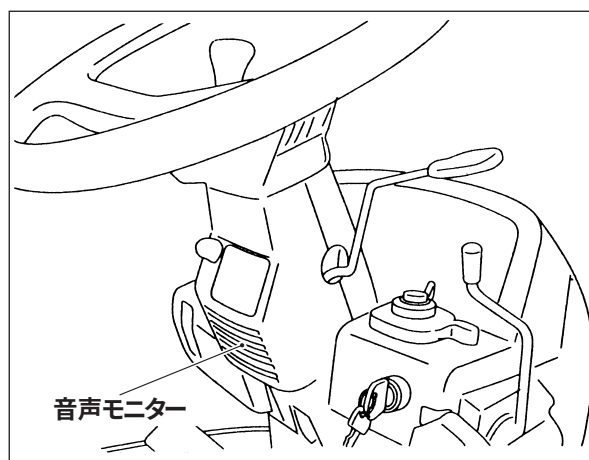
PG0028

3.2.3 音声モニター

この装置は次の2つのはたらきをします。

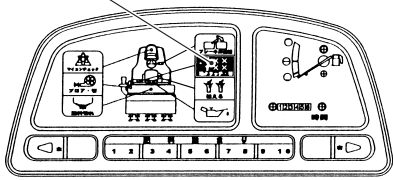
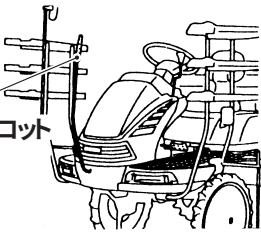
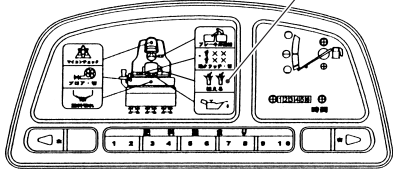
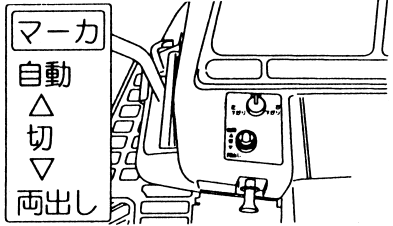
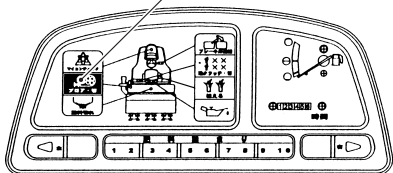
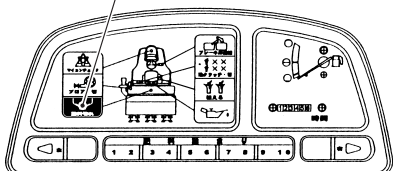
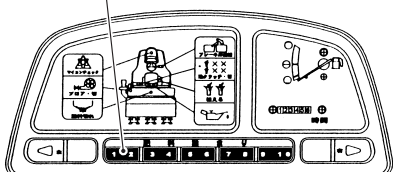
①植付作業中の注意警報

通常の植付作業での（確認）事項をモニターと共に、音声で知らせます。



PG0029

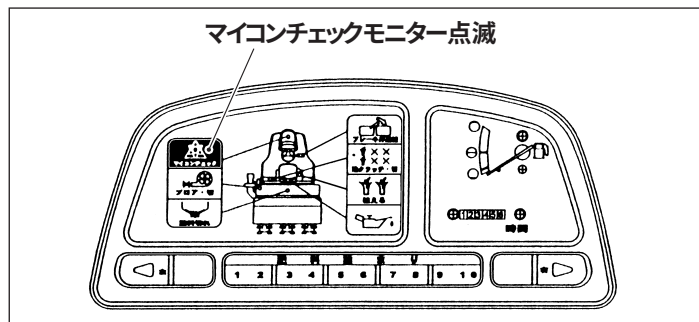
3. 各部の名称とはたらき

	声の内容	モニターの内容	注意（確認）事項
1	ピンポーン アゼクラッチが切れています (2回)	アゼクラッチ「切」モニター点灯 	植込杆停止レバーの「入」「切」を確認してください。 ( 39ページ) (F型は取扱説明書の施肥機編を参照してください。)
2	ピンポーン 苗が少なくなりました (2回)	センターマスコット点滅 	苗残量を確認してください。 ( 89・90ページ)
3	ピンポーン 植付部が回っていません (1回)	植付クラッチモニターが点灯していない 	植付クラッチの「入」「切」を確認してください。 ( 39・40ページ)
4	ピンポーン 線引マーカが出ていません (2回)	マーカ 自動 △ 切 ▽ 両出し 	マーカ切替スイッチを確認してください。 ( 24ページ)
5	ピンポーン ブローアが回っていません (2回) (F型)	ブロー・切モニター点灯 	ブロースイッチの「入」「切」を確認してください。(F型) (詳細は取扱説明書の施肥機編を参照してください。)
6	ピンポーン 肥料がすくなくなりました (2回) (F型)	肥料切れモニター点灯 	肥料残量を確認してください。(F型) (詳細は取扱説明書の施肥機編を参照してください。)
7	ピンポーン 肥料詰まりを確認してください (2回) (F型)	肥料詰まりモニター点滅 	肥料詰まりを確認し、原因を取り除いてください。(F型) (詳細は取扱説明書の施肥機編を参照してください。)

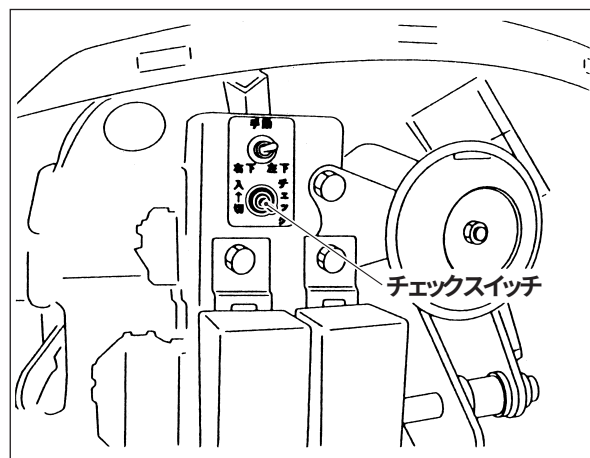
PG0030

② 異常のあるセンサーの音声警報

各センサーの異常により、マイコンチェックモニターが点滅しているときにチェックスイッチを「入」にすると、異常のあるセンサー名称を音声で知らせます。



PG0031

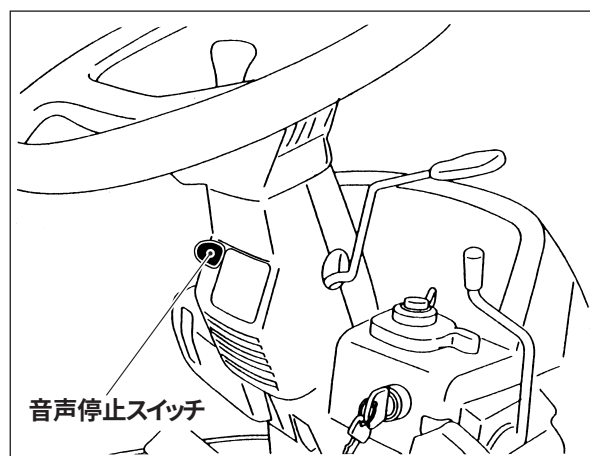


PG0032

	声の内容	処 置
1	ピンポン リンクスイッチを点検してください。	センサー、スイッチの点検または、配線の修復を必要とする故障と考えられますので、最寄りの販売店にご連絡ください。
2	ピンポン 角速度センサーを点検してください。	
3	ピンポン 傾斜センサーを点検してください。	
4	ピンポン ローリングセンサーを点検してください。	
5	ピンポン レバーセンサーを点検してください。	

■音声停止スイッチ

- スイッチを押すと再生されている音声警報が停止します。
再生する音声が複数ある場合は、音声停止スイッチをはなしてから2秒後より次の音声を再生します。
- スイッチを約3秒間押し続けることにより、すべての音声警報を一時的に停止することができます。
(メインスイッチを「切」にし、再度「入」にすることによりもとの状態にもどります。)



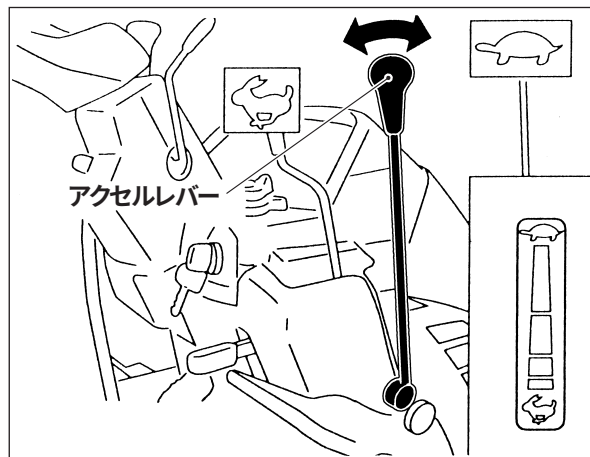
PG0033

3.3 レバー、ペダル、シート関係の取扱い

3.3.1 アクセルレバーとアクセルペダル

■アクセルレバー

レバーを手前に引くとエンジン回転が上がります、前方に押すと下がります。



PG0034

■アクセルペダル

踏み込むとエンジン回転が上がります。



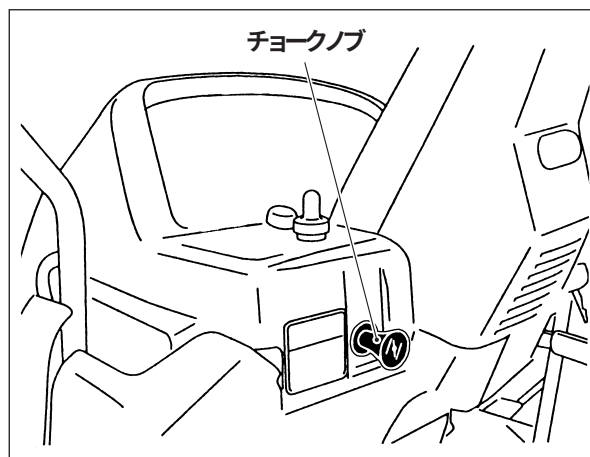
PG0035

■チョークノブ

エンジンが冷えている状態で始動するときは、ノブをいっぱい引いてください。

補足

- 始動時以外は、使用しないでください。



PG0036

3.3.2 主クラッチペダル

警告



田植作から離れて作業する場合は、主クラッチペダルをいっぱい踏み込み、ロックしてください。

※ これを怠ると、田植機が自然に動き出す恐れがあり、重大な傷害事故を引き起こす原因となります。

ロック解除ペダルを踏まずに主クラッチペダルのみをいっぱい踏み込むとクラッチが切れた状態でロックされ、主クラッチペダルとロック解除ペダルを同時に踏み、足を離すとクラッチがつながります。

補足

- 主クラッチペダルは、切るときは早く、つながるときはゆっくりと操作してください。
- エンジン始動時は踏込まないとエンジンが始動しません。



PG0037

3.3.3 ロック解除ペダル

- (1) 主クラッチペダルのロックを解除させるペダルです。
- (2) 変速切り替え時等々、主クラッチペダルをロックさせたくないときは、主クラッチペダルとロック解除ペダルを同時に踏んでください。



PG0038

3.3.4 ブレーキペダル

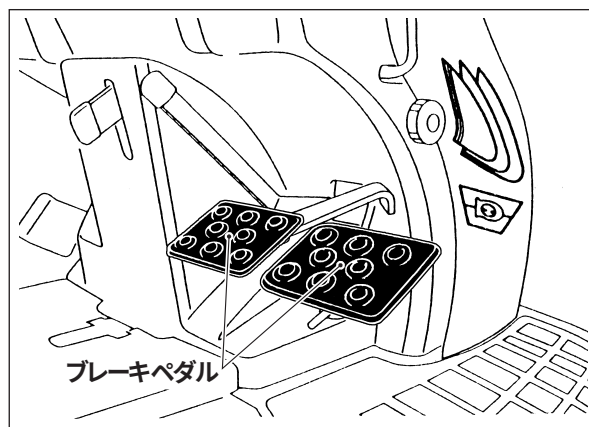
⚠ 警告



田植作業以外のときは、必ず左右のブレーキペダルを「連結」してください。また、ブレーキは必ず左右同時に効くよう定期的に点検してください。

※ 連結を忘れると、ブレーキが片働きして転倒事故を引き起こす恐れがあります。

- (1) 左側のペダルを踏込むと左後輪に、右側のペダルを踏込むと右後輪にブレーキがかかります。
- (2) 旋回する側のペダルを踏込んでください。



PG0039

3.3.5 駐車ブレーキレバー

⚠ 注意



駐車時、停止時には必ず駐車ブレーキを確実にかけてください。

※ 守らないと、田植機が自然に動き出し大変危険です。



駐車ブレーキをかけたまま走行しないでください。

※ ブレーキを傷めます。

- (1) 田植機を駐停車させておく為のレバーです。
- (2) 連結金具で左右のペダルを継いだ後操作してください。

補足

- 駐車ブレーキレバーをかけたまま走行すると、ブレーキを傷めます。



PG0040

3.3.6 主変速レバー

警告



田植機から離れるときや点検のときは、必ずエンジンを止め、駐車ブレーキをかけ、キーを抜いておいてください。

※ これを怠ると、田植機が自然に動き出す恐れがあり、傷害事故を引き起こす原因となります。



苗を補給するときは、主クラッチペダルをロックし、主変速レバーを「中立（PTO）」、植付クラッチを「切」にしてください。

※ これを怠ると、田植機が自然に動き出す恐れがあり、傷害事故を引き起こす原因となります。

注意

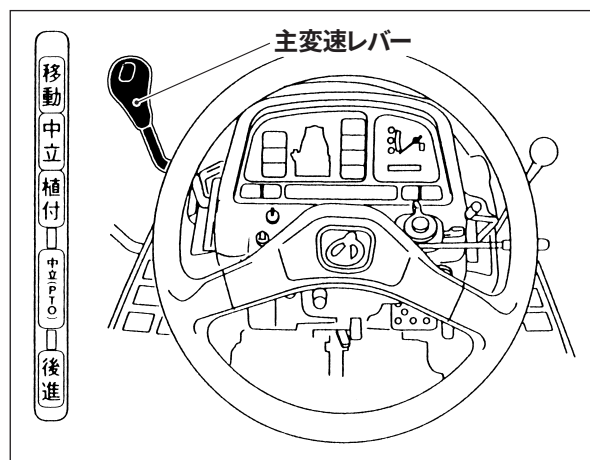


主変速レバーは、主クラッチペダルを踏み、田植機が完全に停止してから操作してください。

※ 走行中に変速するとミッションの損傷につながります。

- (1) 変速を行うレバーです。
- (2) 後進位置にすると植付部が上昇します。

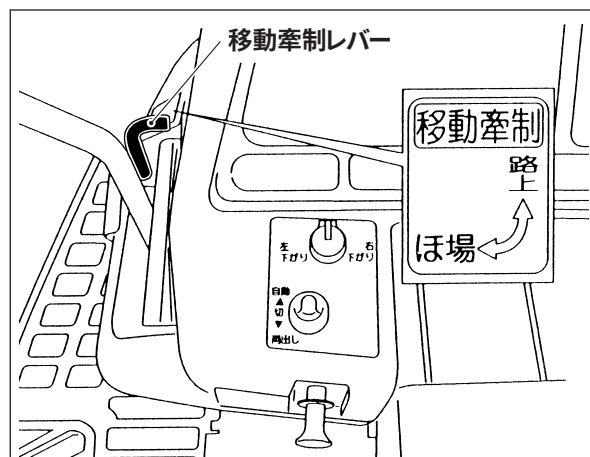
※ バックリフト切替スイッチが「切」位置のときには上昇しません。



PG0041

3.3.7 移動牽制レバー

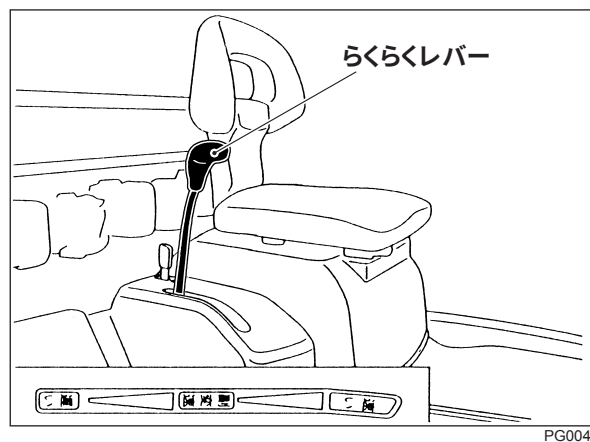
- (1) 植付作業時、牽制レバーを「ほ場」にすることにより、主変速レバーが「植付」⇔「後進」のみの操作になり、変速が容易になります。
- (2) 「移動」及び「中立PTO」位置にする場合は、牽制レバーを「路上」にしてください。



PG0042

3.3.8 らくらくレバー

- (1) 車速を変更するレバー
- (2) レバーを前方に押すと増速、後方に引くと減速します。



3.3.9 超低速レバー

警告



田植作業には使用しないでください。

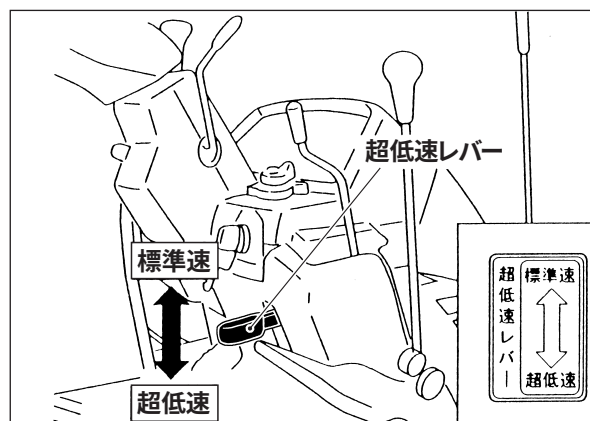
※ 守らないと、ミッションの損傷につながるおそれがあります。



超低速レバーは、主クラッチペダルを踏み、田植機が完全に停止してから操作してください。

※ 走行中に切り替えるとミッションの損傷につながります。

トラックなどへの積み降ろしや、ほ場へ出入りするときなど超低速が必要なときに使用するレバーです。



3.3.10 前輪デフロックペダル

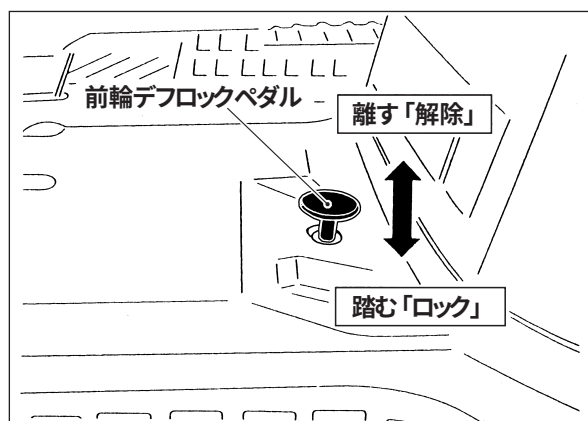
警告



田植作業以外のときは、必ず前輪デフロックペダルが解除してあるか確認してください。

※ これを怠ると、衝突・転落事故を引き起こす恐れがあります。

- (1) ペダルを踏み込むと左右前輪の回転が同じになります。
- (2) 畦越え時や旋回時に前輪がスリップする場合に使用します。



PG0045

3.3.11 チルトペダル

警告



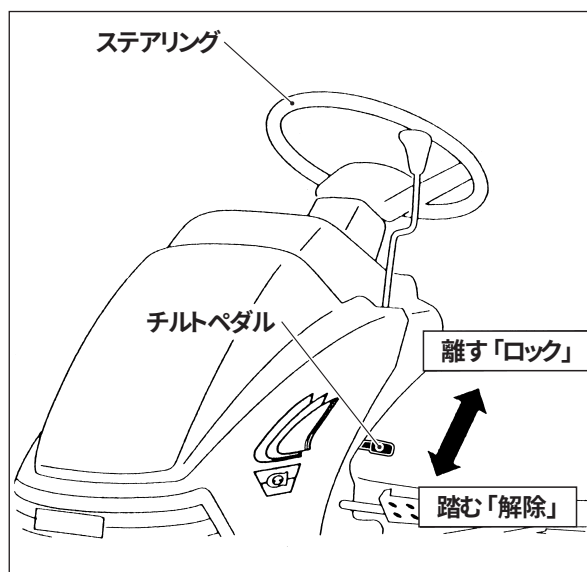
チルトの調節は停止中に行ない、走行中は調節しないでください。

※ 走行中に調節すると、正常な運転ができなくなり、重大な傷害事故を引き起こす恐れがあります。

- (1) ステアリング角度を変更する時に使用するペダルです。
- (2) ステアリング角度は3段階に選べます。

補足

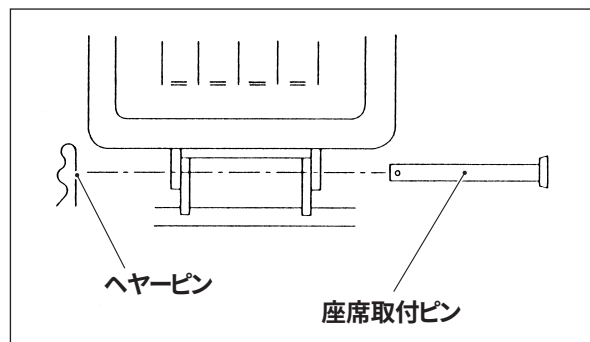
- 下記の要領で作業しやすい位置に調節してください。
 - (1) チルトペダルを踏み込んだままステアリングを前後に動かして、運転しやすい位置にステアリングを合わせます。
 - (2) チルトペダルから足を放し、ステアリングを少し前後に動かすとステアリングが固定されます。



PG0046

3.3.12 座席の調節

作業しやすい位置になるように、座席のピン差し込み位置を変更してください。



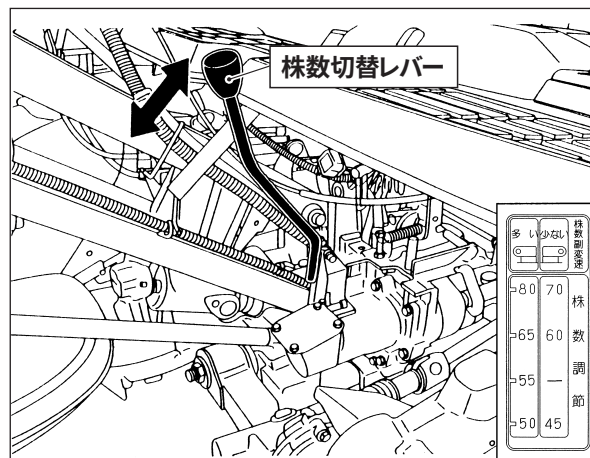
PG0047

3.3.13 スーパーくるっとターン

- (1) ステアリングをいっぱい回すことにより、旋回する内側の後輪の駆動力を自動的に切り、旋回しやすくします。
- (2) 旋回する側のブレーキペダルを踏むことにより、さらに小さく旋回することができます。

3.3.14 株数切替レバー

- (1) 植付株数の切り替えをするレバーです。
- (2) レバーの左右操作により植付株数が変わります。



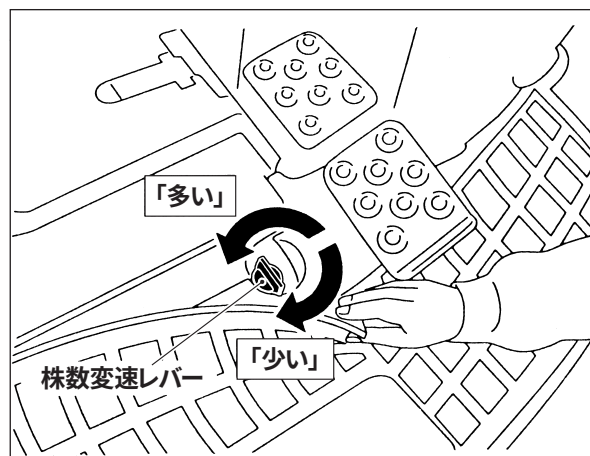
PG0048

3.3.15 株数副変速レバー

- (1) 植付株数の切り替えをするレバーです。
- (2) レバーを回すことにより植付株数が変わります。

補足

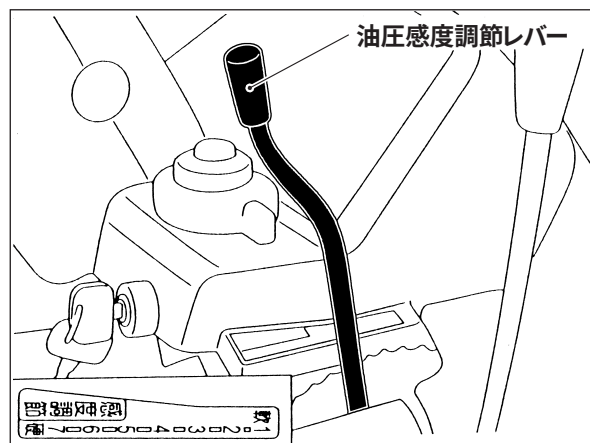
- ご希望の植付株数になるように、株数切替レバー及び株数副変速レバーを、表示ラベルの株数の位置に合わせてください。



PG0049

3.3.16 油圧感度調節レバー

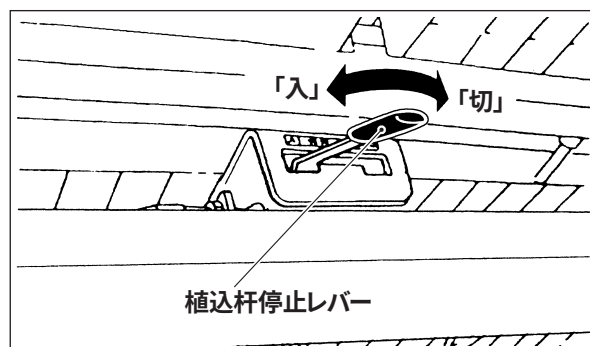
ほ場の硬軟に応じて油圧感度を変更することができます。



PG0050

3.3.17 植込杆停止レバー

- (1) 2条毎の植付けを停止させるレバーです。
- (2) 植えじまいの植付条数の調整や変形ほ場での植付時に使用します。

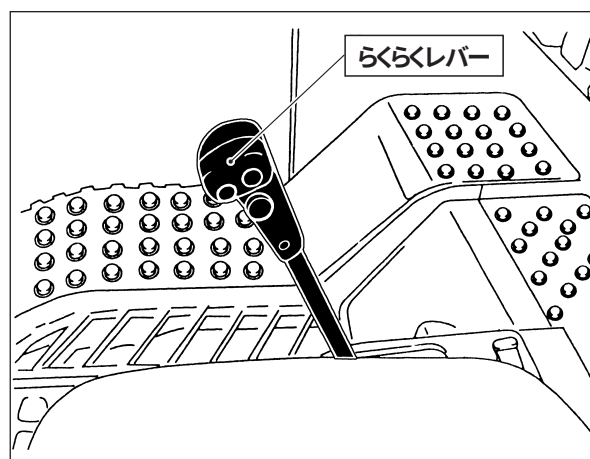


PG0051

3.3.18 らくらくレバー (3つのボタン)

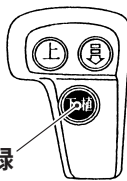
このボタンは、次のはたらきをします。

- ① 植付部の上昇
らくらくレバーの上ボタン(黄色)を押すと植付部が上昇します。
このとき、植付クラッチは「切」となります。
- ② 植付クラッチの「入」、「切」
植付部が下降している時、らくらくレバーの下ボタン(緑色)を押すと、植付クラッチは、「入」、「切」を交互に繰り返します。
- ③ 線引マーカの左右セット方向切替え
オートマーカスイッチが「入」のとき、らくらくレバーの上ボタン(黄色)を押す度に、線引マーカのセット方が左右交互に切り替わります。
- ④ 植付部を任意の高さにする時
らくらくレバーのボタン(黒色)を押しているあいだのみ植付部が下降しますので、バック畦等に寄せる時楽に行なえます。



PG0052

3. 各部の名称とはたらき

操作	はたらき					
らくらくレバー	植付部		植付クラッチ		オートマーカ	
	上昇しているとき	上昇のまま	「切」のまま		(L)のとき	(R)セット
					(R)のとき	(L)セット
	上昇中	上昇停止	「切」のまま		そのまま	
	下降しているとき	上昇する	(入)のとき	切れる	(L)のとき	(R)セット
(切)のとき			「切」のまま	(R)のとき	(L)セット	
	上昇しているとき	下降する	「切」のまま		(L)のとき	(L)マーカ出る
					(R)のとき	(R)マーカ出る
	下降しているとき	下降のまま	(入)のとき	切れる	そのまま	
			(切)のとき	入る		
	上昇しているとき	下降する	「切」のまま		そのまま	
	下降しているとき	下降のまま	(入)のとき	「入」のまま		
			(切)のとき	「切」のまま		

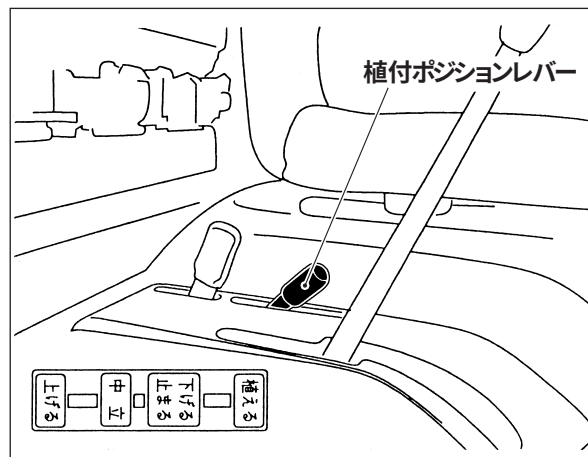
PG0053

3.3.19 植付ポジションレバー

植付ポジションレバーはフィンガーアップレバーと連動し、モーターの力で自動的に動いて、植付状態を表示します。

補足

- 非常時には手動に切替えることができます。
(117・118ページ)



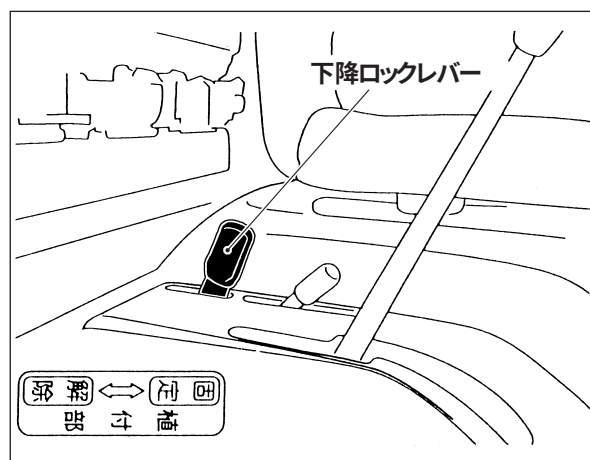
PG0054

3.3.20 下降ロックレバー

このレバーを「固定」位置にすると、フィンガーアップレバーを「下げ」にしても植付部は下降しません。

補足

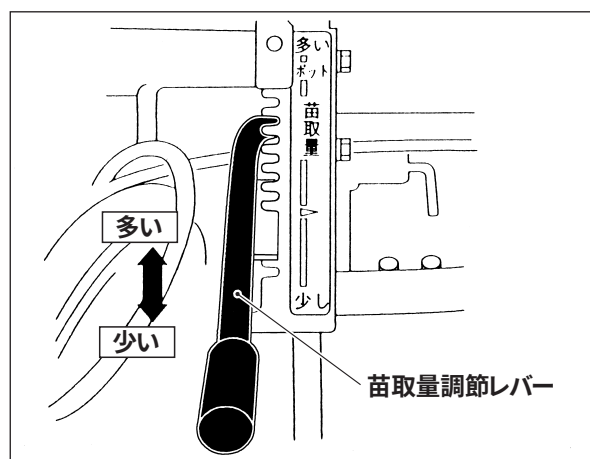
- 植付作業中は、「解除」で使用してください。



PG0055

3.3.21 苗取量調節レバー

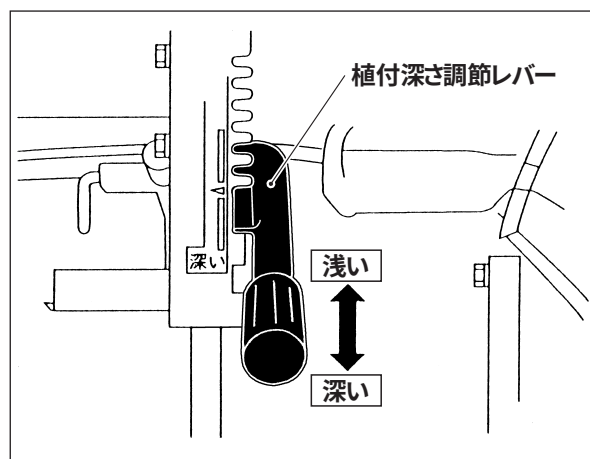
- (1) 全条の苗取量を一度に調節するレバーです。
- (2) レバーを上の方の溝にセットすると苗取量は多くなり、下の溝にセットすると苗取量は少くなります。



PG0056

3.3.22 植付深さ調節レバー

- (1) 植付深さを調節するレバーです。
- (2) レバーを上の方の溝にセットすると浅植えとなり、下の溝にセットすると深植えとなります。



PG0057

3.3.23 横送り切替レバー

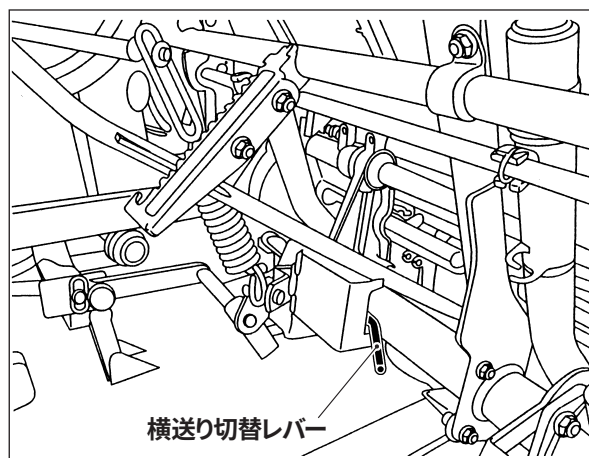
⚠ 注意



切替えはエンジンを停止して行なってください。

※ これを怠ると、作業機を破損したり、重大な傷害事故を引き起こす原因になります。

横送り量の切替えを行なうレバーです。



PG0058

3.3.24 ナエオサエ

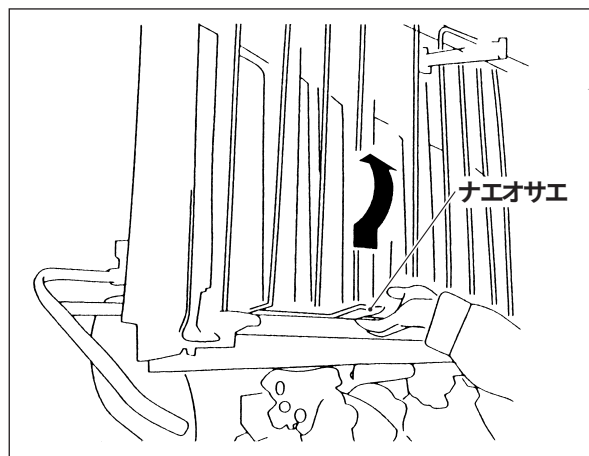
⚠ 注意



苗の取り出しは、エンジンを停止して行なってください。

※ 守らないと、重大な傷害事故を引き起こすおそれがあります。

残り苗を取り出す時に、ナエオサエを上引き上側に回すと苗が取り出しやすくなります。



PG0059

3.3.25 苗STOPパ

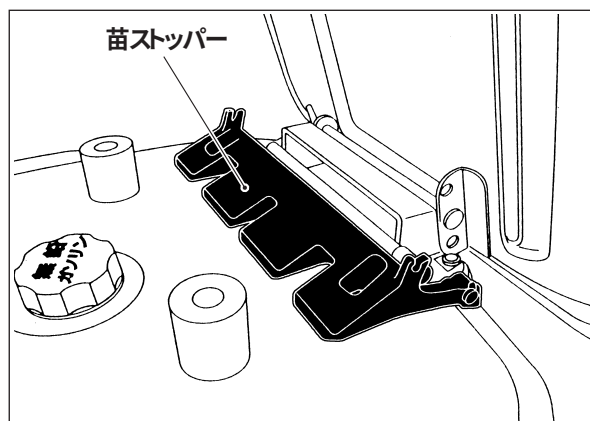
⚠ 注意



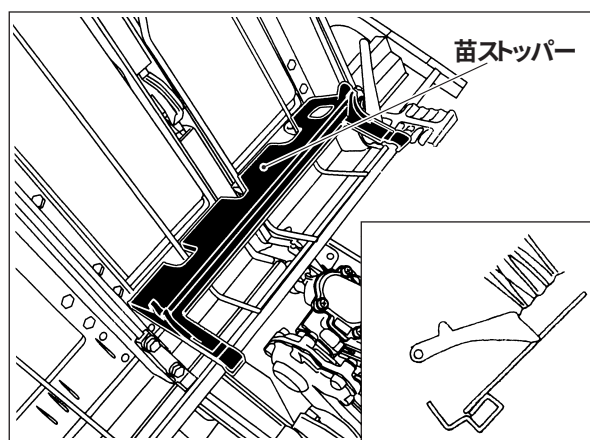
苗STOPパを使用した後は、必ず苗押えから取り外し、座席下に収納してください。

※ 守らないと、苗STOPパが後方に倒れて植込杆と接触し、部品を破損するおそれがあります。

- (1) 1条毎に植付けを停止したい時に使用します。植込杆停止レバーと組合わせて使用してください。
- (2) 苗STOPパは右図のようにシートに取付けてあります。使用の際に取り外してナエオサエに装着してください。



PG0060



PG0061

3.3.26 植付補助レバー

- (1) ほ場から出るときに、このレバーを引くと植付部をリフトしても植込杆が回りますので、植付しながらほ場から出ることができます。
- (2) レバーを押すと植込杆は止まります。



PG0062

4. 作業前点検

故障を未然に防ぐには、機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。
始業点検は毎日欠かさず行ってください。

⚠ 危険



給油、注油および点検整備は、エンジン等の過熱部分が十分冷えてから行ってください。

※ 守らないと、やけど等の原因となります。



給油、注油および点検整備は、くわえタバコ等の火気厳禁です。

※ 守らないと、火災の原因となります。

⚠ 警告



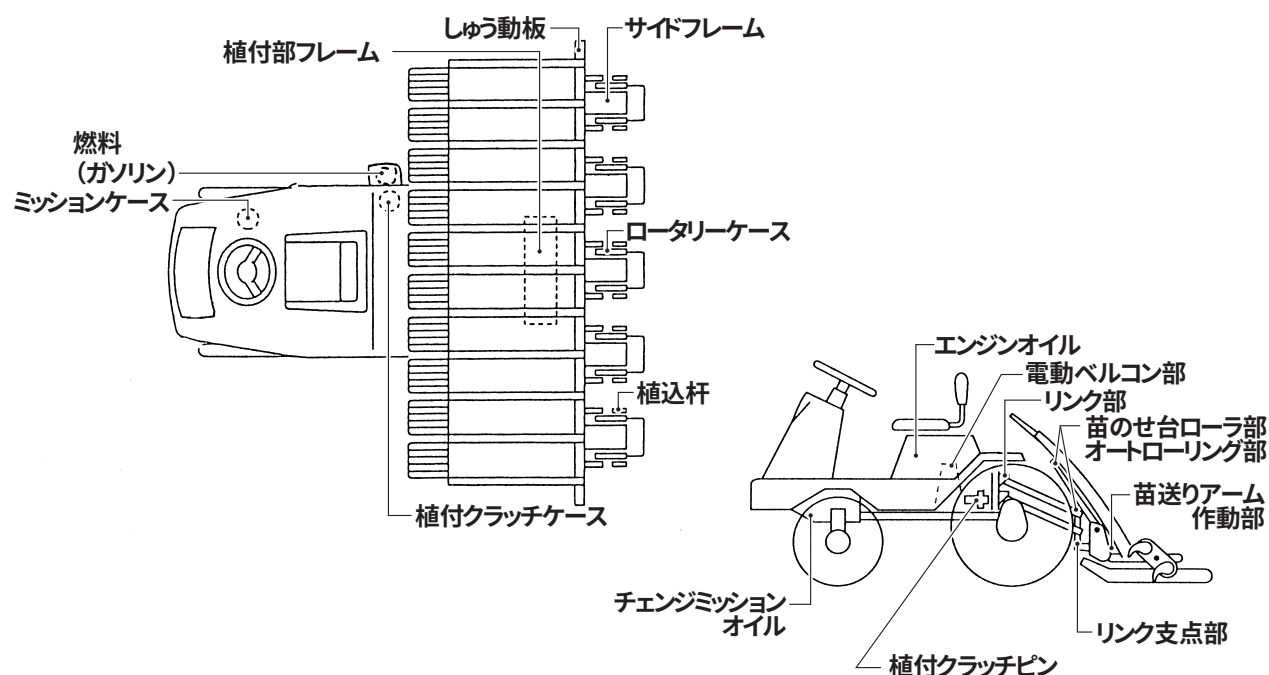
給油、注油および点検整備は、田植機を平たんな広い場所に置いてください。

※ 守らないと、重大な傷害事故を引き起こすおそれがあります。

給油、注油および点検整備するときは、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけ、植付部を降ろすか、下降ロックレバーを「固定」位置にして植付部を固定してください。

※ 守らないと、手や衣服が巻き込まれたり、はさまれたりするおそれがあります。

4.1 給油、注油箇所の点検と補給



PG0063

4.1.1 燃料（無鉛ガソリン）

⚠ 危険



燃料を補給するときは、くわえタバコなどの火気厳禁です。

※ 守らないと、火災の原因となります。



燃料を補給するときは、エンジンを停止し過熱部分が十分冷えてから行ってください。

※ 守らないと、燃料のつぎこぼし等により、火災の原因となります。

燃料をつぎこぼしたときは、きれいにふき取ってください。

※ こぼしたままエンジンを始動すると引火し、火災の原因となります。

■給油

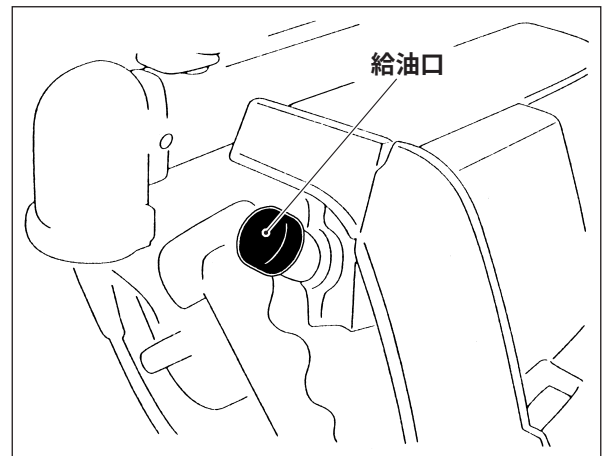
タンクキャップを開け、給油口より給油してください。

燃料は、自動車用無鉛ガソリンを使用してください。

補足

- 燃料タンクの容量は120ページを参照してください。

給油後はタンクキャップを閉めてください。



PG0064

4.1.2 エンジンオイル

⚠ 警告



エンジンオイルの点検・補給は、必ずエンジンを停止し、過熱部分が十分冷えてから行ってください。

※ 守らないと、やけどをするおそれがあります。

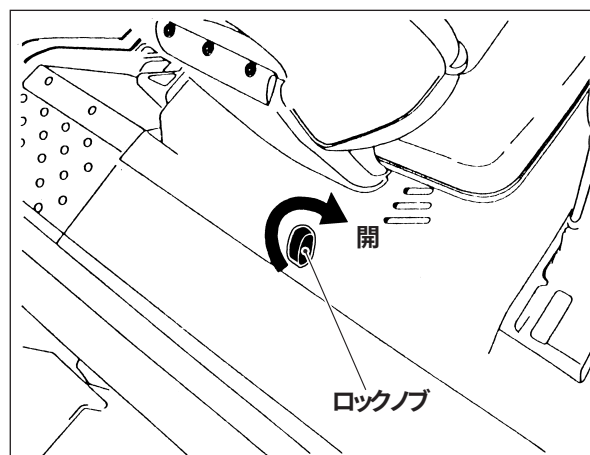
■点検

- (1) エンジンオイル点検時には、エンジンカバーをあけてください。
- (2) オイルレベルゲージの上下刻線の間に油があるか調べます。

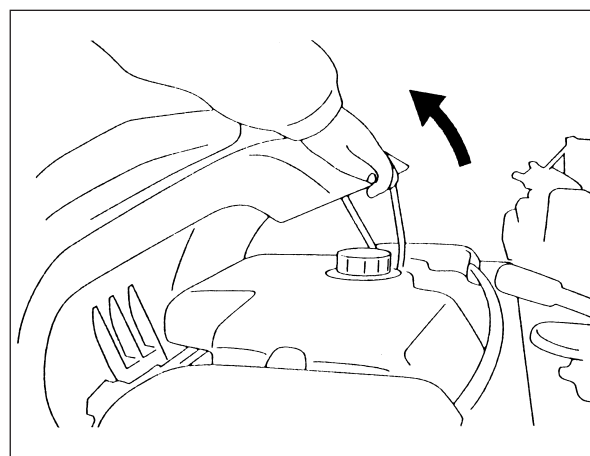
■補給

「下限」以下の場合は、補給してください。
 (キセキ純正オイル 10W30# 又は30#、SE級以上)

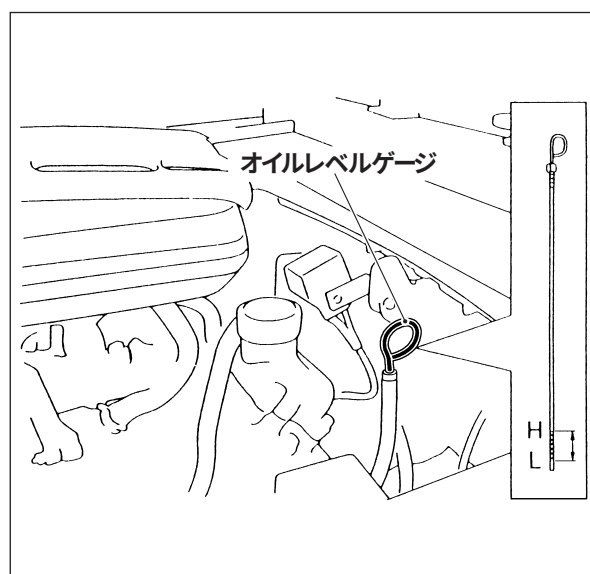
機 種	搭載エンジン	オイル量
PG10	FD620	1.3 ℓ (オイルフィルタ 交換時1.5 ℓ)



PG0065



PG0066



PG0067

4.1.3 冷却水

警告



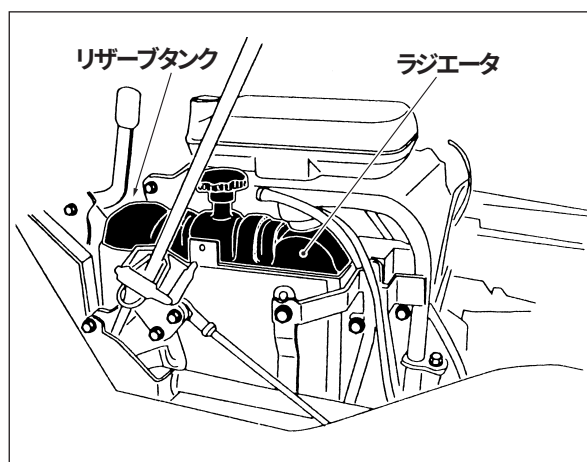
ラジエータキャップは、エンジン運転中および停止直後にあけないでください。

運転停止後10分以上たってよく冷えてから、注意しつつ開けてください。

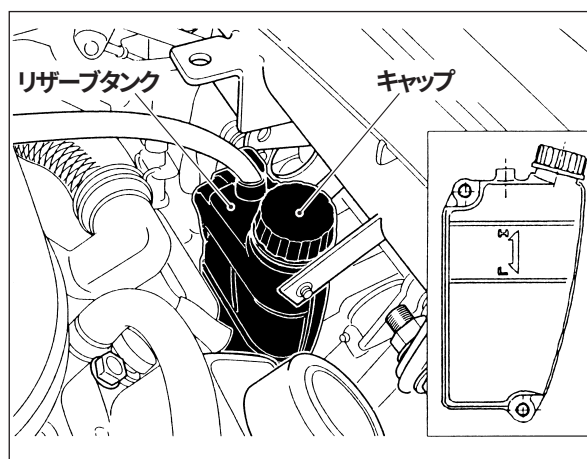
※ これを怠ると、熱湯が噴出してやけどをする危険があります。

点検

- 1 冷却水点検時には、エンジンカバーをあけてください。
- 2 エンジン後部にあるリザーブタンク内の冷却水量が規定範囲内（H⇔L）にあるかどうか点検し、少ない場合は補給してください。
※冷却水が緑色をしている場合は、不凍液が入っています。
- 3 点検後リザーブタンクのキャップを確実に締めて、エンジンカバーを閉じてください。



PG0068

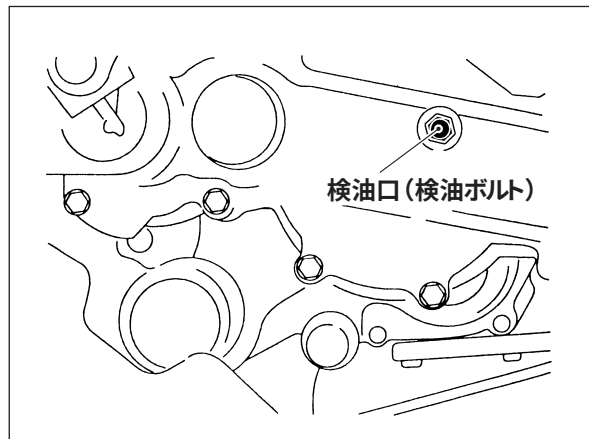


PG0069

4.1.4 チェンジミッションオイル（全型式）

■点検

検油ボルトをはずして、検油口からオイルが出るかを確認してください。



PG0070

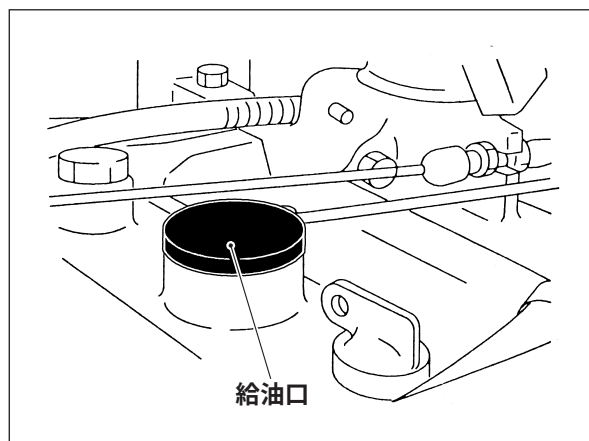
■補給

検油口からオイルが流れ出すまで、給油口から補給してください。

（ギセキハイポイドギヤーオイル80#）

補足

- 給油時・検油時は植付部を最大リフトしてください。



PG0071

4.1.5 植込杆

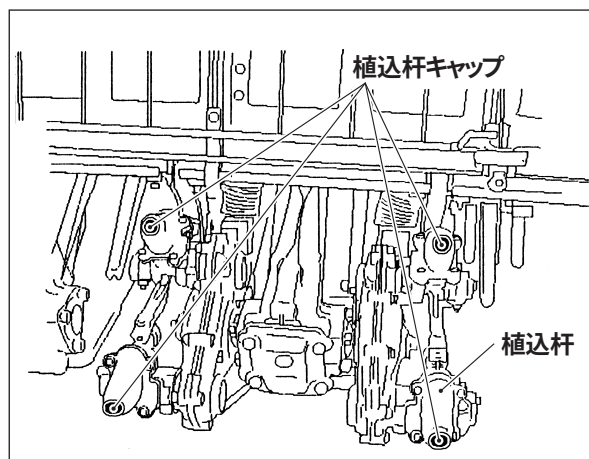
■点検

植込杆キャップをはずし、植込杆の中にグリスがあるかみて下さい。

■補給

グリスを適量、補給して下さい。

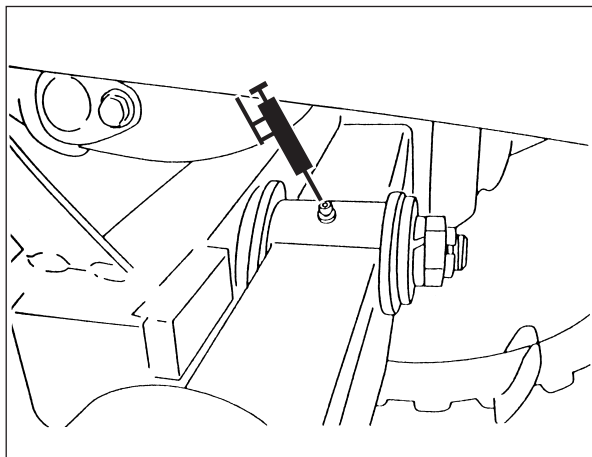
（グリスがほとんどない場合は20cc程）



PG0072

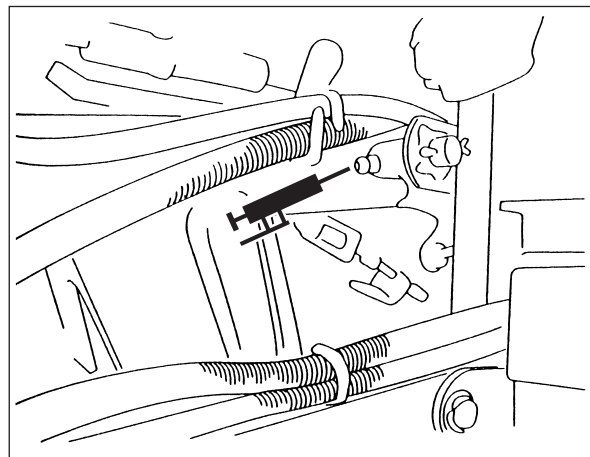
4.1.6 グリース注入箇所（グリースニップル）

■後輪ローリングフレーム支点部



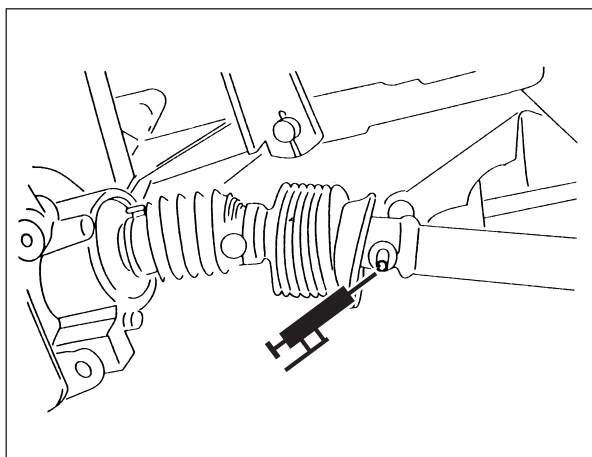
PG0073

■アッパリング支点部



PG0074

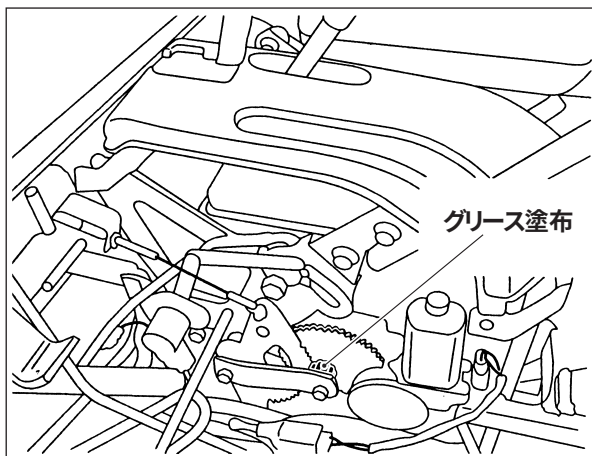
■植付伝導軸六角シャフト



PG0075

4.1.7 グリース塗布箇所

■電動ベルコンギヤ部

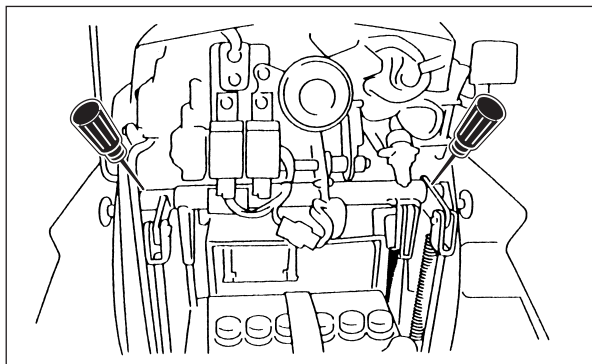


PG0076

4. 作業前点検

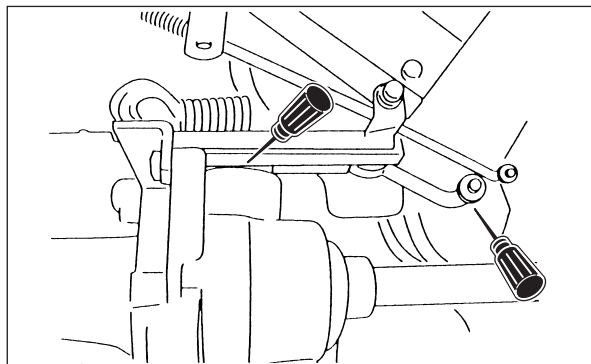
4.1.8 オイル注油個所 (注油箇所には目印として黄色の塗料が塗ってあります。)

■ブレーキペダル、クラッチペダル支点部



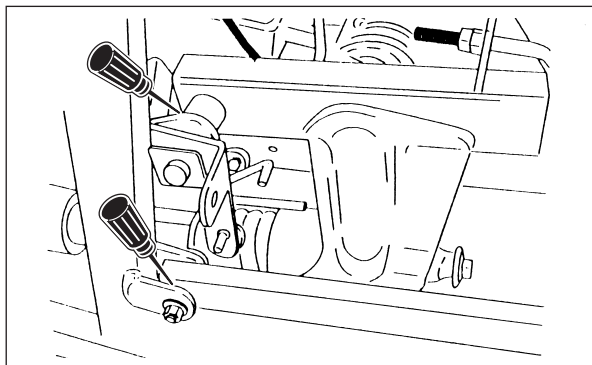
PG0077

■植付クラッチピン作業支点部



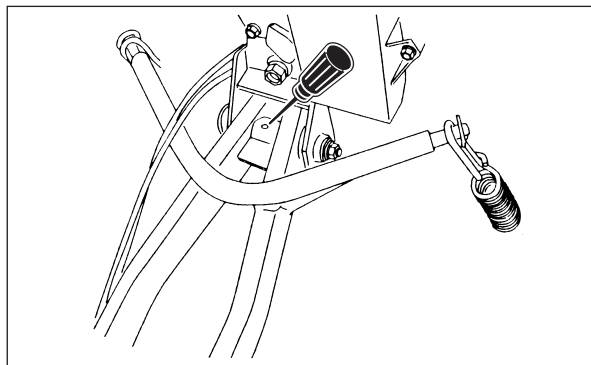
PG0078

■リンク支点部 (前方)



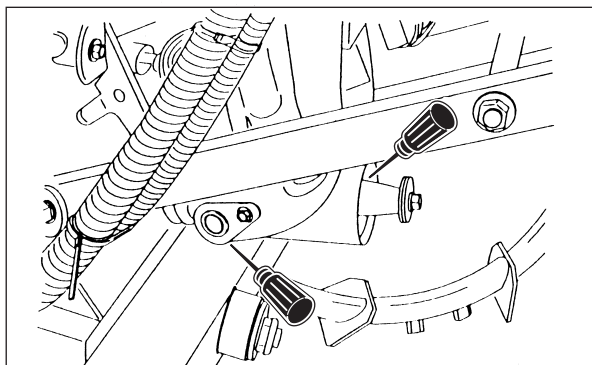
PG0079

■リンク支点部 (後方)



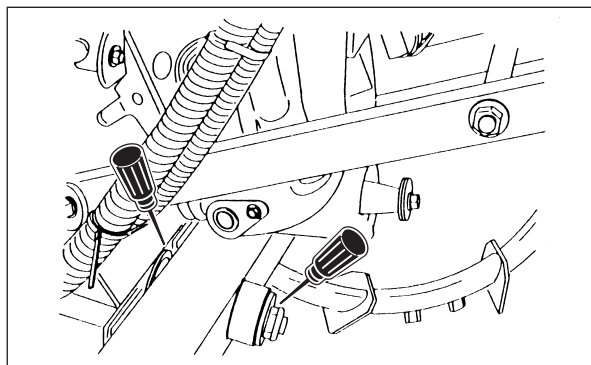
PG0080

■スプリングケース(ピン部 ピストンしゅう動部)



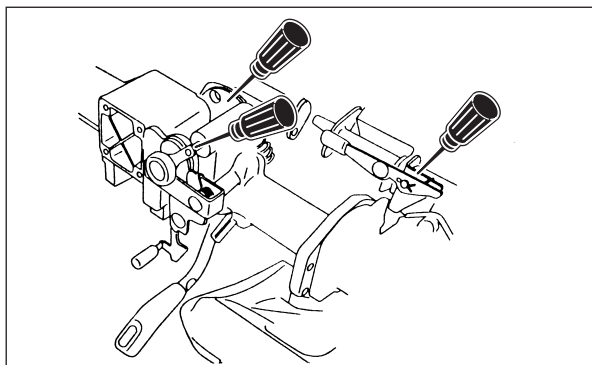
PG0081

■後輪ローリングフレーム支点部



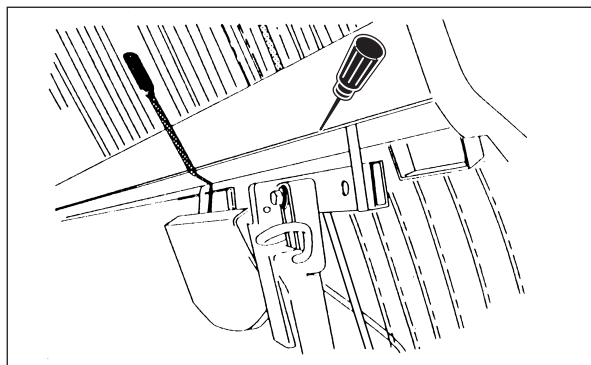
PG0082

■植付部折りたたみ支点部



PG0083

■苗のせ台ローラ部

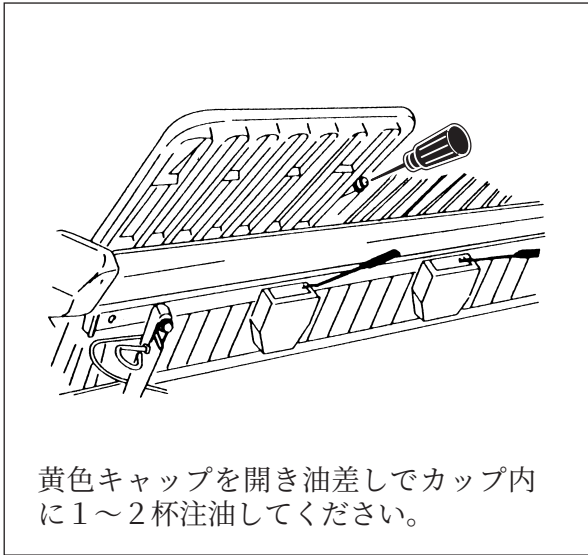


PG0084

補 足

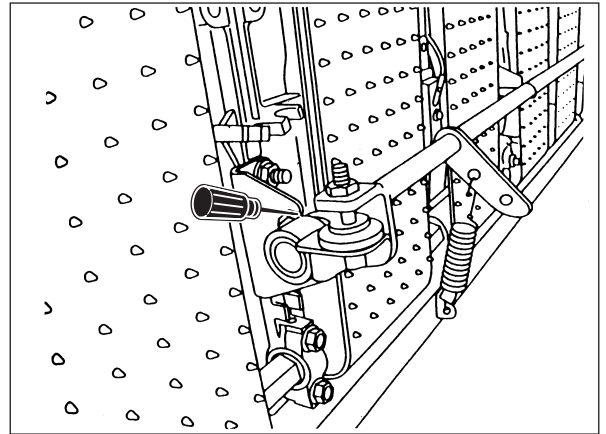
- 下記箇所は特に毎日注油してください。

■しゅう動板（注油ホース付き）

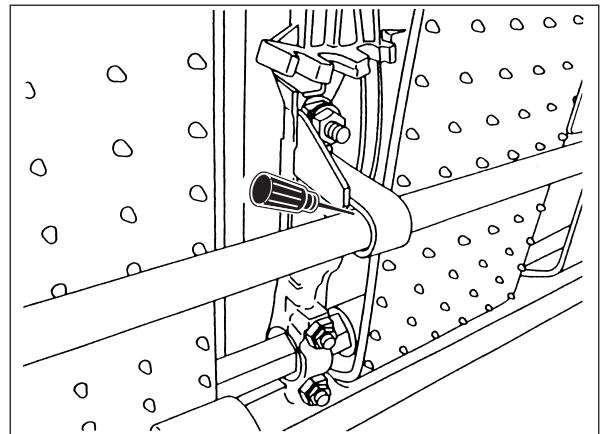


PG0085

■カウンタシャフト軸受け部

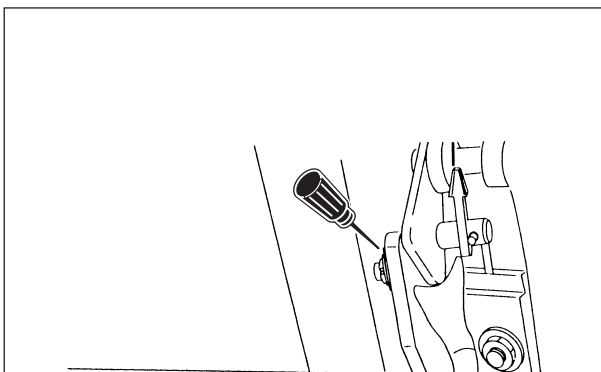


PG0086

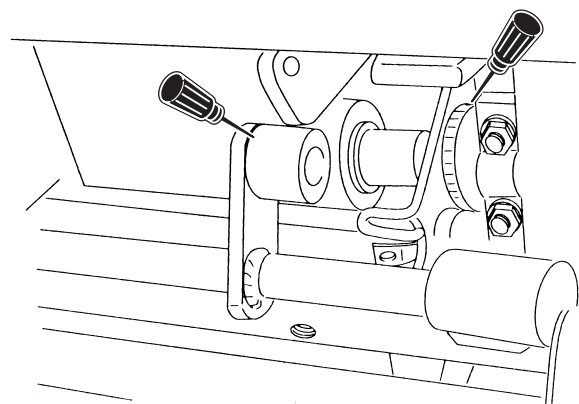


PG0087

■苗送りアーム、カム関係



ラチェットホイール及び回動部に十分注油してください。（左右各1ヶ所づつ）



ローラの注油穴に十分注油してください。（左右各2ヶ所づつ）

PG0088

5. 運転のしかた

警告



始動する前に保護カバー類が取り付けられているか確認してください。

※ カバー類を取り付けてないと、田植機に巻きこまれ傷害事故の原因となります。

室内でエンジンを始動するときは、窓を開けて換気を十分に行ってください。

※ 換気が悪いと排気ガスによる中毒の原因となります。

エンジンを始動するときは、必ず変速レバーやその他レバー類の位置と、周囲の安全を確認してから行ってください。

※ 確認を怠ると、急発進したりして思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

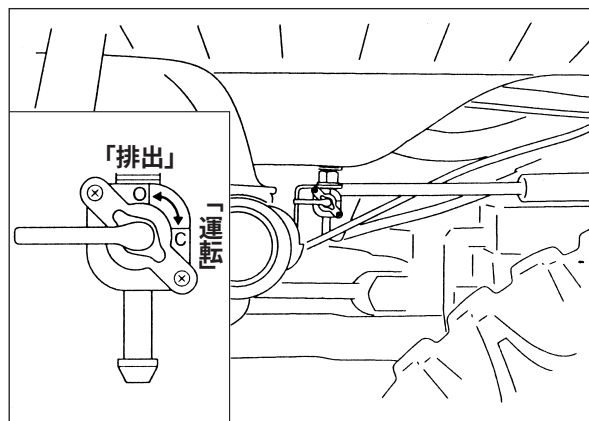
エンジンを始動するときは、周囲の人に「声」をかけ合図してください。

※ 守らないと、重大な傷害事故を引き起こすおそれがあります。

5.1 エンジンの始動と停止のしかた

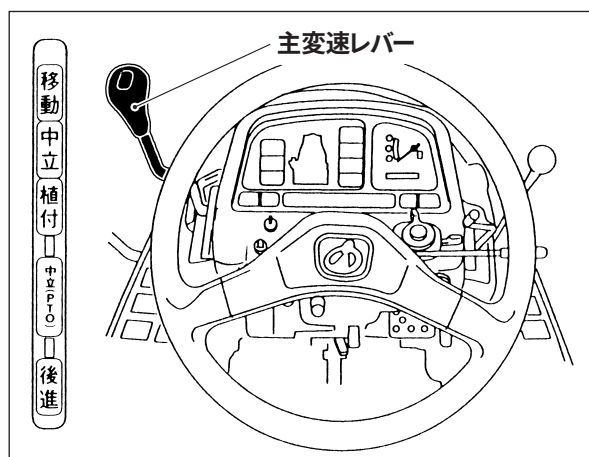
5.1.1 エンジンの始動

- 1** ワンタッチドレンコックを「C」「運転」位置にします。



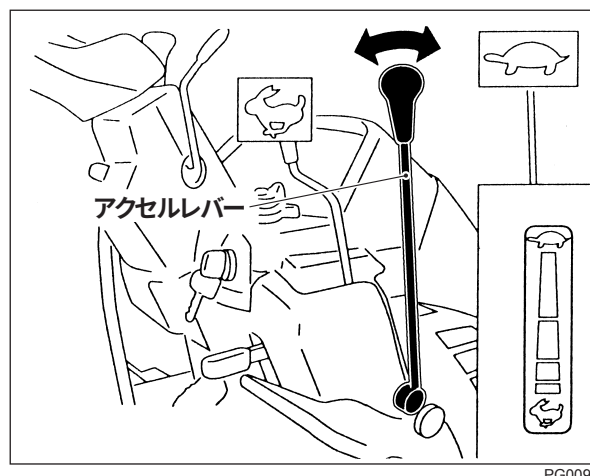
PG0089

- 2** 主変速レバーを「中立」位置にします。



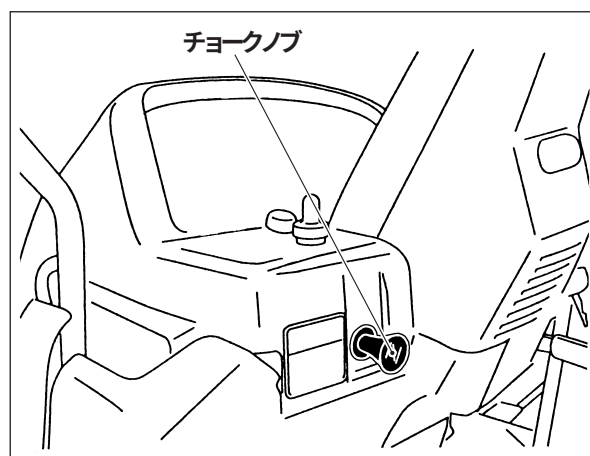
PG0090

- 3 アクセルレバーを「中程」にセットします。



PG0091

- 4 チョークノブを操作します。
(エンジンが冷えている状態で始動するときは、ノブをいっぱい引いてください。)

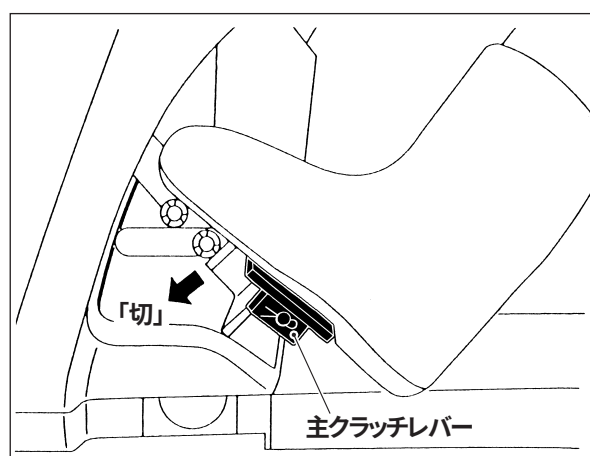


PG0092

- 5 主クラッチペダルを踏み込んでクラッチを「切」にしロック状態にしてください。

補足

- 主クラッチペダルを踏み込みクラッチを「切」にしないと、エンジンは始動しません。



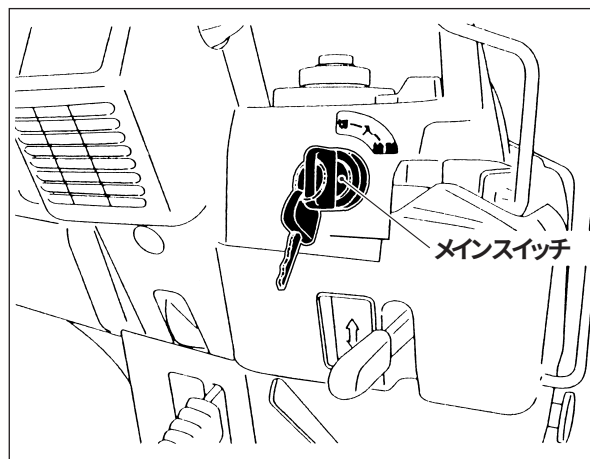
PG0093

6 メインスイッチを「始動」の位置に回します。

7 エンジンが始動したら、ただちにメインスイッチから手を離してください。

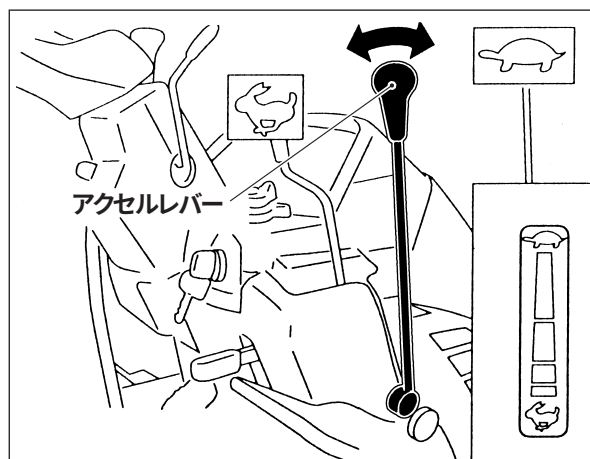
補 足

- 10秒以内に始動しなかった場合は、メインスイッチをいったん「切」の位置に戻して、30秒程度休止してから再び同じ操作を繰り返してください。
- エンジンが始動しているにもかかわらずメインスイッチを回し続けたり運転中にメインスイッチを回さないようにしてください。



5.1.2 エンジンの停止

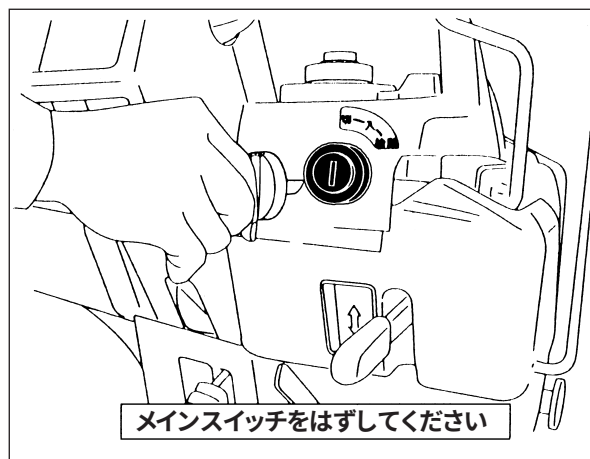
1 アクセルレバーを前方に押してエンジン回転を下げます。



2 メインスイッチを「切」の位置にするとエンジンは停止します。

補 足

- エンジンを高速回転のまま停止しないでください。
- メインスイッチを「入」の位置のまま放置するとバッテリーを放置させてしまいますので、エンジン停止後はメインスイッチをはずす習慣をつけてください。



5.2 発進、停止、駐車のしかた

5.2.1 発進のしかた

⚠ 注意



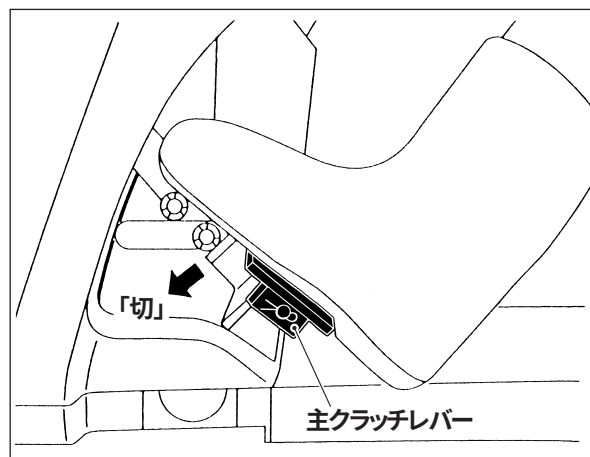
主クラッチペダルを急に離さないでください。

※ 守らないと、急発進して重大な傷害事故を引き起こすおそれがあります。

後進するときは、周囲の安全を確認してください。

※ 守らないと、重大な傷害事故を引き起こすおそれがあります。

- 1 主クラッチペダルを踏込んでクラッチを切ってください。



PG0097

- 2 主変速レバーと副変速レバーを作業に合った位置にしてください。（ 35ページ）

- 3 主クラッチペダルとロック解除ペダルを同時に踏み、徐々に離して発進してください。



PG0098

5.2.2 停止のしかた

警告



ほ場以外を走行する場合は、必ず左右のブレーキペダルを連結金具で連結してください。

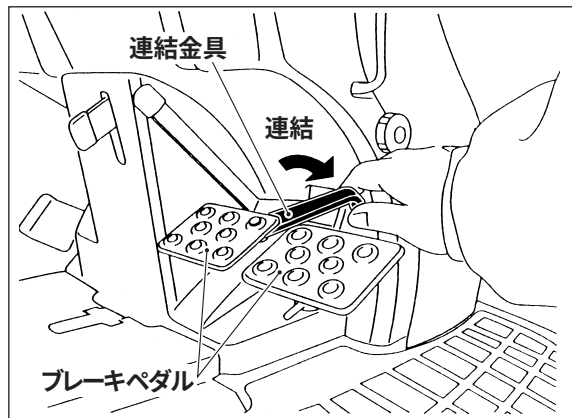
※ 守らないと、重大な傷害事故を引き起こすおそれがあります。

急ブレーキは危険ですので、緊急時以外はさけてください。

※ 守らないと、重大な傷害事故を引き起こすおそれがあります。

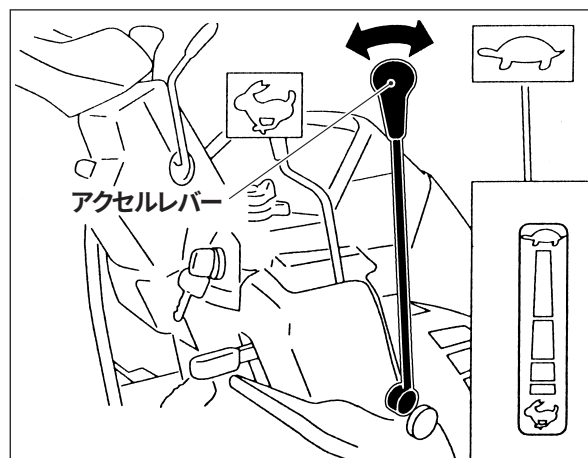
副変速レバーで急減速すると危険ですのでゆっくり減速してください。

※ 守らないと、衝突・転倒・転落事故の原因となります。



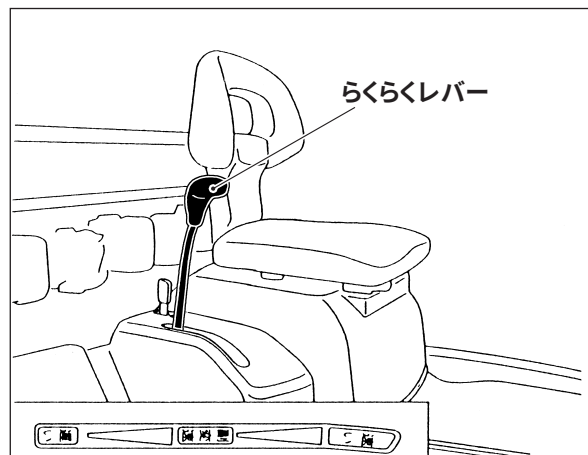
PG0099

- 1 アクセルレバーを前方に押してエンジン回転を下げます。



PG0100

- 2 副変速レバーをゆっくり後方に引いて減速してください。



PG0101

- 3 主クラッチペダルとブレーキペダルを同時に踏み込みます。

補足

- ほ場内で停止する場合は、主クラッチペダルを踏込めばとまります。

5.2.3 駐車のしかた

警告



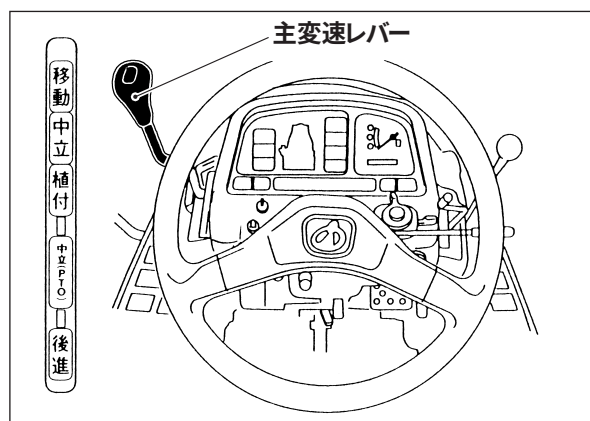
駐車時、植付部は下げておいてください。

※ 守らないと、重大な傷害事故を引き起こすおそれがあります。

坂道で駐車する場合は、車輪に必ず車輪止めをしてください。

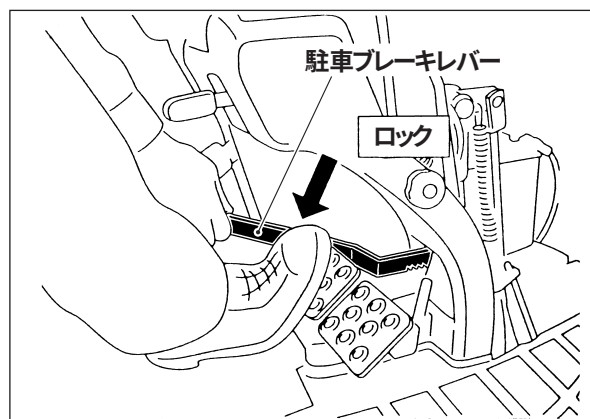
※ 守らないと、重大な傷害事故を引き起こすおそれがあります。

- 1 エンジンを停止してください。
- 2 主変速レバーは「中立」にしてください。



PG0102

- 3 ブレーキペダルを連結金具で連結後、いっぱいまで踏み込み、駐車ブレーキレバーをかけてください。



PG0103

5.3 移動、運搬のしかた

5.3.1 収納のしかた

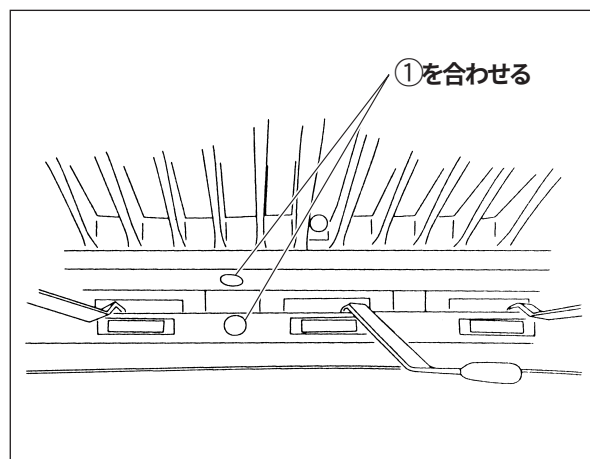
■植付部の折りたたみかた

《準備》

- 1 植付部を最大リフトしてください。
- 2 植込杆を回して、苗載せ台を機体の中央位置①に移動させてください。

補足

- 苗載せ台が機体の中央位置①に合っていないと、折りたたみはできません。

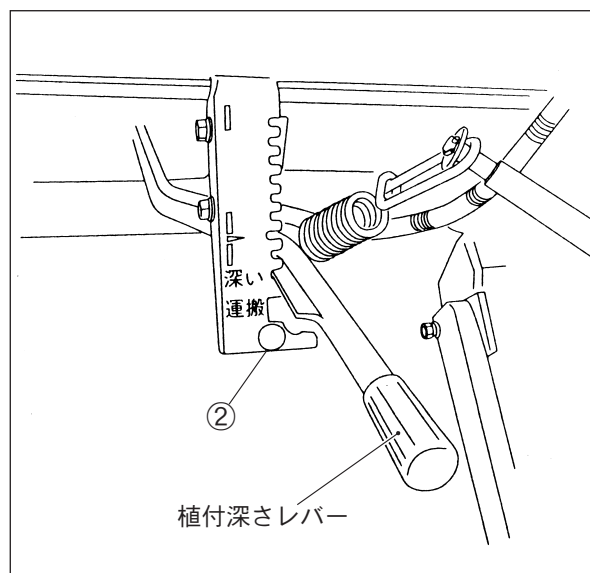


PG0104

- 3 植付深さレバーを運搬位置②にしてください。

補足

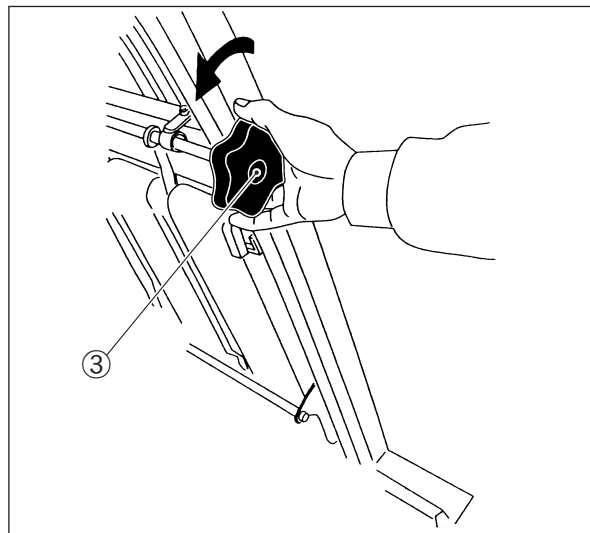
- 植付深さレバーが運搬位置②にないと、植付ユニットの折りたたみ、作業状態セット時に回転ができません。



PG0105

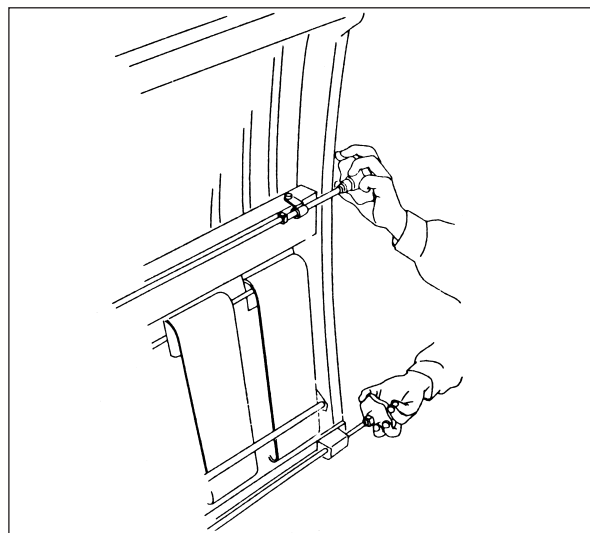
《苗載せ台の折りたたみかた》

- 1** 苗載せ台両端のノブ③を緩めてください。
(左右各2箇所)



PG0106

- 2** 両端の苗載せ台（回動苗載せ台）を上側に引き上げ、後方に反転させてください。（左右共）

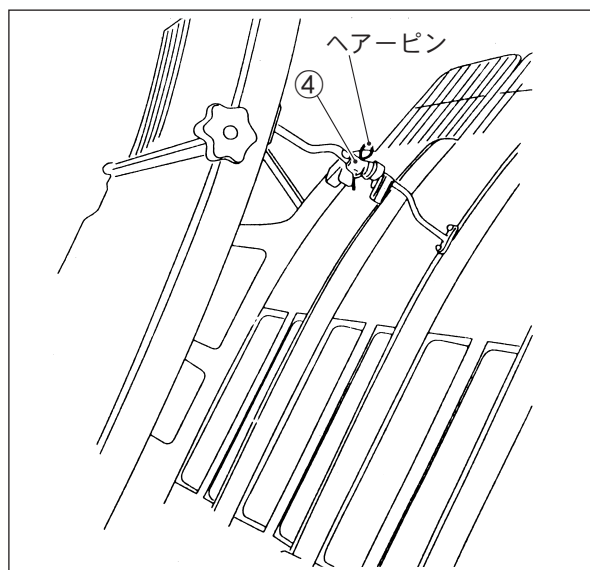


PG0107

- 3** 回動苗載せ台は、案内ガイド④内にピンを差し込み、ヘアーピンで固定してください。
(左右各2箇所)

補足

- 収納時には、必ず回動苗載せ台をヘアーピンで固定してください。



PG0108

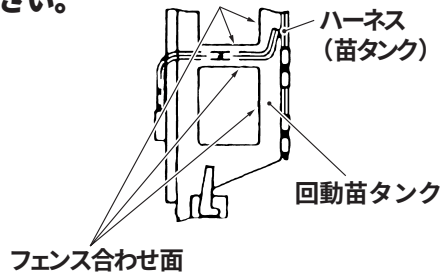
■作業状態へのセットのしかた

⚠ 注意

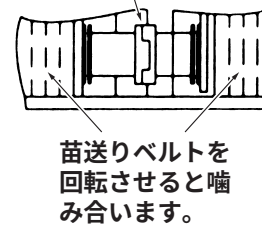


回動苗タンクを作業状態にするときは、下記取扱に注意してセットしてください。

1) ハーネス（黄タンク）は、黄タンク合わせ面で挟み込まないようにしてください。



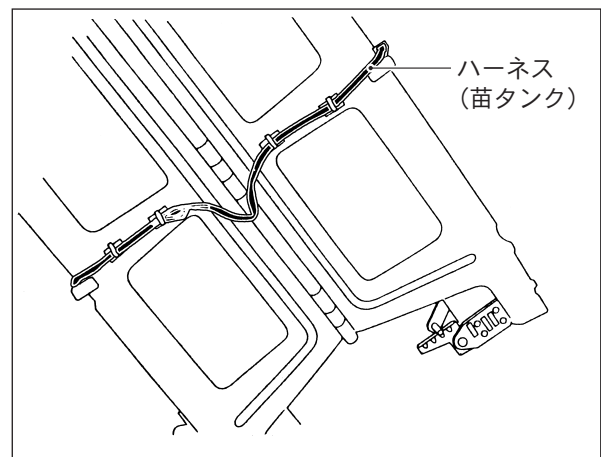
2) 苗送り爪は、山と谷を噛み合わせてください。



※ 守らないと、重大な傷害事故の原因となります。

PG0109

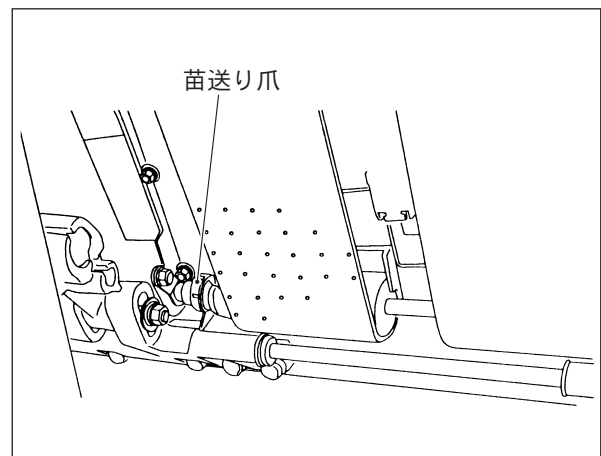
前項の手順 **3** → **2** → **1** で行ってください。



PG0110

補足

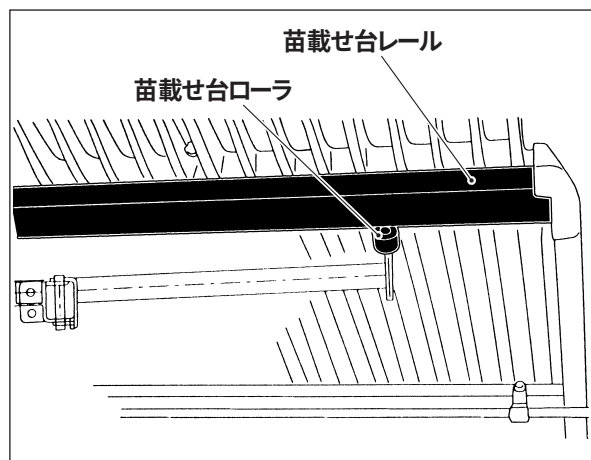
- 苗送り爪が確実に噛み合っていることを確認してください。



PG0111

補 足

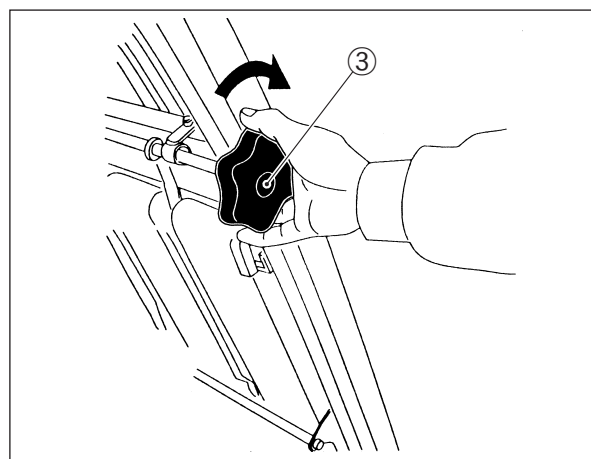
- 苗載せ台ローラは、苗載せ台レールに挿入してください。



PG0112

補 足

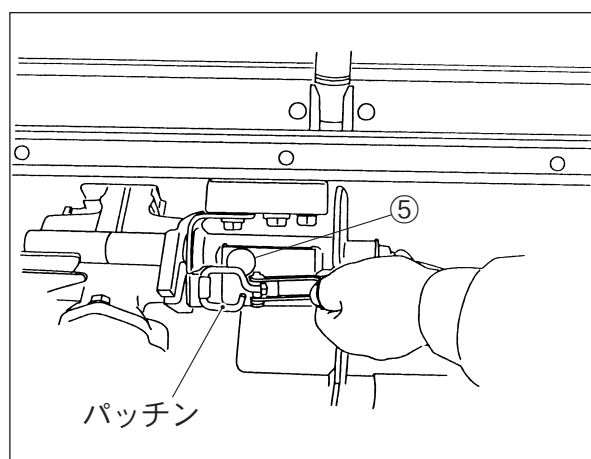
- 苗載せ台両端のノブ③は、しっかりと締め込んでください。



PG0113

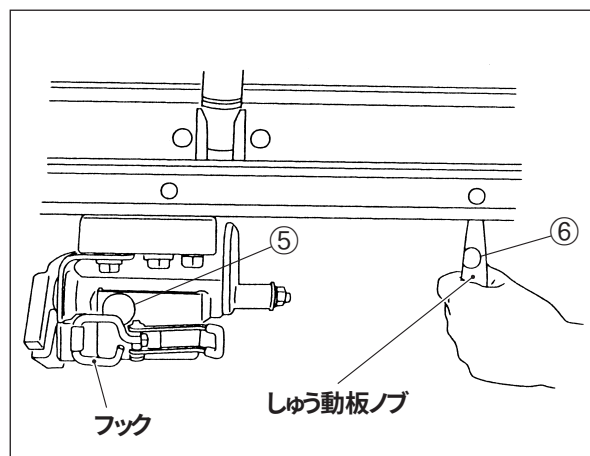
《しゅう動板の折りたたみかた1》

- 1 パッチン⑤のレバーを持ち上げ、前方に押しながら（パッチンをテコにして）しゅう動板を途中まで抜いてください。
（左右各1個所）



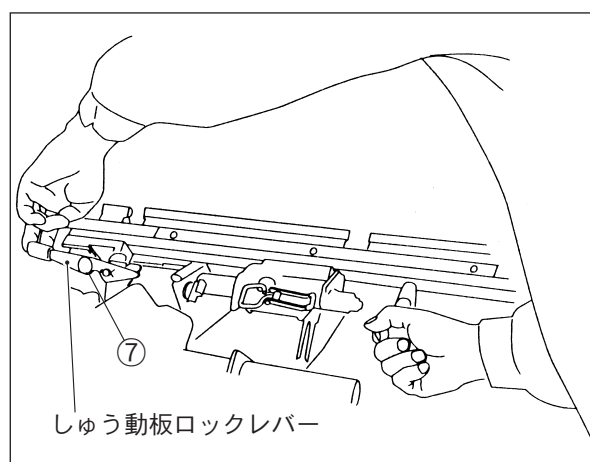
PG0114

- 2 パッチン⑤のフックを外し、しゅう動板ノブ⑥を引っ張ってしゅう動板を完全に引き抜いてください。（左右各1個所）



補 足

- しゅう動板ロック⑦でしゅう動板が確実にロックされていることを確認してください。
- ロックされていないと、しゅう動板が破損することがあります。



■作業状態へのセットのしかた

前項の手順で行なってください。

補 足

- しゅう動板を挿入するときは、ガイドピン位置を合わせてから行なってください。
- しゅう動板固定パッチン⑤は、確実にロックしてください。これを怠ると作業機が破損することがあります。

《しゅう動板の折りたたみかた2》

警告



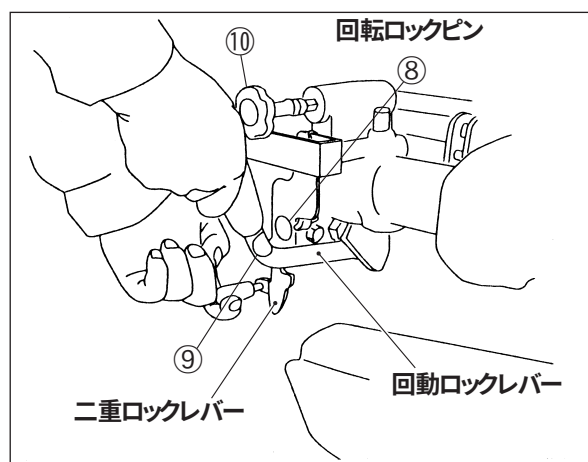
回動ロックピン⑩は、植付ユニットの位置が合えば自動的に入り込み、ロックされる構造となっていますが、確実に回動ロックピン⑩がロックしたことを確認するまで、絶対にしゅう動板ガードから手を離さないでください。

※ これを怠ると、作業機を破損させたり、重大な傷害事故の原因となります。

- 1 二重ロックレバー（を内側に操作しながら、回動ロックレバー）を下方に下げ、植付ユニットの固定を解除してください

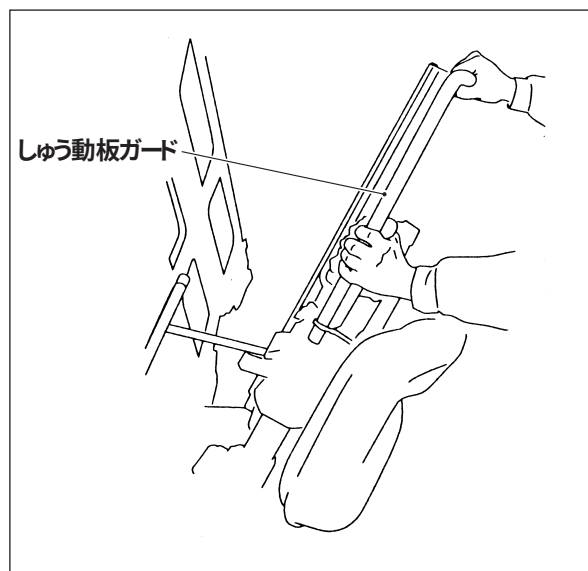
補足

- 回動ロックレバー⑨は、作業機破損防止のため、二重ロックレバー⑧による二重ロック構造となっています。
- 回動ロックレバー⑨を固定解除するときは、二重ロックレバー⑧も同時に操作してください。



PG0117

- 2 しゅう動板ガードを持ち、植付ユニットを上方に回動して、回動ロックピン⑩で固定してください。



PG0118

■作業状態へのセットのしかた

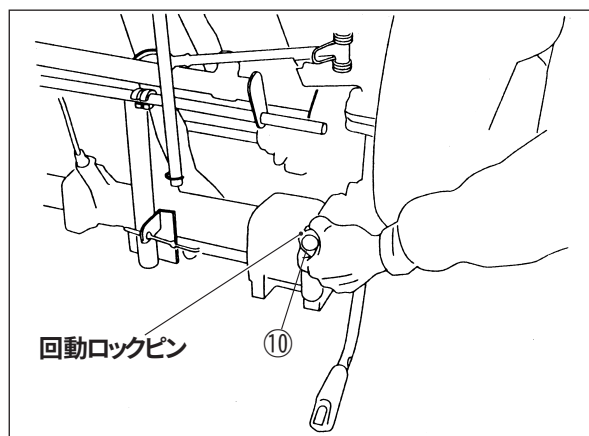
⚠ 警告



植付ユニットを作業状態にセットする時は、しゅう動板ガードを手で持った後、回動ロックピン⑩を抜いてください。

※ これを怠ると、作業機を破損させたり、重大な傷害事故の原因となります。

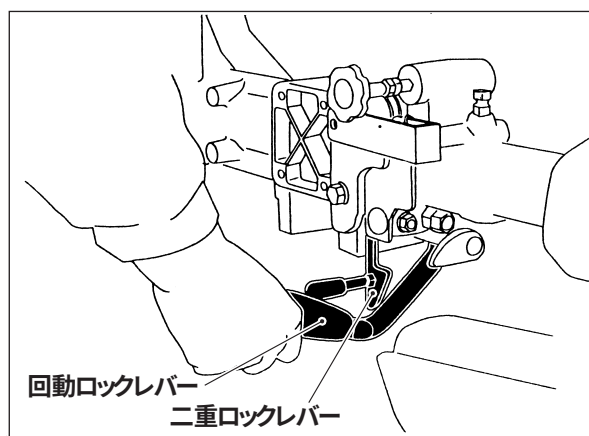
前項の手順で行なってください。



PG0119

補 足

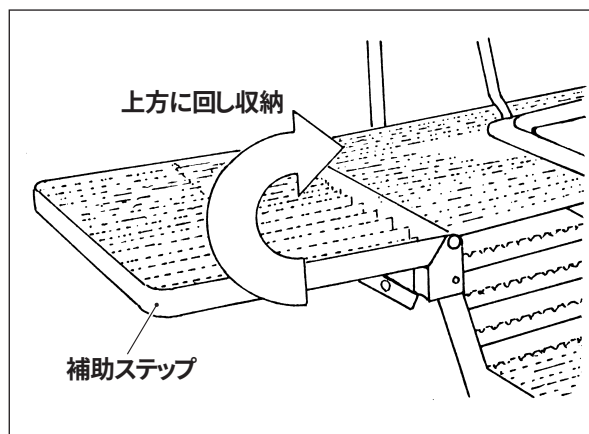
- 回動ロックレバー上方に上げロックする時は、必ず二重ロックレバー⑧が確実に作用していることを確認してください。これを怠ると作業機が破損します。



PG0120

■補助ステップの収納のしかた

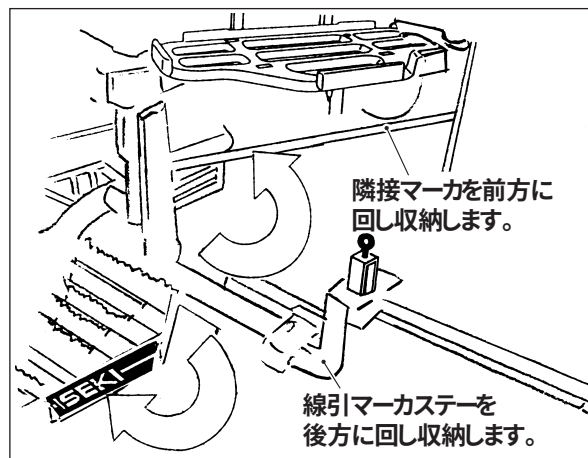
上方に回し収納して下さい。



PG0121

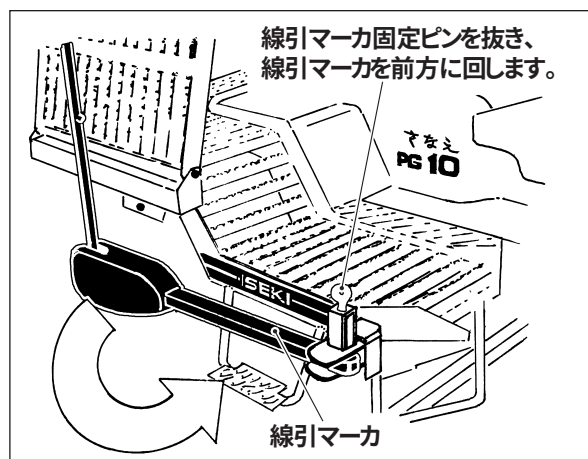
■線引マーカ、隣接マーカの収納

- (1) 隣接マーカを、前方に回し収納します。
- (2) 線引マーカステーを後方に回し収納します。



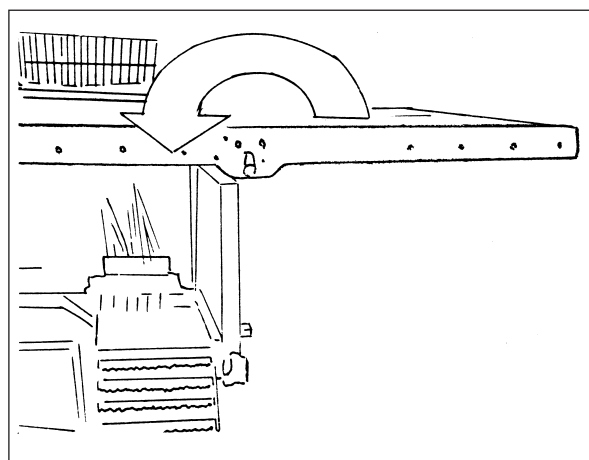
PG0122

線引きマーカ固定ピンを抜き、線引きマーカを前方に回します。



PG0123

補助苗枠の収納（Y型のみ）両端の補助苗枠を回して収納してください。



PG0124

5.3.2 トラックへの積み・降ろしのしかた

警告



アユミ板のフックは、荷台に段差がないように、又ずれないように確実に掛けてください。

※ 守らないと、転落事故の原因となります。

積み降ろしをするときは、平たんで地面の硬い場所を選んでください。

※ 守らないと、重大な傷害事故を引き起こすおそれがあります。

積み込むトラックのエンジンを停止し、変速は「1速」又は「R」の位置に入れて、駐車ブレーキを引いてください。

※ 守らないと、トラックが動いて転落事故を引き起こすおそれがあります。



積降ろしの途中では絶対に主クラッチペダルをブレーキペダルより先に踏まないでください。

※ 守らないと、田植機が下へ走りだし転落事故を引き起こす原因となります。

積降ろしの途中では、ハンドルを大きく左右に切らないでください。

※ 守らないと、転落事故を引き起こす原因となります。

注意



誘導者を付けて、周囲の状況を十分確認して行ってください。

田植機の直前や直後には、絶対に立たないでください

※ 守らないと、傷害事故の原因となります。

搭載するトラックは、4 tワイド（荷台外幅2450）以上のものをご使用ください。

※ 守らないと、転落事故の原因となります。

A型仕様（条間33 cm）を積む場合は、サイドフロート左右を取り外してください。

※ 守らないと、トラック荷台幅よりもオーバーし、違法積載となります。

■アユミ板の条件

長さ…………… 車の荷台高さの4.8倍以上

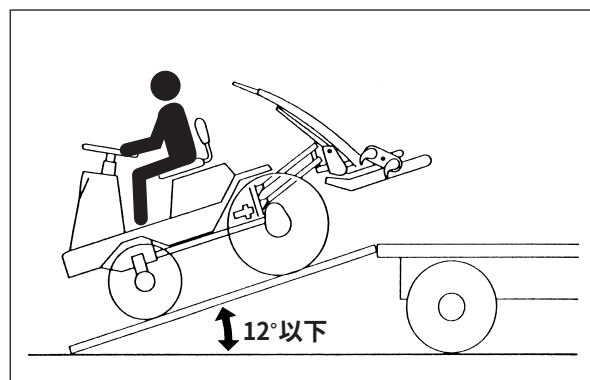
幅…………… 30cm以上

数量…………… 2枚

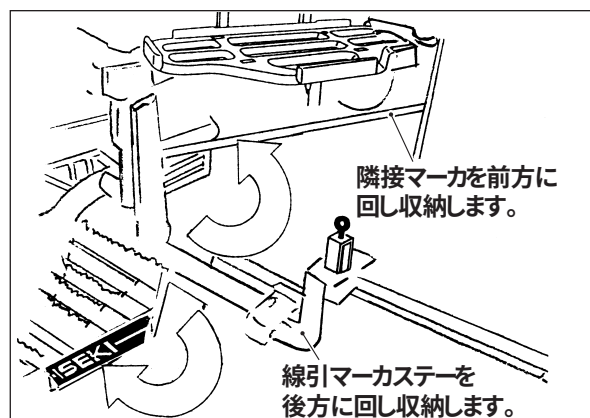
強度…………… 1枚の強度が1000kg以上

すべり止めの処理があるもの

- 1 線引マーカ、隣接マーカ、しゅう動板、しゅう動板ガード、補助苗枠を収納してください。
( 61・62・63ページ)

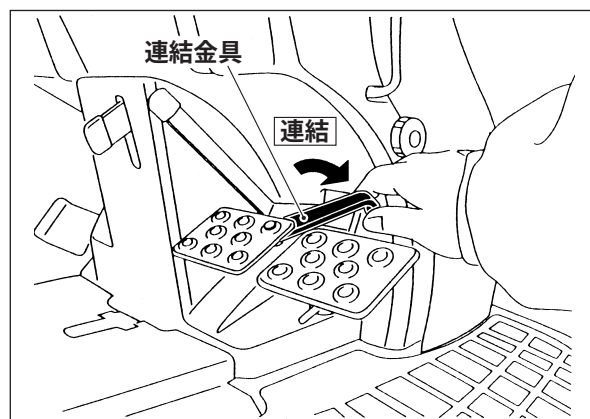


PG0125



PG0126

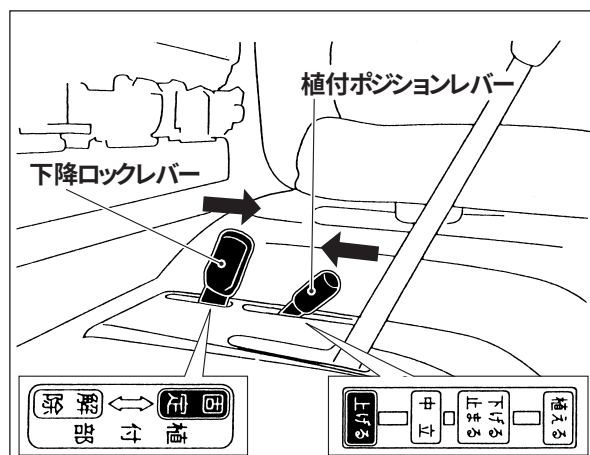
- 2 左右のブレーキペダルを連結金具で連結してください。



PG0127

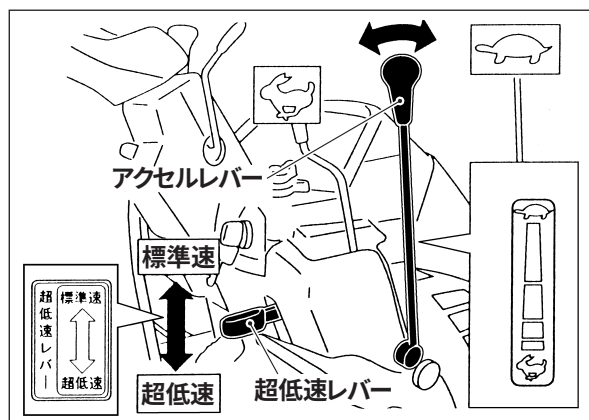
- 3 植付部をいっぱい上げ、下降ロックレバーを「固定」位置にしてください。

- 4 植付部を機体の中央にしてください。



PG0128

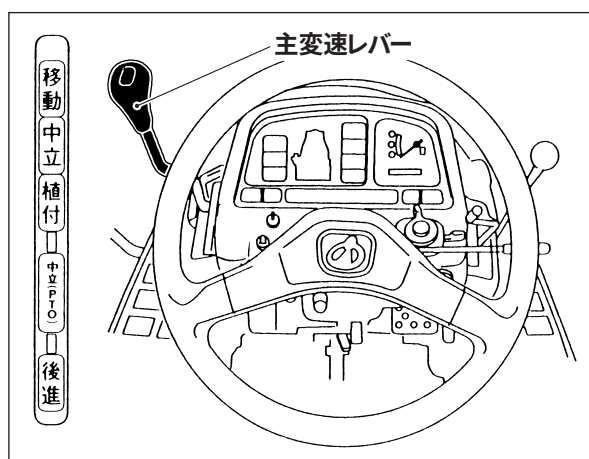
- 5** トラックに載せる時は、アクセルレバーを前方へいっぱい押し（エンジン回転は最低速にします。）超低速レバーを「超低速」、主変速レバーを「後進」位置にして、副変速レバーを「低速」位置にセットして行なってください。又、トラックより降ろす時は、超低速レバーを「超低速」、主変速レバーを「植付」、副変速レバーを「低速」で行なってください。



PG0129

補足

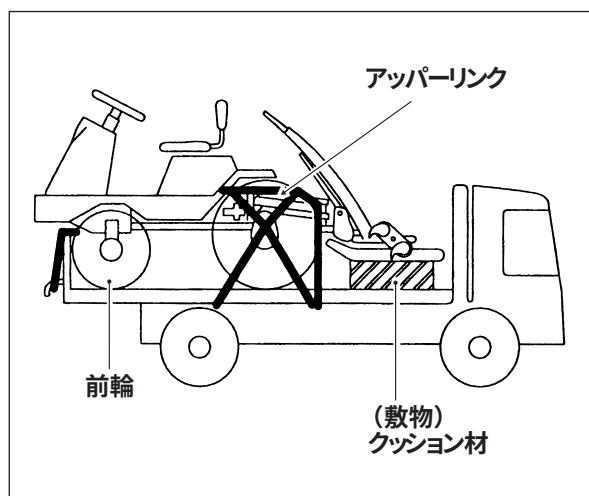
- 万一横降ろしの途中でエンジンが止まった場合は、即時にブレーキペダルをふんで、その後徐々にブレーキをゆるめて道路まで降ろしてください。



PG0130

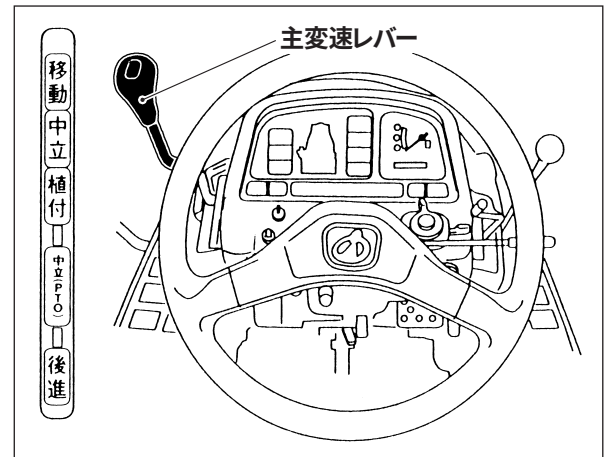
5.3.3 運搬中の固定方法

- 1 前輪を車の後部にひきつけて、ロープで固定してください。
- 2 後輪をロープでたすき掛けにして固定してください。
- 3 フロートの下に敷物を置いて、植付部を降ろし、アッパリンクをロープで軽く押えてください。



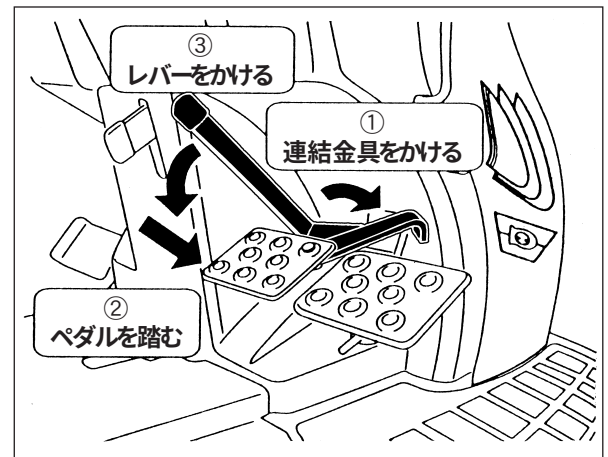
PG0131

- 4 主変速レバーを「植付」か「後進」位置にしてください。



PG0132

- 5 左右のブレーキペダルを連結し、ブレーキペダルを踏込み駐車ブレーキレバーをかけてください。(➡ 34ページ)



PG0133

5.4 ほ場への出入りのしかた

警告



ブレーキペダルは、左右連結してください。

※ 守らないと、転倒・転落事故の原因となります。

ほ場との高低差が大きい時は、アユミ板を使用してください。

※ 守らないと、転倒・転落事故の原因となります。

超低速レバーを「超低速」にし、エンジン回転を低速回転にしてください。

※ 守らないと、重大な傷害事故を引き起こすおそれがあります。



補助苗枠および苗乗せ台には、苗を乗せないでください。又田植機に荷物を積まないでください。

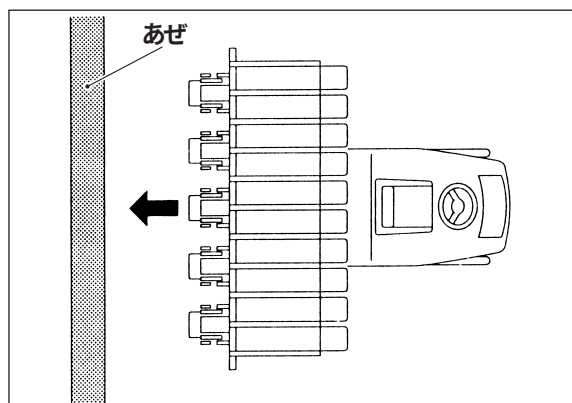
※ 守らないと、転倒・転落事故の原因となります。

注意



ほ場への出入りやあぜごえをする場合には、必ずあぜに直角に進んでください。

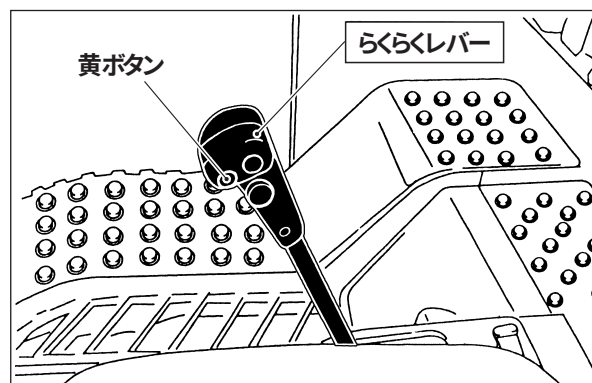
※ 守らないと、転倒・転落事故の原因となります。



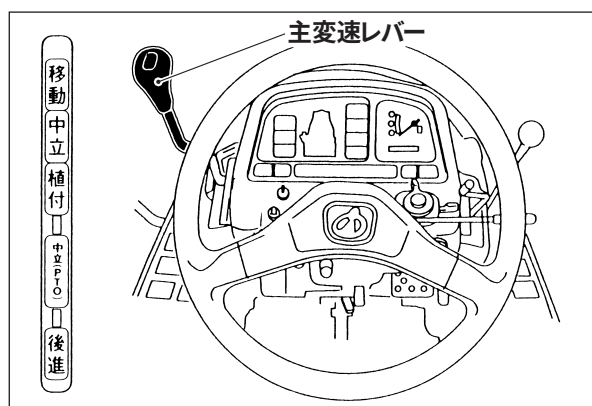
PG0134

5.4.1 ほ場への入りかた

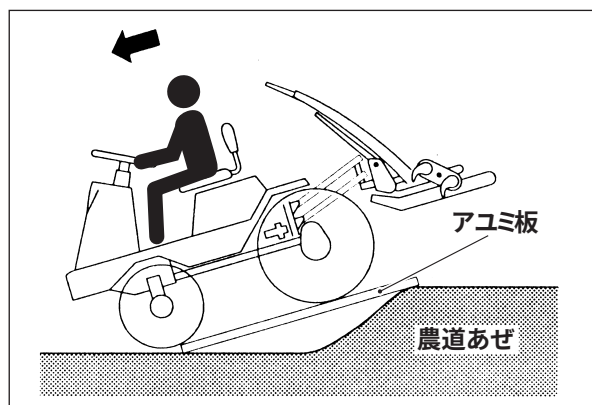
- 1 植付部をいっぱい上げてください。
(☞ 39ページ)
- 2 主変速レバーを「植付」、副変速レバーで速度を調整して前進でゆっくりとほ場に入ってください。(☞ 35ページ)



PG0135



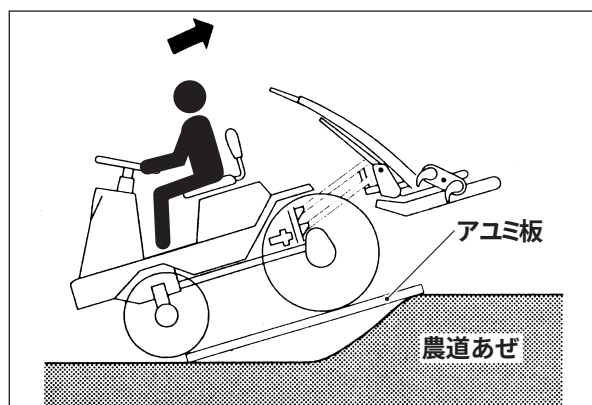
PG0136



PG0137

5.4.2 ほ場からの出かた

- 1 植付部をいっぱい上げてください。
- 2 主変速レバーを「後進」、副変速レバーで速度を調整して後進でゆっくりとほ場から出てください。(☞ 35ページ)



PG0138

6. 作業前の準備

6.1 ほ場の準備

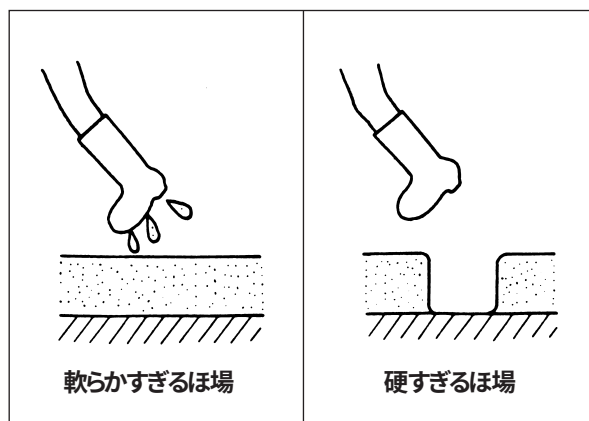
6.1.1 作業とほ場条件

■代かき

代かきは、ほ場の表面の凸凹をなくすように、ていねいにしてください。

補 足

- 代かき日は、土質などによっても異なりますので、当地に合った代かき日をきめてください。
- ほ場の硬さは、やや軟らか目の硬さが最適です。歩いても足跡がすぐ埋まるような軟らかいほ場や、足跡が完全に残るような硬いほ場では、きれいな植付ができないことがありますので注意してください。



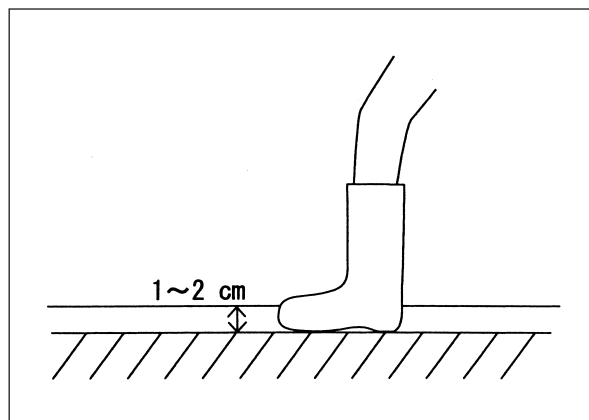
PG0139

■水深

水深は1～2 cm程度の全面浅水が最適です。

補 足

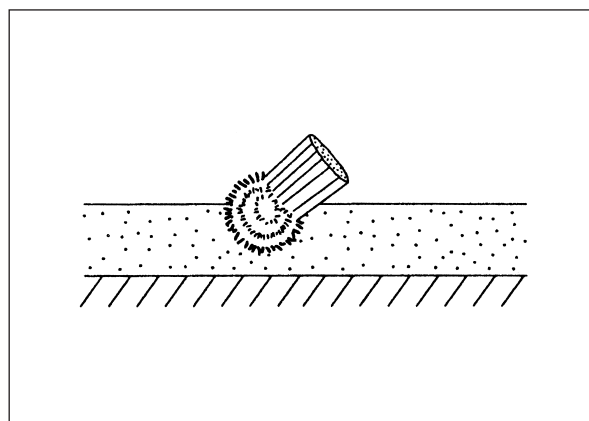
- 水深が2 cm以上のほ場や、反対に水気のないほ場では、きれいな植付ができないことがありますので注意してください。



PG0140

■きょう雑物

刈り株・排ワラ等のきょう雑物はできるだけ取り除いてください。



PG0141

6.2 植付作業前の準備

6.2.1 植付株数（株間）の決めかた

■マット苗

植付株数は、株数切替レバーと株数副変速レバーの切替で変更できます。下表を参考に当地に合った植付株数にセットしてください。（ 74ページ）

補足

- 出荷時の植付株数は80株（株数副変速レバーは①の位置）です。（A仕様は90株）
- 植付株数により使用箱数が変わります。植付株数に合った箱数を準備してください。
なお、実際には10a当り2箱程度の予備苗を準備することをおすすめします。
- 植付株数や苗取量を途中で変更すると所要箱数が変わります。

標準型（条間30cm使用）

株数切替レバー 位置 株数副変速レバー 位置					
①多い 	株数(10a)	50	60	70	80
	株間 (cm)	22	20	17	14
②少い 	株数(10a)	45	—	60	70
	株間 (cm)	24	—	18	16

PG0142

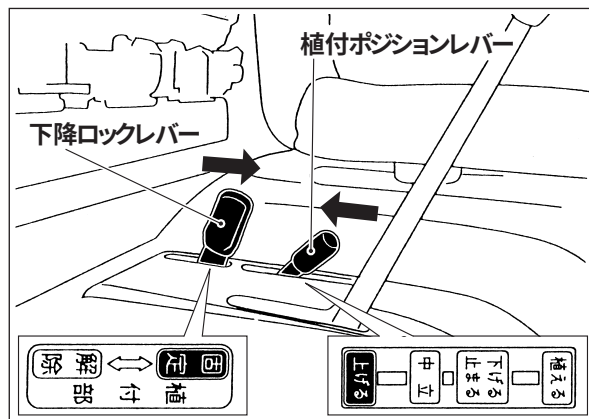
A、ABY、AS型（条間33cm使用）

株数切替レバー 位置 株数副変速レバー 位置					
①多い 	株数(10a)	50	65	80	90
	株間 (cm)	20	15	12	11
②少い 	株数(10a)	45	60	75	85
	株間 (cm)	22	17	13.5	12.5

PG0143

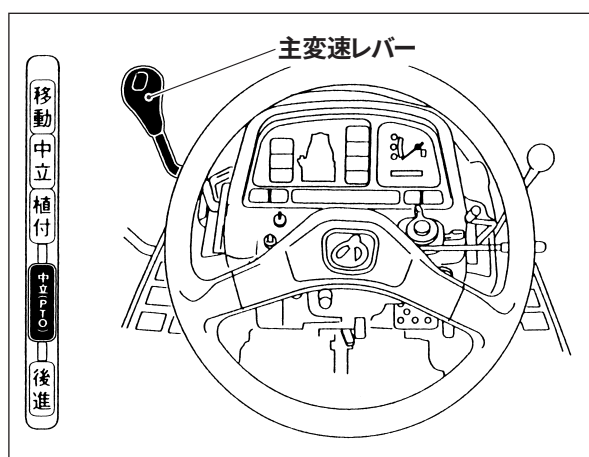
6.2.2 株数副変速レバーと株数切替レバーの切り替えかた

- 1 植付部をいっぱい上げ、下降ロックレバーを「固定」位置にします。（ほ場内の時は、植付部は下がったままでもかまいません。）



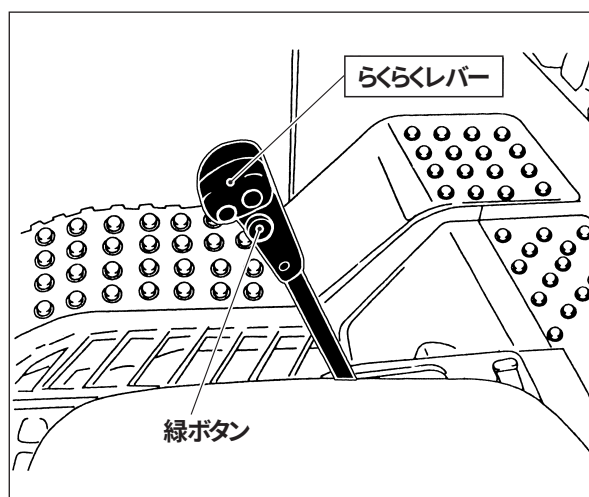
PG0144

- 2 エンジンを低速回転にし、主変速レバーを「中立（PTO）」の位置にします。



PG0145

- 3 らくらくレバーの緑ボタンを押し（植付「入」）植込杆を回します。



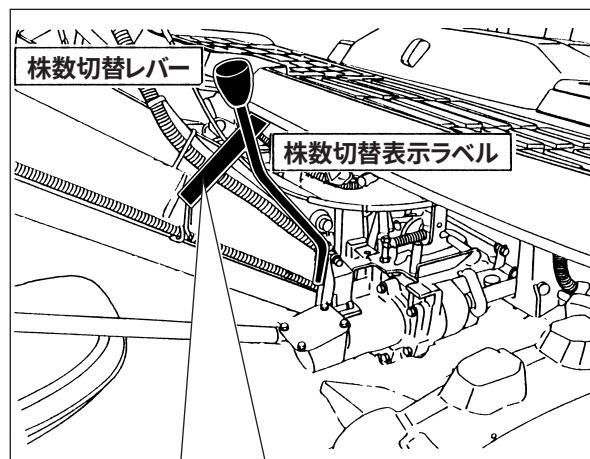
PG0146

- 4 株数副変速レバーを希望の位置に回してください。



PG0147

- 5 らくらくレバーの緑ボタンを押し（植付「切」）植込杆を止め、株数切替レバーを動かし希望の位置にセットして下さい。



PG0148

補足

- レバーの調節後、植込杆が回っていることを確認してください。

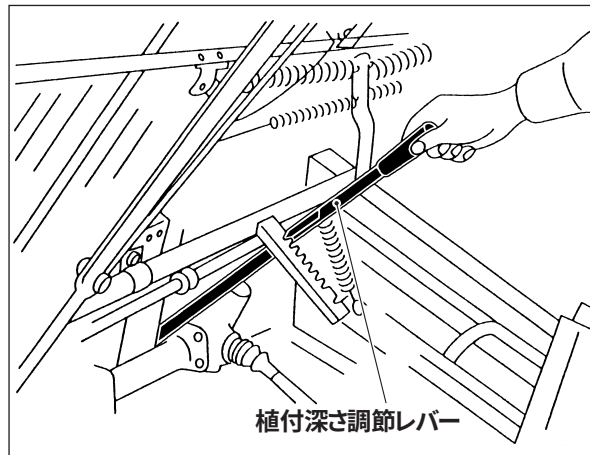
多 い 少 ない		株数副変速	多 い 少 ない		株数副変速
80		70	90		85
70		60	80		75
60		—	65		60
50		45	50		45
株数調節			株数調節		
標準型			A、ABY、AS型		

PG0149

7. 作業前に必要な調節

7.1 植付深さの調節のしかた

- (1) 植付深さ調節レバーのセット位置を変えることにより、植付深さは7段階（A S型は9段階）に選べます。

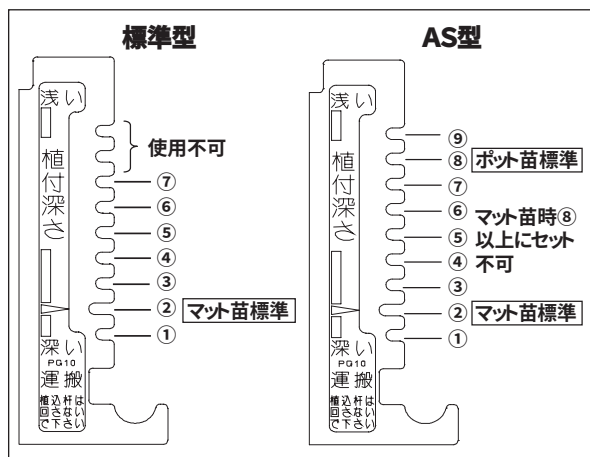


PG0150

- (2) 植付深さの標準は、マット苗がガイド溝②の位置、ポット苗が⑧の位置です。植付深さを深くしたい時は①の方向へ、浅くしたい時は(⑦⑨)の方向へ植付深さ調節レバーを移動させてください。

A S型でマット苗植付時は⑧⑨は使用しないでください。浅植となり苗がころぶことがあります。

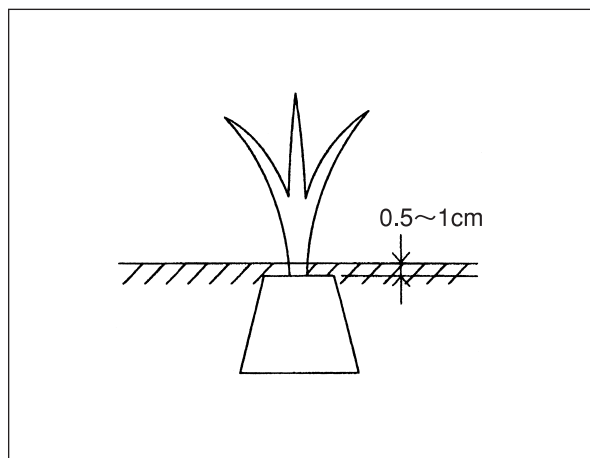
- (3) 植付深さ調節レバーを「運搬」位置にした時は、植込杆を回さないでください。



PG0151

補足

- 植付深さは、必ずほ場で試し植えをして確認してください。
- ポット苗の植付深さは、0.5～1cmが適正です。



PG0152

7.2 横送り量の調整のしかた

⚠ 注意



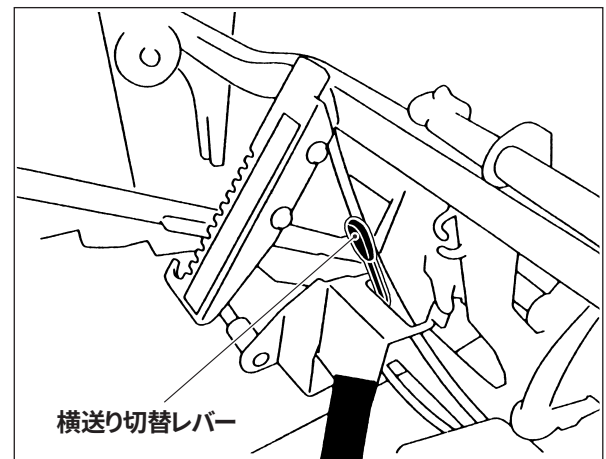
横送り量の切り替えはエンジンを停止して行なってください。

※ これを怠ると作業機を破壊したり、傷害事故の原因となります。

苗の種類によって、横送り量の切り替えを行なってください。

横送りの回数	苗の種類
28回	乳苗
24回	稚苗
20回	中苗
18回	中苗、キセキ中苗箱18条ポット苗
16回	キセキ中苗箱16条ポット苗

- 1 横送り切替レバーで苗の種類に合った位置に切替えてください。

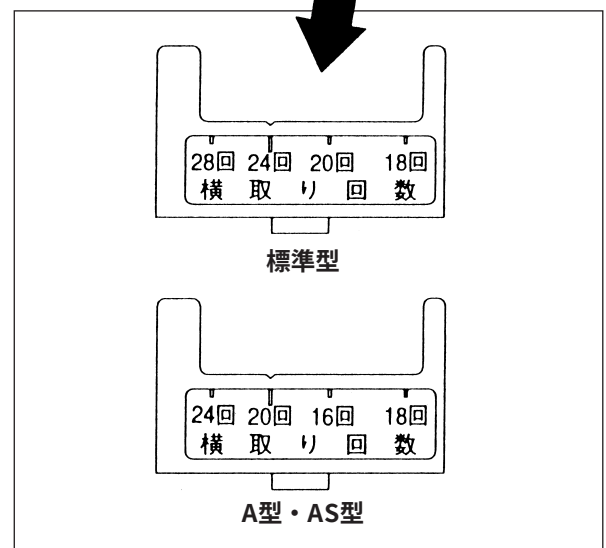


PG0153

- 2 横送り回数を変更する時は下降ロックレバーを「固定」位置にし、エンジンを止めてから希望の横送り回数に変更してください。

補足

- 切替え後は、必ず希望の位置に入っていることを植込杆を回して確認してください。
- 横送り回数を変更したときは、適正な植付爪と取口ガイドに交換してください。
(植付爪と取口ガイドは、お買いあげ先へ注文してください。)



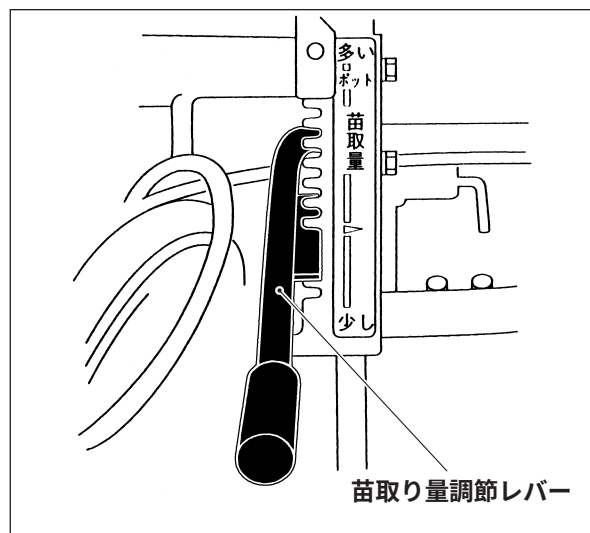
PG0154

7.3 苗取り量の調整のしかた

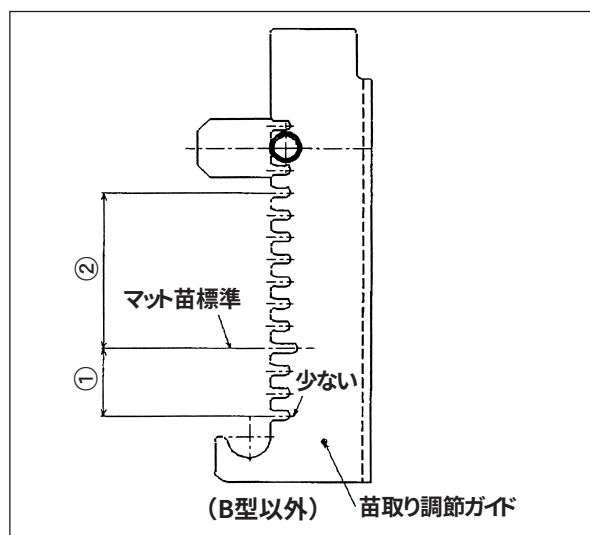
- (1) 苗取量調節レバーのセット位置を上下に調節することにより全条の苗取量を一度に変えることができます。
- (2) マット苗の苗取量の標準は、11mmです。
- (3) ガイド溝1段で苗取量は約1mm変わります。

補足

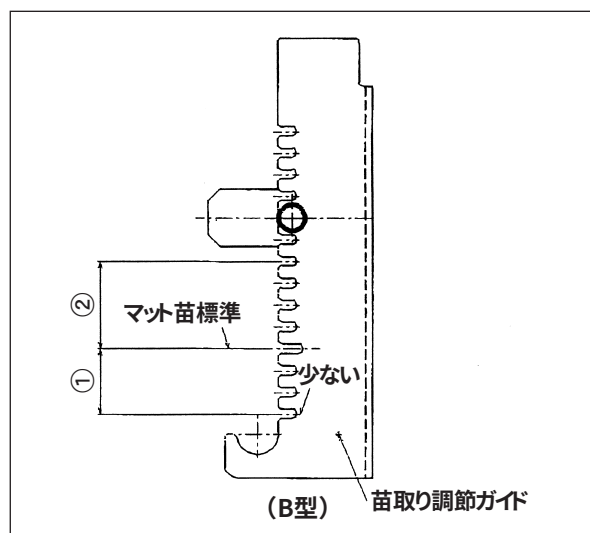
- マット苗を植えるときは、ガイド溝①②の範囲を使用してください。



PG0155



PG0156



PG0157

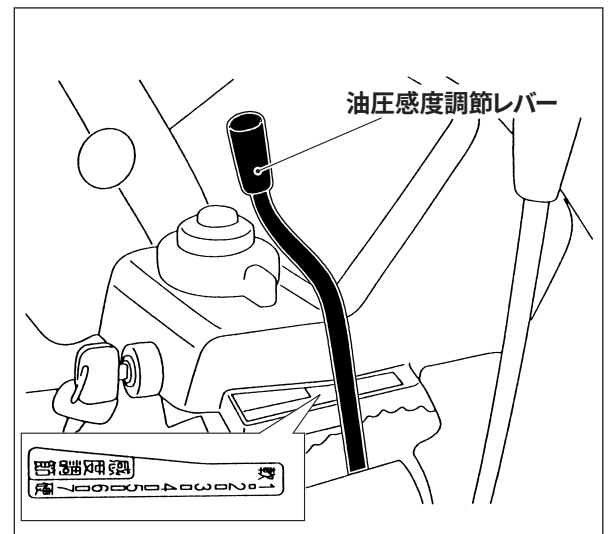
7.4 油圧感度調節のしかた

感度は、油圧感度調節レバーを前後にずらすことにより7段階に選べます。

補足

- 最初は必ずレバーを「4」位置にして試し植えをしてください。

- (1) フロートで泥を押す場合
レバーを「4」の位置から一段づつ「軟」側（前方）へ移動させてください。
- (2) 植付部がバタツク場合やフロート後部が浮く場合
レバーを「4」位置から一段づつ「硬」側（後方）へ移動させてください。



PG0158

補足

- 油圧感度調節レバーの調節を行なった場合は、植付深さが変わりますので、植付深さの確認と調節を合わせて行なってください。
- 水深が深い場合には、水の浮力で、フロートが浮きやすくなりますので、水深の浅い所よりも一段「硬」側にセットしてください。
- 水深が深い場合や、レバーが「軟」側のときは、植付速度をひかえ目にしてください。
- 隣接条を、植付「切」で走行する場合には、最も「軟」側にセットすると泥押しが少なく隣接条を乱しません。

油圧感度調節レバーの移動方向	植付深さ
「軟」→「硬」	深くなる
「硬」→「軟」	浅くなる

7.5 抵抗棒の調節のしかた

⚠ 注意



抵抗棒の位置の変更は、エンジンを停止して行なってください。

※ これを怠ると作業機を破壊したり、傷害事故の原因となります。

(1) 抵抗棒の位置は、調節レバーで4段階の調節できます。

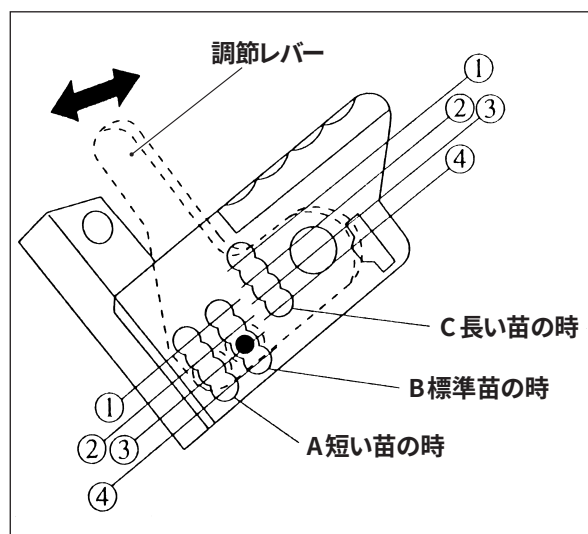
又、苗の長さにより3段階の調節ができます。その場合は、ヘアピンを抜いて抵抗棒を差し替えてください。

(2) 抵抗棒の標準（出荷）位置は

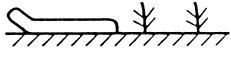
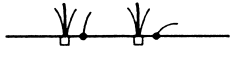
マット苗の場合……標準苗位置Bでの③の位置

ポット苗の場合……標準苗位置Bでの①の位置

標準位置で試し植えをして、不調時は下記要領にて調節してください。



PG0159

不 調 な 場 合 の 現 象	抵 抗 棒 の 位 置	
	マ ッ ト 苗 の 場 合	ポ ッ ト 苗 の 場 合
植付けた苗が前だおれになる。 	①,②(Bの位置)又はCの位置①～④	①(Cの位置)
植付けた苗が後だおれになる。 	④(Bの位置)又はAの位置①～④	①(Aの位置)
植付けた苗がおおぎ状になる。 	④(Bの位置)又はAの位置①～④	—————
苗が植付爪より離れない。 	①,②(Bの位置)又はCの位置①～④	①(Cの位置)
苗が一、二本だけ離れ植付けが乱れる。 	④(Bの位置)又はAの位置①～④	—————

PG0160

補 足

- 抵抗棒の位置を変更する場合は、最初に調節レバーで抵抗棒の位置を変えて調節し、それでも直らない場合に抵抗棒の差し替えて抵抗棒の位置を変更してください。
- 抵抗棒の位置を変更後は、全条同じ位置に抵抗棒がセットされているか確認してください。

7.6 整地板の調節のしかた

⚠ 注意

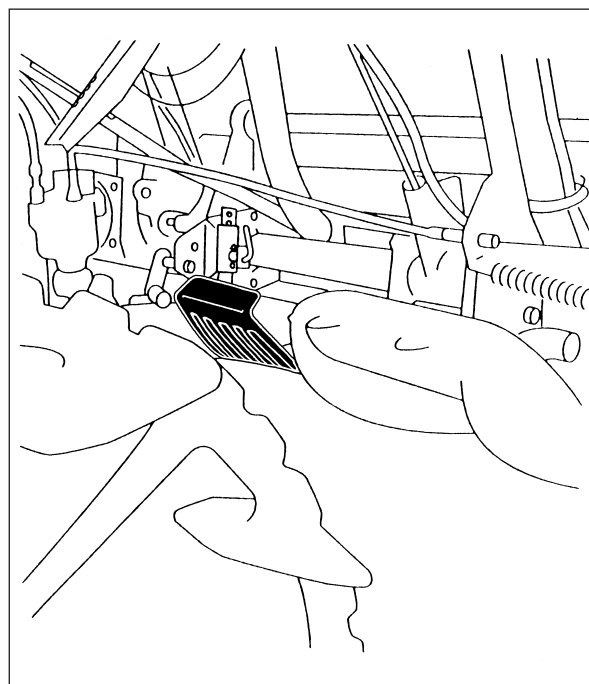


整地板のピン穴変更は植付部を上昇させ、感度調節レバーを植付部固定にして行なってください。

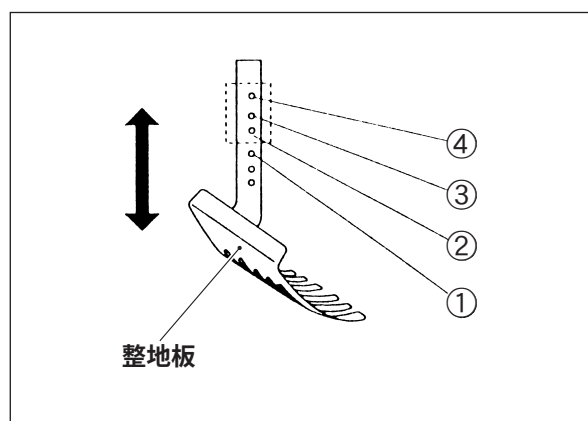
※ これを怠ると作業機を破壊したり、傷害事故の原因となります。

- (1) 整地柵の位置け、ピン穴の変事により4段階に選べます。
- (2) 出荷時の位置は1の位置です。
- (3) 出荷位置で試し植えをして、不調な場合は下記要領で調節してください。

不調な場合の現象	整地板の位置
整地しない	整地板を下げる
泥を押す	整地板を上げる



PG0161

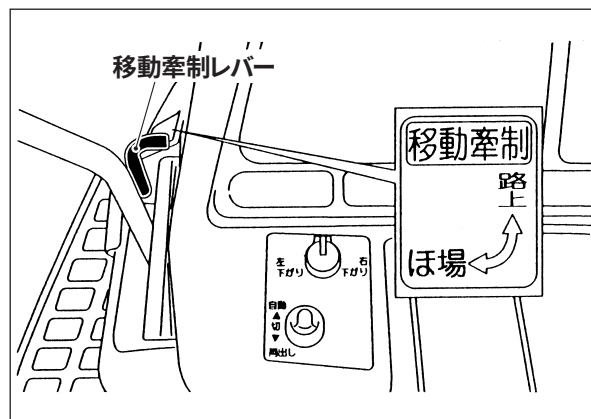


PG0162

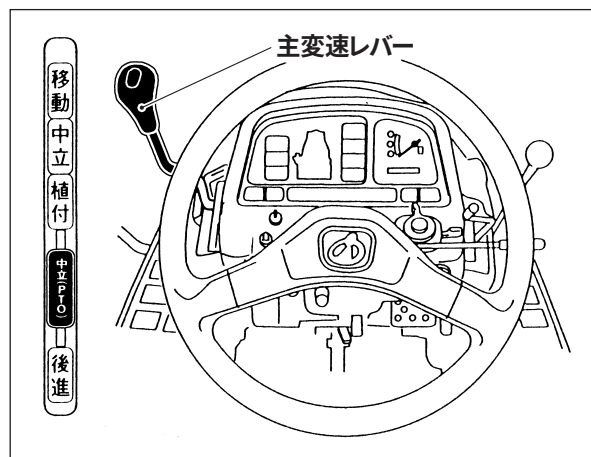
8. 作業のしかた

8.1 植付作業の手順

- 1 ほ場に入り主クラッチペダルをロックし、移動牽制レバーを「ほ場」にし、主変速レバーを「中立 (PTO) 」にします。(☞ 35ページ)

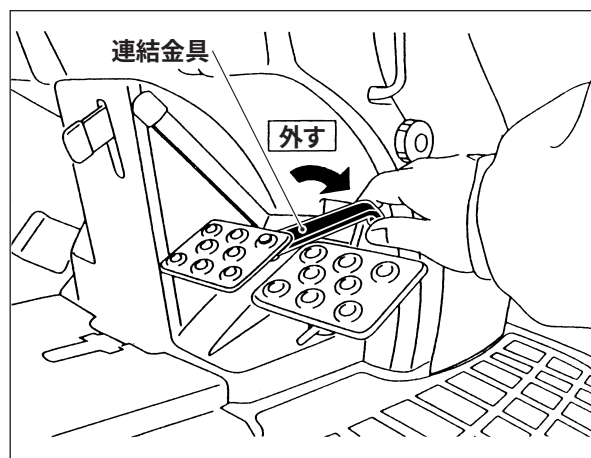


PG0163



PG0164

- 2 左右のブレーキペダルを連結している連結金具を外します。(☞ 56・57ページ)



PG0165

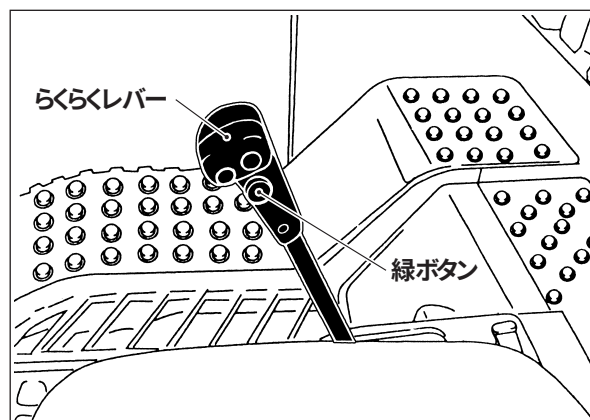
3 線引マーカを収納位置から作業位置にしてください。(➡ 65ページ)

4 隣接マーカ、しゅう動板、しゅう動板ガードを作業位置にセットして下さい。
(➡ 61・62・63ページ)

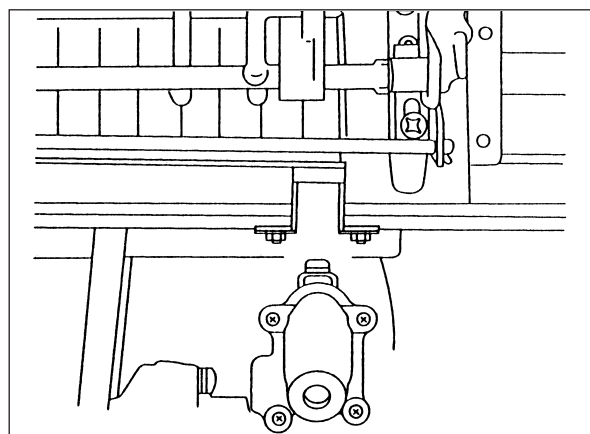
5 主クラッチペダルを解除し、らくらくレバーの緑ボタンで植付「入」にして苗のせ台を左又は右側に寄せてらくらくレバーの線ボタンで植付「切」にしてください。(➡ 39・40ページ)



PG0166

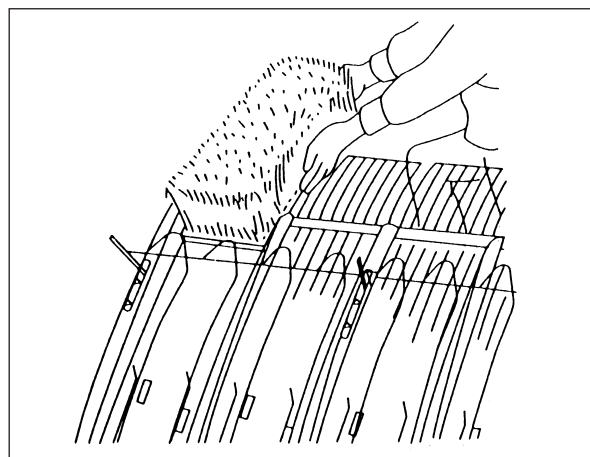


PG0167



PG0168

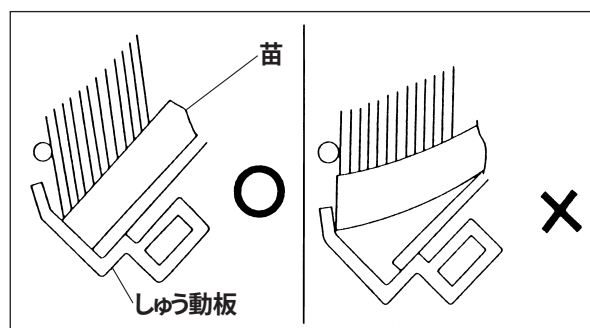
- 6 苗取板で取った苗を、苗のせ台にいていねいにのせてください。



PG0169

補足

- P Gシリーズは、苗のせ台に苗が2枚搭載できます。
- 苗が、しゅう動板の所で浮き上がらないようにのせてください。
- 苗のせ台を左又は右端に寄せてください。
- 板張りの悪い苗は振動で形がくずれてしまうため、育苗箱に入ったままの状態で補助苗枠に乗せてください。



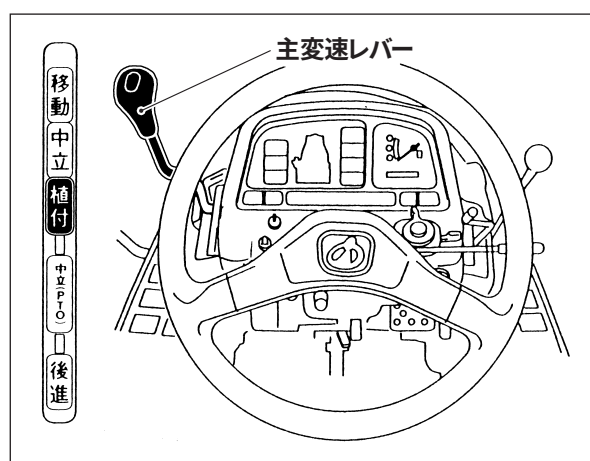
PG0170

- 7 主変速レバーを「植付」、副変速レバーを「低速」にして、ほ場の端に移動してください。

- 8 線引マーカを次の行程で植える側に出してください。

- 9 らくらくレバーの緑ボタンを押し植付「入」にしてください。

- 10 エンジン回転数を中速にして、主クラッチペダルをゆっくり離し植付けをはじめてください。



PG0171

補足

- 植付け作業を開始して、各調節が希望する値になっているか確認してから、連続作業を行なってください。
- ほ場の状態、苗の条件により植付精度は変化します。低速で植付状態を見ながら徐々に速度を上げ、最も良い速度を選んでください。

8.1.1 枕地一工程植えのしかた（Y型のみ）

⚠ 注意



スペースマーカは素材特性上、電気をよく伝えます。高圧線、架線電線には充分注意してください。

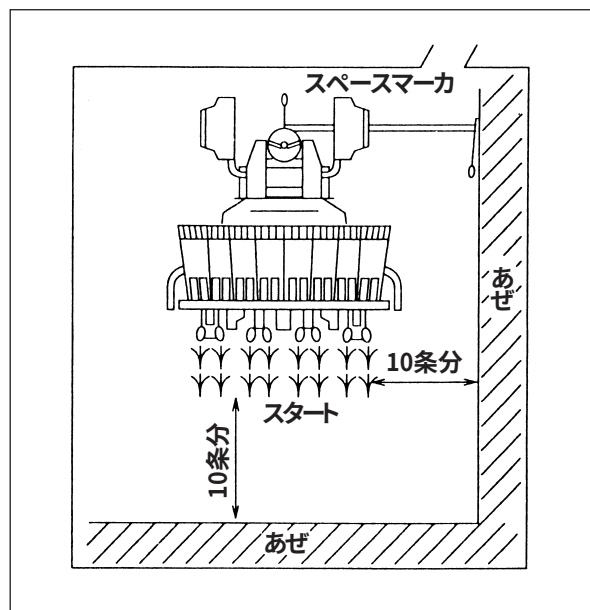
※ 怠ると、感電事故の原因となります。

■（あぜが低い場合）

1 スペースマーカ（あぜ際マーカ）をいっぱい引き伸ばし、あぜにそわせ10条分をあけて植えます。

※スペースマーカ（あぜ際マーカ）伸縮時は、ロック位置付近でひねりながら行なうとスムーズに行なえます。

2 前輪があぜにあたるまで植えます。

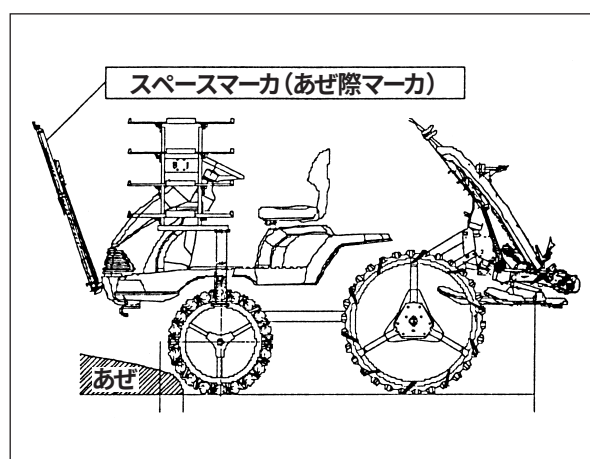


PG0172

3 スペースマーカ（あぜ際マーカ）のマークステーを垂直位置にもどし、マーカをホルダに押し込んで固定してください。

4 副変速レバーを「後進」にして旋回可能なところまでさがります。

5 副変速レバーを「前進」にして、ステアリングを回し旋回する側のブレーキペダルを踏んでください。



PG0173

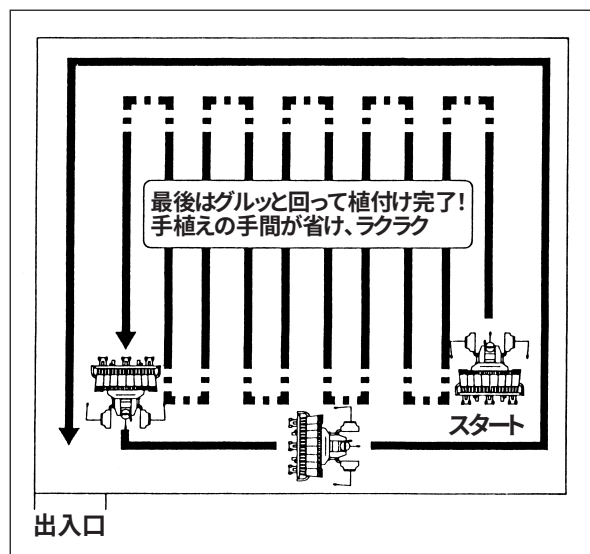
8. 作業のしかた

6 センターマスコット、隣接マーカで隣接条との条間を合わせ機体の進行方向にまっすぐ向けて植え始めてください。

7 最後には場を一廻りして植付けしますと植え残しもなく効率よく田植えができます。

補足

- スペースマーカ（あぜ際マーカ）を使用したあとは必ず収納してください。（あぜ等に当たり変形する恐れがあります。）
- スペースマーカ（あぜ際マーカ）伸縮時は、ロック位置付近でひねりながら行なうとスムーズに行なえます。



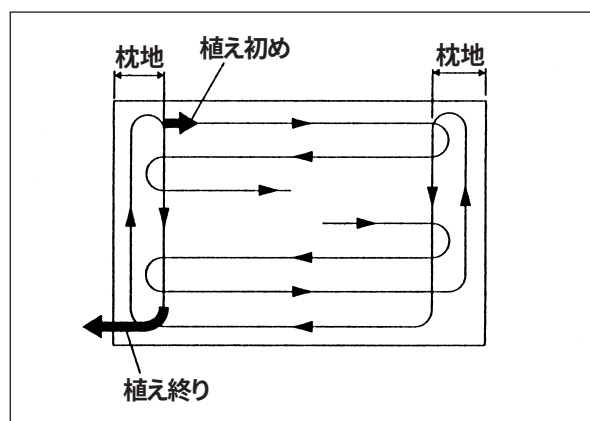
PG0174

8.1.2 枕地のとりかた

枕地はあらかじめ1往復分残して植付ければ、能率的に枕地植えが行なえます。

補足

- ほ場が長方形でない場合は、まっすぐで最も長いあぜに沿って植え始めると、きれいに植付けができます。



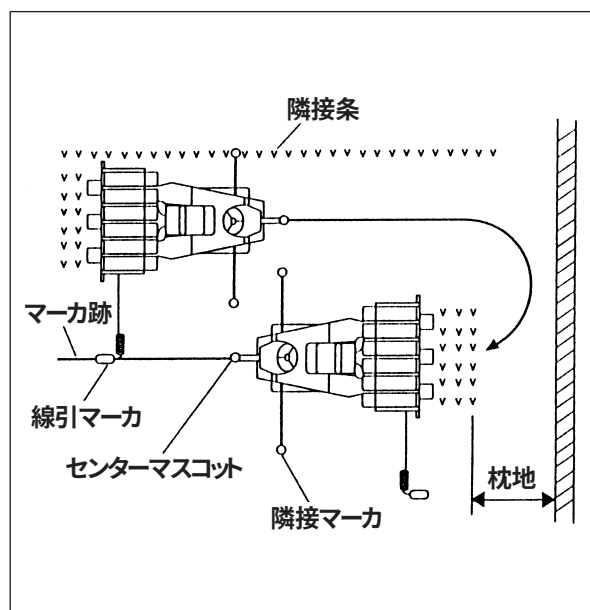
PG0175

8.1.3 旋回のしかた

1 あぜに近づいたら、副変速レバーを「低速」にし、あぜから枕地分手前でらくらくレバーの黄色ボタンを押し、植付部を「上」にします。

2 ステアリングをいっぱいまで回してください。また、旋回する側のブレーキペダルを踏むことにより、さらに小さく旋回することができます。

3 センターマスコット、隣接マーカで隣接条との条間を合わせ機体を進行方向にまっすぐ向けてください。



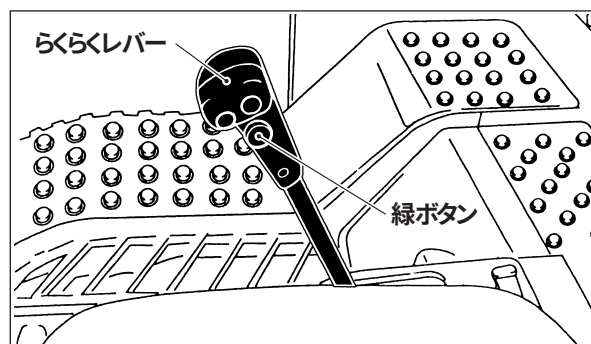
PG0176

4 らくらくレバーの緑ボタンを押し、植付部を下げて、次の植付行程側の線引マーカを出します。

5 枕地分をすぎた所で、再度らくらくレバーの緑ボタンを押し、モニターランプの「植える」の点灯を確認して植え進んでください。線引マーカは、植付部を上下することにより自動的に左右交互に倒れます。

補足

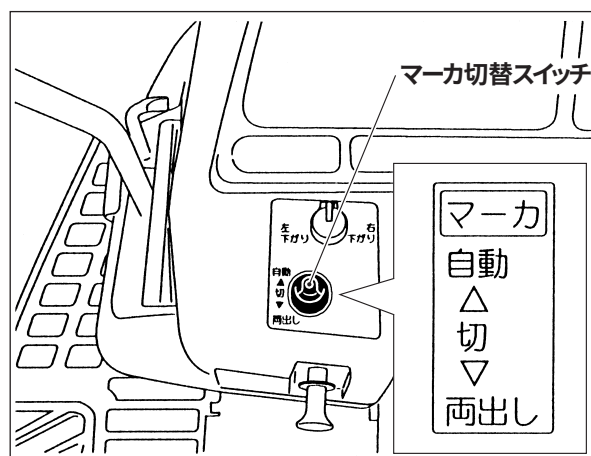
- センターマスコットは、1行程前に線引マーカでつけたマーカ跡に合わすと隣接との条間が合います。
- 隣接マーカは、1行程前に植付けられた隣接条に合わせると条間が合います。



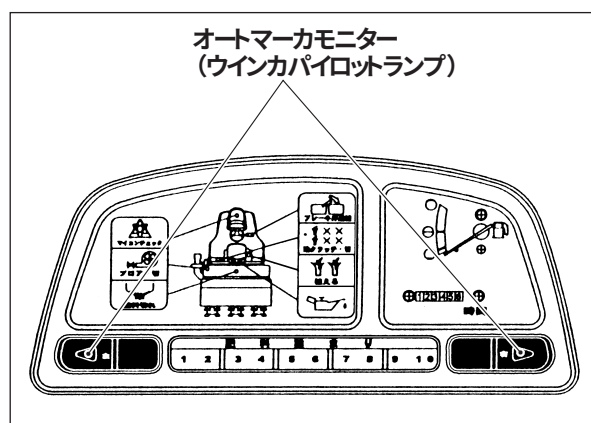
PG0177

8.1.4 オートマーカの使いかた

- (1) マーカ切替スイッチを「自動」にすると、線引マーカの出る側のオートマーカモニターランプが点灯します。
- (2) 線引マーカの出る方向を切替えるときには、らくらくレバーを「上げ」操作し、植付部をいっぱい上げてから、オートマーカモニターランプが切替わったことを確認して、植付部を下げてください。
- (3) 植付部が上がっているとき、らくらくレバーを「上げ」操作する度に、線引マーカの出る方向が左右交互に切替わります。



PG0178

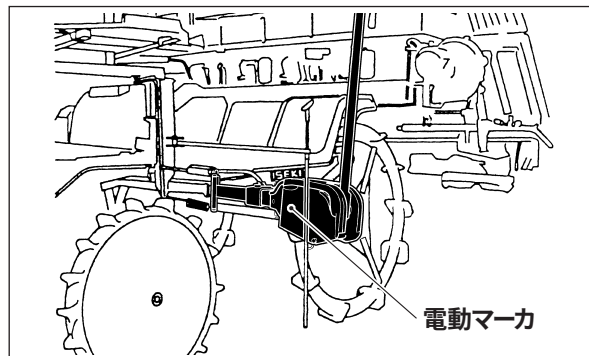


PG0179

8.1.5 電動マーカの使いかた

■点検

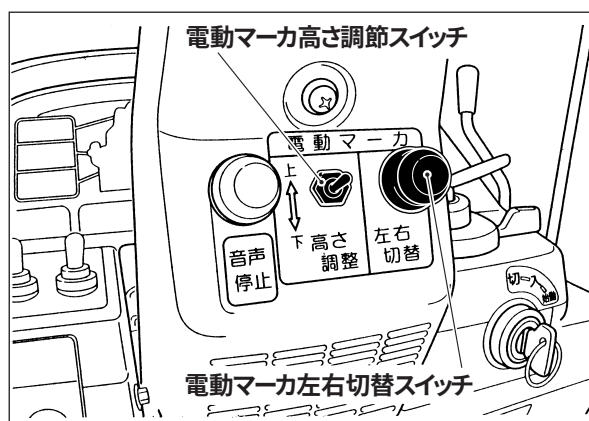
- (1) マーカ切替スイッチを「自動」にすると、電動マーカが出る側のオートマーカモニターランプが点灯します。
- (2) 電動マーカの出る方向を切り替えるときは、らくらくレバーの「上」スイッチを操作することにより、左右交互に切り替わります。
- (3) 深いほ場やあぜ等で、マーカの接地に不具合がある場合は、マーカ高さ調節スイッチでマーカ高さを調節してください。（ 24ページ）



PG0180

補足

- 電動マーカ左右切り替えは、電動マーカ左右切替スイッチの操作で植付部が下がっていても切り替えることができます。
- 電動マーカ高さ調節スイッチにて調節したマーカの高さは、メインスイッチを「切」にするまで保持され、再度「入」にすると工場出荷時の高さに戻ります



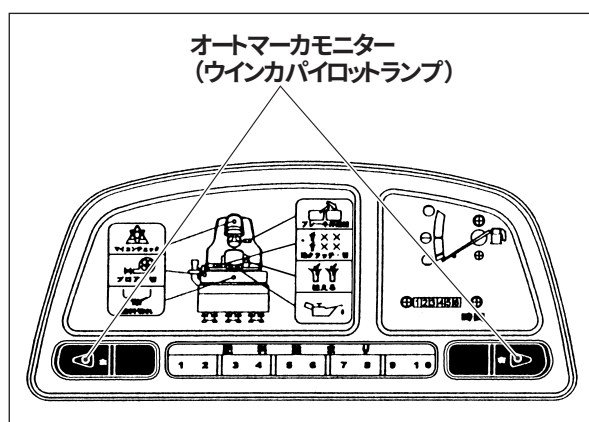
PG0181

8.1.6 マーカ両出しのしかた

マーカ切替スイッチを「両出し」にすると、左右の線引きマーカが同時に出来るようになります。このとき、オートマーカモニターランプが左右とも点灯します。

補足

- 植付部をいっぱい上げて、マーカ切替スイッチを「切」にすると、両側の線引マーカは出ません。



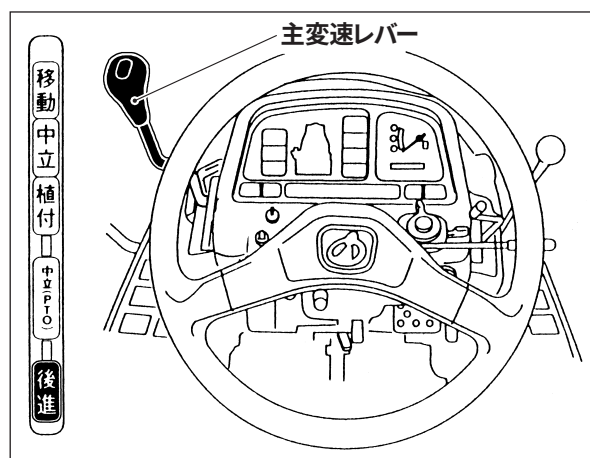
PG0182

8.1.7 バックリフトの使いかた

- (1) 植付部が「下降」状態のとき、主変速レバーを「後進」に操作すると、植付部が上昇します。
- (2) バックリフト切替スイッチを「切」にするとバックリフトは作動しません。
(☞ 26ページ)

補足

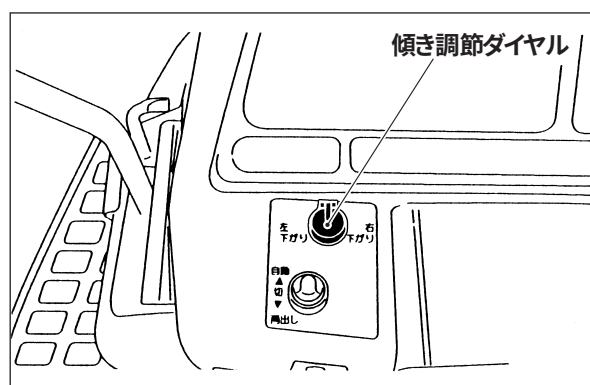
- バックリフトが作動中でも、らくらくレバーの下げ操作で、バックリフトより優先して植付部を下降させることができます。



PG0183

8.1.8 傾き調節ダイヤルの使いかた

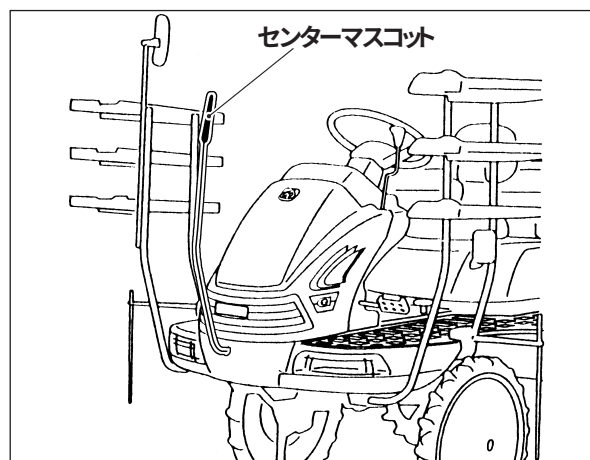
- (1) 各部の名称とはたらきの「傾き調節ダイヤル」を参照してください。(☞ 25ページ)
- (2) あぜぎわで植付部を傾けて作業したいときは、傾き調節ダイヤルで傾けて作業できます。



PG0184

8.1.9 苗の補給のしかた

- 1 苗が一定量まで減少すると、センターマスコットが点滅し、音声モニターで知らせます。



PG0185

8. 作業のしかた

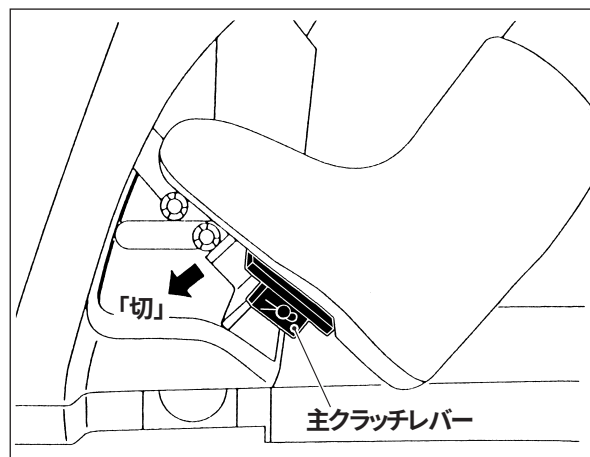
2 主クラッチペダルを踏込み、ペダルを固定してクラッチを切ります。

3 補助苗を苗取板で取り、上の方からゆっくりと苗のせ台にすべりこませてください。

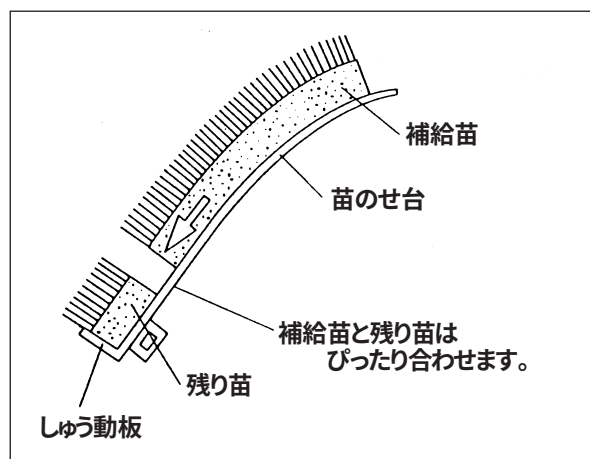
4 苗補給が終わったら、主クラッチペダルとロック解除ペダルを同時に踏み、徐々に離して発進してください。

補足

- 苗補給する時には、残り苗と補給苗がぴったり合うように注意してください。
- AN型
苗のせ台が右側に寄ってブザーが鳴ると主クラッチペダルを踏込み、機械を停止後、静かに苗を補給してください。
- 苗補給後の苗取板は苗とりバスケットに入れてください。



PG0186



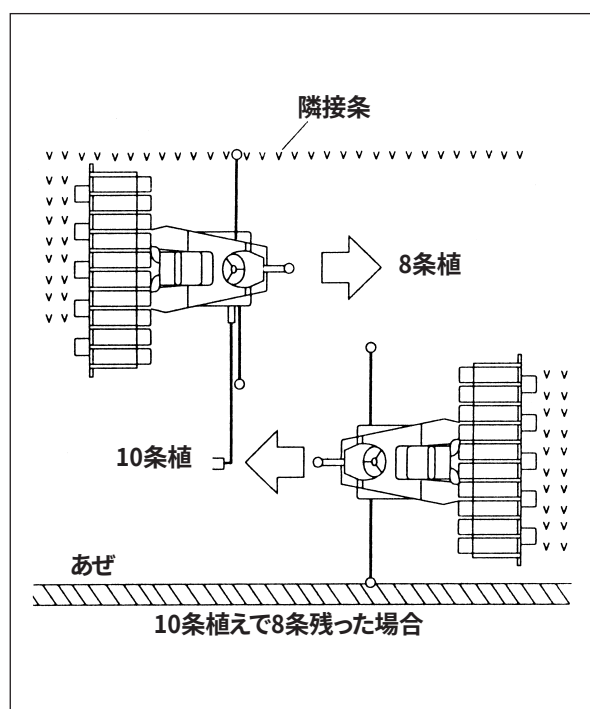
PG0187

8.1.10 植えじまいのしかた

植付けの最終行程（あぜぎわでの植付け）を使用機械の条数に合わせるためには、前行程で植付け条数の調整をする必要があります。任意の条数を植えたときは、植込杆停止レバーと苗ストッパを使って行なってください。

補足

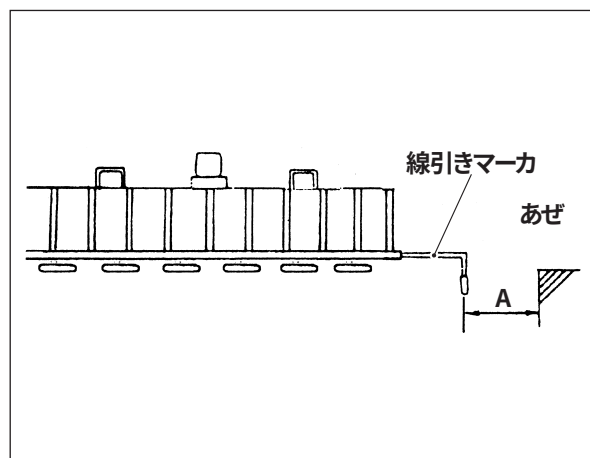
- 苗の葉を両手でもっと苗がくずれるような弱い苗で、長い距離を特定条のみ植付停止する場合は、苗ストッパを使用してください。（植込杆停止レバーを使用すると、停止条の苗がくずれ植付再開時、欠株を生じる場合があります。）



PG0188

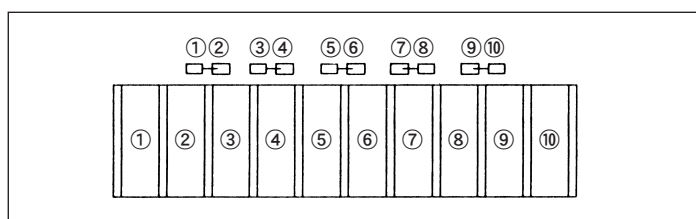
■最終行程での植付条数のきめかた

Aの距離	
165cm程度の時	10条植え
135cm程度の時	9条植え
105cm程度の時	8条植え
75cm程度の時	7条植え
45cm程度の時	6条植え
15cm程度の時	5条植え
あぜへ15cm程度のり上げる時	4条植え
あぜへ45cm程度のり上げる時	3条植え
あぜへ75cm程度のり上げる時	2条植え
あぜへ105cm程度のり上げる時	1条植え



PG0190

植込杆停止レバーを「切」位置にすることにより、
下図に示す条の植付けを停止することができます。

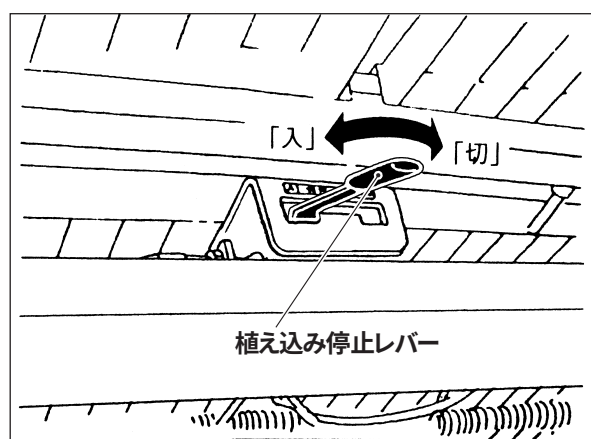


PG0189

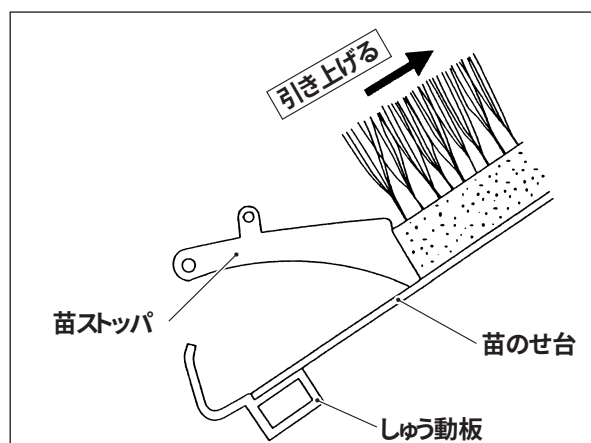
補 足

- 植込杆停止レバーを「切」位置で使用した後は、必ず「入」の位置に戻してください。

1条単位で植付けを停止したい時には、植付けを止
めたい条の苗を上引き上げ、苗ストッパーを座席下
部よりはずし、右図のように取付けてください。



PG0191



PG0192

⚠ 注意



苗ストッパーを使用した後は、必ず苗押えから取り外し、座席下に収納してください。

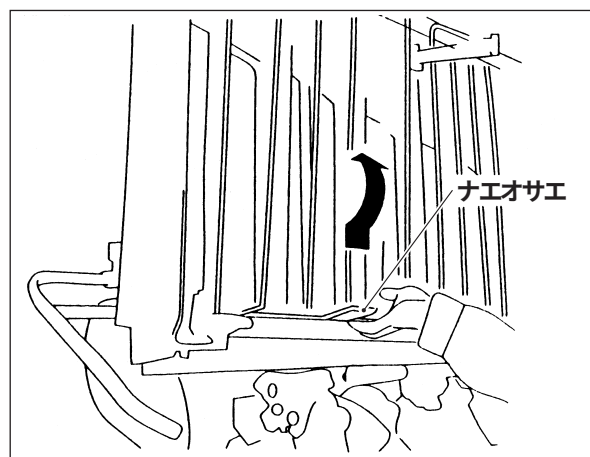
※ 苗ストッパーが後方に倒れて植込杆と接触し、部品を破損するおそれがあります。

8.1.11 残り苗の取り出し

植付作業が終わり、苗のせ台に残った苗を取り出す場合には、ナエオサエを上引き抜き、ガイド穴からはずし、上側に回してください。

補足

- 苗の取り出しが終わったら、ナエオサエは、必ず作業位置（ガイド穴）に戻してください。



PG0193

8.1.12 安全クラッチが作動したとき

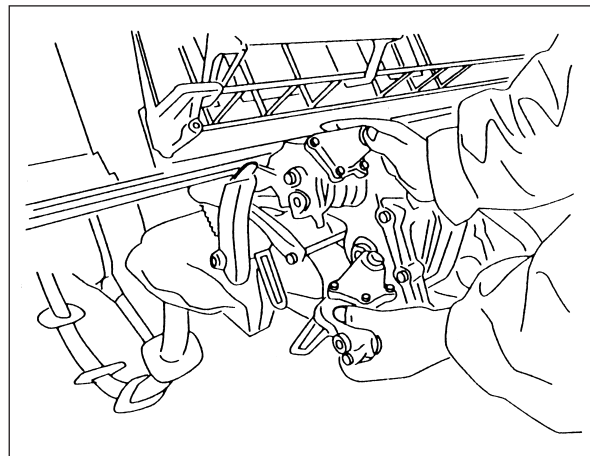
⚠ 注意



横送り量の切り替えはエンジンを停止して行なってください。

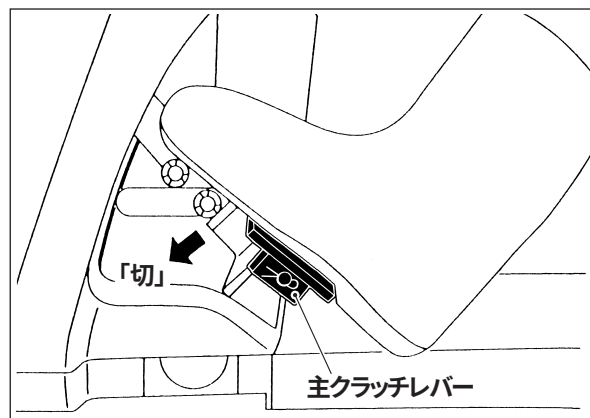
※ これを怠ると作業機を破壊したり、傷害事故の原因となります。

植付け作業中、植込杆が止まりカチカチ音がする場合は安全クラッチが働いていますので次の処置をしてください。



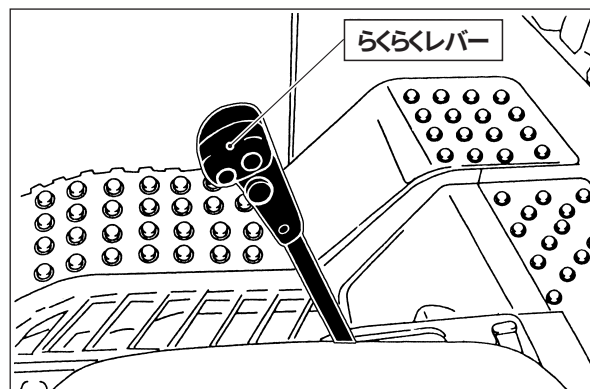
PG0194

- 1** ただちに主クラッチペダルを踏込み、クラッチを切り、主クラッチペダルをロックさせます。



PG0195

- 2** らくらくレバーの(植)ボタン（緑色）を押し植付を「切」にし、エンジンを停止します。



PG0196

- 3** 苗取口と植付爪の間、植込杆とフロートの間などに石等をかんでいないか確認し、取除いてください。
- 4** 植込杆が軽く回転するか、しゅう動板との干渉はないか、植付爪は変形していないかを確認してから植付けを再開してください。
- 5** 植付爪が変形している場合には、交換してください。

補足

- 植付爪が曲がったり破損した時は、お買いあげ先へご連絡ください。

9. 点検整備

9.1 定期的な点検整備

警告



取扱説明書に従って定期点検を実施してください。

※ 田植機を長持ちさせるとともに、正しく効率的な作業が行える第一歩です。

点検・整備をするときは、平たんな広い場所で行ってください。

※ 守らないと、重大な傷害事故を引き起こすおそれがあります。

点検や整備をするときは、十分な明るさを確保してください。

※ 暗い所で行っていると、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

点検・整備するときは、必ずエンジンを停止し、ブレーキペダルをロックし、駐車ブレーキをかけて、植付部の油圧を感度調節レバー「植付固定」位置で固定してから行ってください。

※ 怠ると手や衣服が巻きこまれたり、はさまれたりするおそれがあります。

点検や整備を行うときは、適正な工具を正しく使用して行ってください。

※ 間に合わせの工具で行うと、整備中の傷害事故や整備不良により思わぬ事故を引き起こします。

点検・整備するときは、マフラ等の過熱部分のゴミ・ホコリはきれいに取り除いておいてください。

※ 怠ると、作業中に発火したりして火災を引き起こすおそれがあります。

点検・整備で取り外した保護カバー類は、必ず元のとおりに取り付けてください。

※ 外したままエンジンをかけると、回転部や過熱部がむき出しになり、傷害事故の原因となります。

傷害や火災のおそれがある場合は、救急箱や消化器を準備してください。

※ 万一、傷害や火災が起きても大事に至ることを防ぎます。

部品交換をするときは、必ずメインスイッチを「切」にして行ってください。

※ 守らないと、傷害事故の原因となります。



作業中は火気厳禁です。

※ 守らないと、火災の原因となります。

エンジンを切ってすぐに点検・整備をしないでください。

エンジン等の過熱部分が完全に冷えてから行ってください。

※ 守らないと、やけど等の原因となります。

指定以外のアタッチメントの取り付けや、改造は、絶対にしないでください。

※ 守らないと、故障や事故の原因になります。

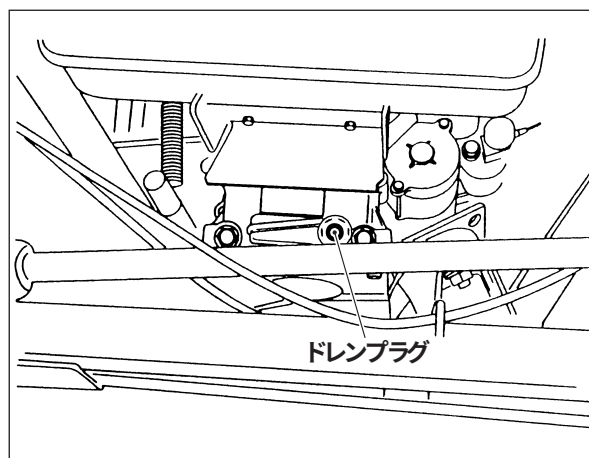
9.1.1 点検、給油、調整一覧表

○：点検 △：給油 ×：交換

点検・給油・調整項目		点検時間				備考	参照ページ
		毎日	50時間	100時間	不調時のみ		
エンジン部	エンジンオイル	○	×			キセキ純正オイル10W30# 又は30#（SE級以上） 初回のみ20時間で交換	96
	オイルフィルタ					200時間毎に交換	96
	エアクリーナエレメント清掃			○		スポンジエレメントは25時間毎	99
	点火プラグの清掃				○	毎シーズン始め	100
	ラジエータ冷却水	○				1年1回交換（約2.2ℓ）	97
	ラジエータの清掃				○	冷却水交換時	99
走行部	標準型	チェンジミッションオイル（油圧オイル兼用）			×	キセキハイポイドギヤオイル80#	48
		油圧サクションフィルタ			○	オイル交換時掃除	100
	リヤミッションオイル		分解補給時			キセキハイポイドギヤオイル80# 各2.4ℓ（標準型） 各3.65ℓ（Y型）	101
	植付クラッチケースオイル		分解補給時			キセキハイポイドギヤオイル80# 0.4ℓ	101
	主クラッチペダルの点検		○			毎シーズン始め	102
	ブレーキペダルの点検		○			毎シーズン始め	102
	注油指定個所		△			注油	50
	バッテリーの点検		○			毎シーズン始め	107
植付部	植付部フレーム		分解時補給			キセキハイポイドギヤオイル80# 1.3ℓ	44
	サイドフレーム		分解時補給			キセキハイポイドギヤオイル80# 0.4ℓ	44
	ロータリケース		分解時補給			ユニループ 00#適量	44
	植込杆			○		ウエコミカンングリス適量（ワンルーバー MP1#）	48
	フィンガ（13/G）（14/G）（植付爪）交換調整		○			× 摩耗、変形時 毎シーズン始め点検	105
	注油指定個所		○			注油	44
その他	電気配線の接続部（カプラ）のゆるみ 損傷 ヒューズ等の点検					○ 毎シーズン終了時	—
	各ワイヤの点検調整					○ 毎シーズン始め	—

9.1.2 エンジンオイルの交換

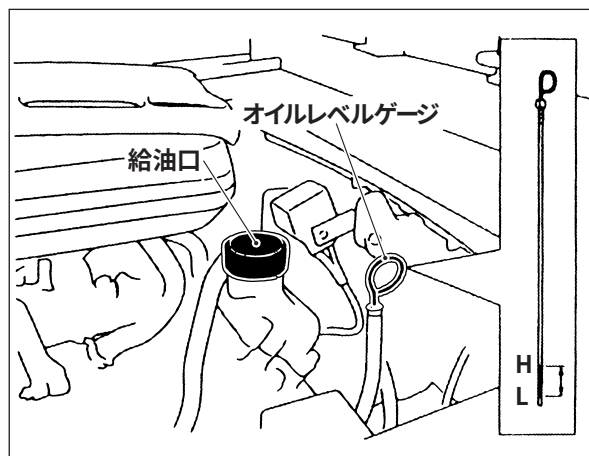
- 1 エンジンを暖気運転後、ドレンプラグを外しオイルを抜いてください。



PG0197

- 2 ドレンプラグを締付後、給油口からエンジンオイルを給油してください。

- 3 オイルレベルゲージの上下刻線の上に油量があるか確認してください。



PG0198

機 種	搭載エンジン	オイル量
PG10	FD620	1.3 ℓ (オイルフィルタ 交換時1.5 ℓ)

9.1.3 エンジンオイルフィルタの交換

- 1 オイルフィルタを反時計方向にねじってはずします。

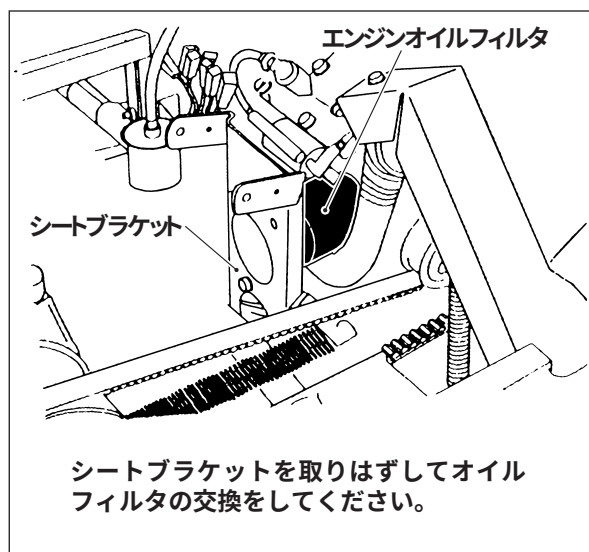
- 2 新しいフィルタと交換し、フィルタのゴムシール部にオイルを薄くぬり、元のように締め付けます。

補 足

● 交換用フィルタ

部品コード	品 名
5490-652-071-××	オイルフィルタ

交換後エンジンを回すと、オイルフィルタに入っていた量だけオイルが減ります。規定量までオイルを追加してください。

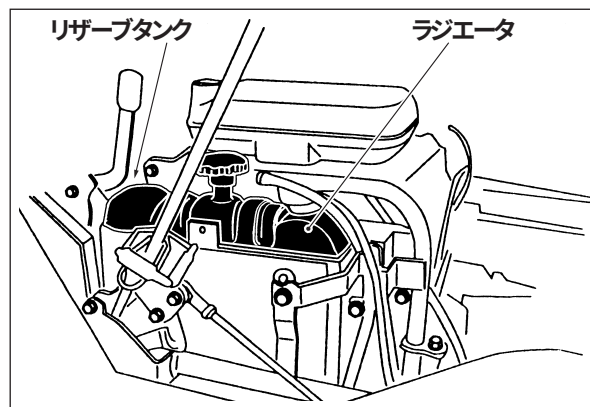


PG0199

9.1.4 冷却水（リザーブタンク）

■点検

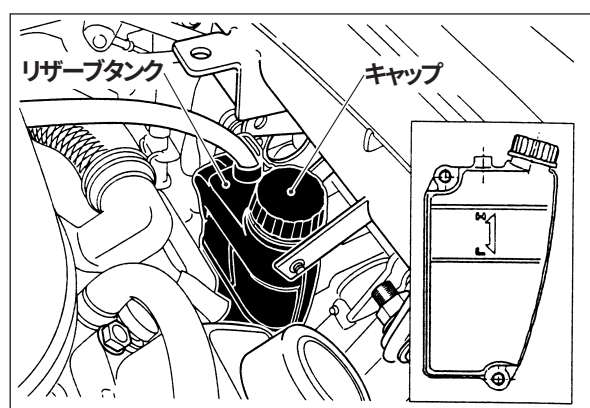
- 1 冷却水点検時には、エンジンカバーをあけてください。



PG0200

- 2 エンジン後部にあるリザーブタンク内の冷却水量が規定範囲内（H⇔L）にあるかどうか点検し、少ない場合はHラインまで補給してください。
※冷却水が緑色をしている場合は、不凍液が入っています。

- 3 点検後リザーブタンクのキャップを確実に締めて、エンジンカバーを閉じてください。



PG0201

9.1.5 冷却水（ラジエータ）

⚠ 警告



ラジエータキャップは、エンジン運転中および停止直後に開けないでください。

運転停止後10分以上たってよく冷えてから、注意しながら開けてください。

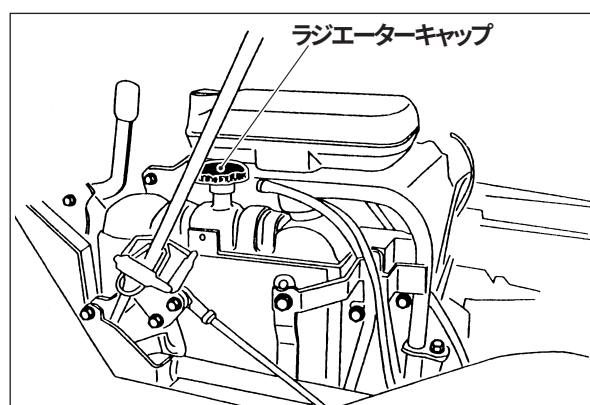
※ 守らないと、熱湯が噴出してやけどをするおそれがあります。

■点検

ラジエータキャップを外し「口元」まで入っているかどうか点検し、少ない場合は補給してください。
冷却水が緑色をしている場合は、不凍液が入っています。

不凍液

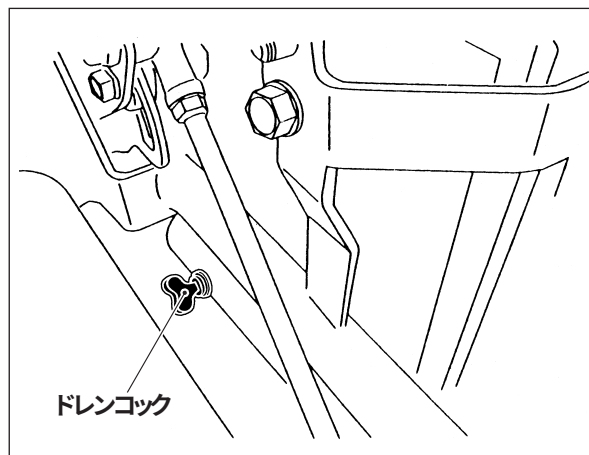
モービル石油：モービルロングライフクーラント
シェル石油：アンチフリーズ
他有名メーカー品を使用



PG0202

■交換

- 1 冷却水を抜くときは、エンジン右側のドレンコックを開けて抜きます。ラジエータキャップを同時に開けると、冷却水は勢いよく排出されます。
- 2 水道の水でラジエータ内部をよく洗浄してください。
- 3 冷却水は不凍液濃度50%のものを約2.2ℓ用意してください。
- 4 ドレンコックを閉じて、冷却水を注入し、ラジエータキャップを確実に締めてください。
- 5 エンジンを始動し、約5分間ほどアイドリング回転で運転し、再度冷却水の量を確認し不足していれば補給してください。



PG0203

■不凍液の使いかた

冷却水が凍結すると、エンジンを破損することがあります。冬期、気温が0℃以下になるようなときは、不凍液を混入してください。

- 1 不凍液を入れる前に、よくラジエータ内部を洗浄してください。
- 2 不凍液の混合は、不凍液メーカーや気温により異なりますので、不凍液メーカーの説明書に従ってください。
- 3 不凍液は水とよく混合し、注入してください。
- 4 不凍液の補給
 - (1) 蒸発の場合……………
冷却水が減った分だけ、水を補給してください。
 - (2) ブリーザより漏れた場合……………
同じ比率に混合した不凍液を補給してください。

補足

- 不凍液は産業廃棄物にあたります。河川、土壌への廃棄は行わないでください。廃棄するときはお買いあげ先にご連絡ください。

9.1.6 ラジエーターホース

⚠ 警告



ラジエーターホースは使わなくても劣化します。シーズン前には、締付バンドのゆるみ、ホースの傷を必ず点検し、2年毎に交換してください。

※ 怠ると、ラジエーターホースが破損し、熱湯が吹き出しやけどをするおそれがあります。

9.1.7 ラジエーターの清掃

■ラジエーターコアの清掃

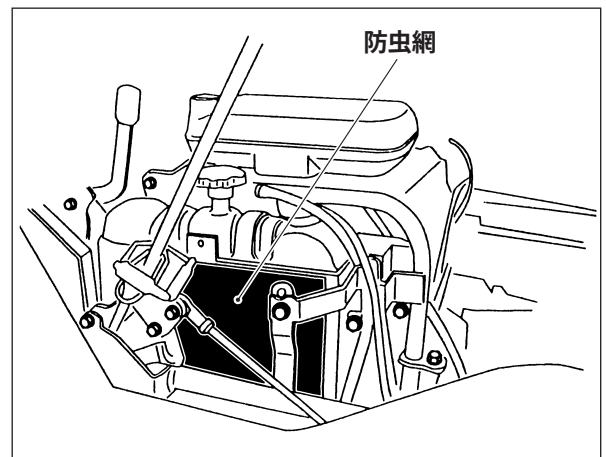
フィンとチューブの間にまで、ゴミが入った場合は、水道水で流してください。

補足

- 強い圧力水をかけると、フィンが変形することがありますから、注意してください。
- エンジンのまわりの電気配線・電装品には水をかけないでください。

■防虫網の清掃

夜間の走行をすると、ラジエーターに虫が付着し詰まることがありますので、こんなときは防虫網を清掃してください。防虫網を引き出して清掃します。



PG0204

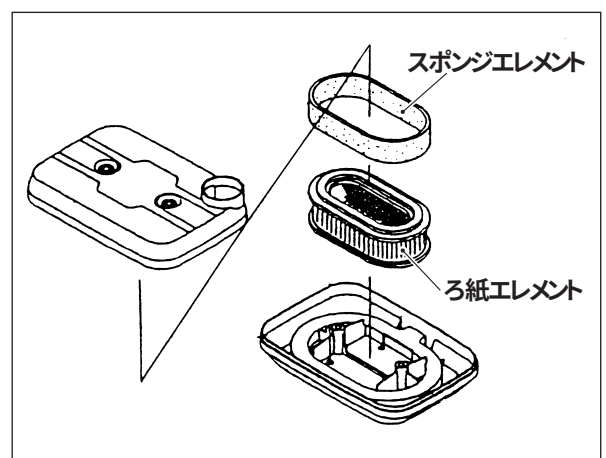
9.1.8 エアクリーナエレメントの洗浄

■スポンジエレメント

- (1) 25時間毎に清掃してください。
- (2) 石けん液で洗浄した後水洗いし、よく乾燥させ、エンジンオイルに浸して固く絞ってから取付けてください。

■ろ紙エレメント

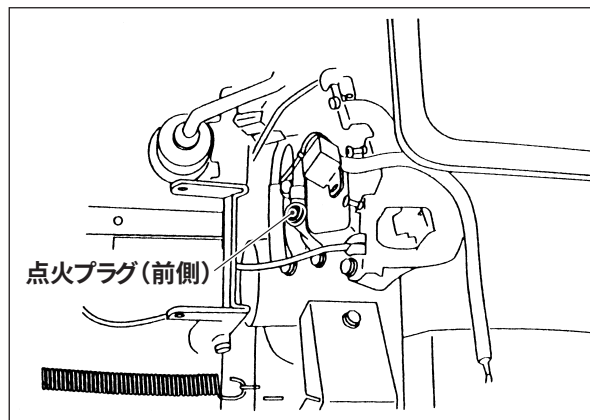
- (1) 100時間毎に清掃してください。
- (2) 軽く叩いてホコリを落としてください。汚れのひどい場合は新品に交換するか、石けん液で洗浄した後、水洗いし、よく乾燥させてから取付けてください。
- (3) ホコリの多い場所では、運転前に点検し、早めに清掃してください。



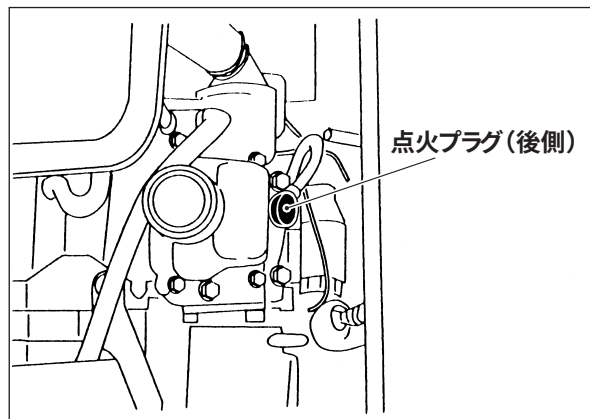
PG0205

9.1.9 点火プラグの清掃

- 1 付属のボックスレンチで点火プラグ(前後2カ所)を取り外してください。



PG0206

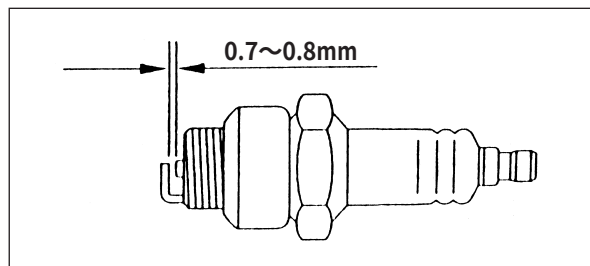


PG0207

- 2 点火プラグに付着しているカーボンを取り除き、電極間を0.7～0.8mmに調整してください。

補足

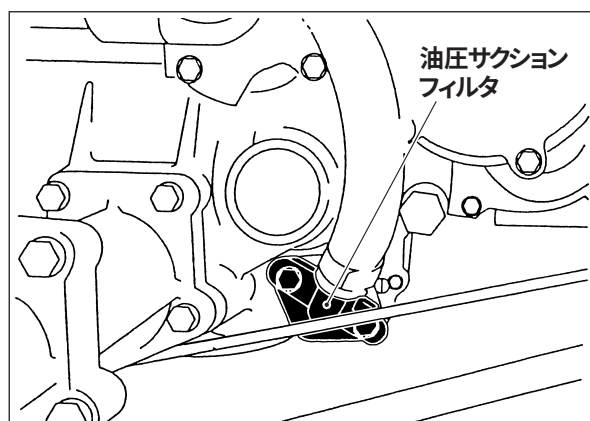
- 使用点火プラグ
NGK BPR4ES (2個)



PG0208

9.1.10 油圧サクションフィルタの清掃

オイル交換時に、2本のボルトをはずして引き抜き、点検・清掃してください。



PG0209

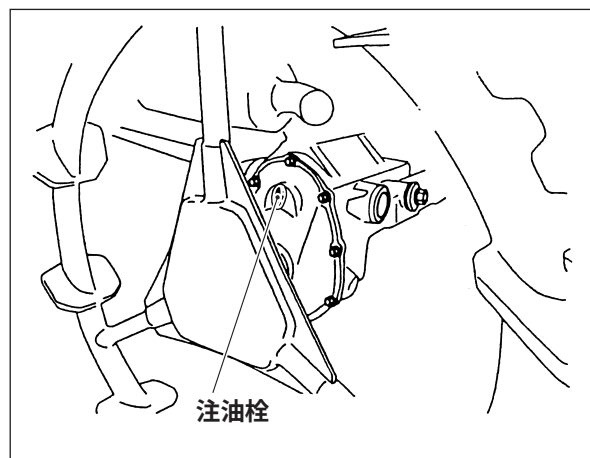
9.1.11 リヤミッションオイルの給油

リヤミッション分解時には、キャップをはずしてオイルを給油してください。

キヤキハイポイドギヤーオイル80#

左右各2.4ℓ（標準型）

左右各3.65ℓ（Y型）

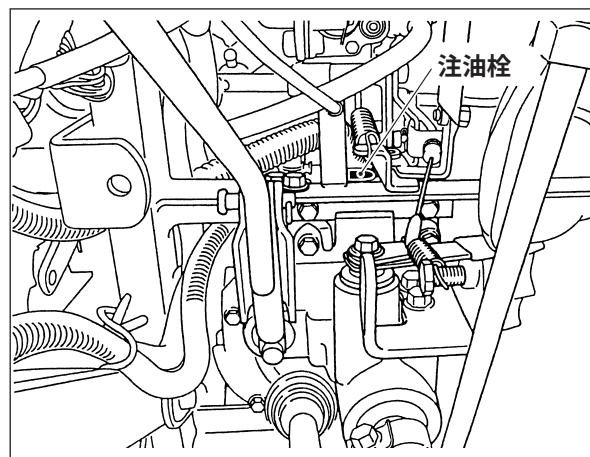


PG0210

9.1.12 植付クラッチケースの給油

植付クラッチ分解時には、黄色の注油栓をはずしてオイルを給油してください。

キセキハイポイドギヤーオイル80#0.4ℓ



PG0211

9.1.13 ブレーキペダルの点検

⚠ 警告



ブレーキペダルの点検時左右のペダルの踏み込み量を合わせてください。

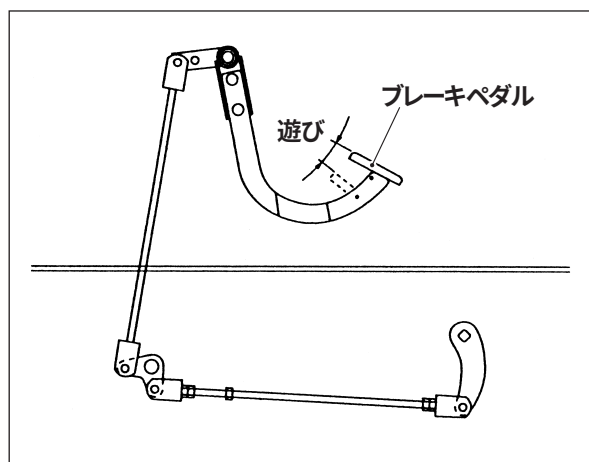
※ これを怠ると、ブレーキが片ぎきになったりして、傷害事故の原因となります。

■点検のしかた

ブレーキペダルを軽く手で押し、左右のペダルの遊びが同じか確認してください。遊び10～25mm

補足

- 左右のブレーキペダルはハンドルの操作と連動しております。上記の遊び範囲を超え調整が必要な場合は、必ずお買い上げ先にて調整を行なってください。



PG0212

9.1.14 主クラッチペダルの点検と調整

⚠ 警告



主クラッチペダルの遊びを調整してください。

※ これを怠ると、クラッチが切れず、傷害事故の原因となります。

■点検のしかた

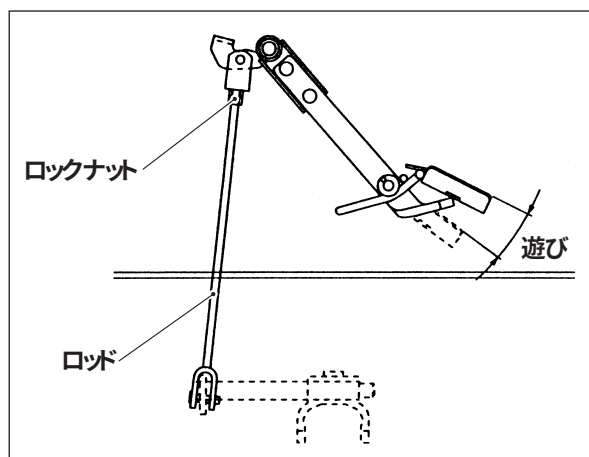
主クラッチペダルを軽く手で押し、ペダルの遊びが15～25mmになっているか確認してください。

■調整のしかた

ロッドのロックナットをゆるめ、ロッドを回して調整してください。

補足

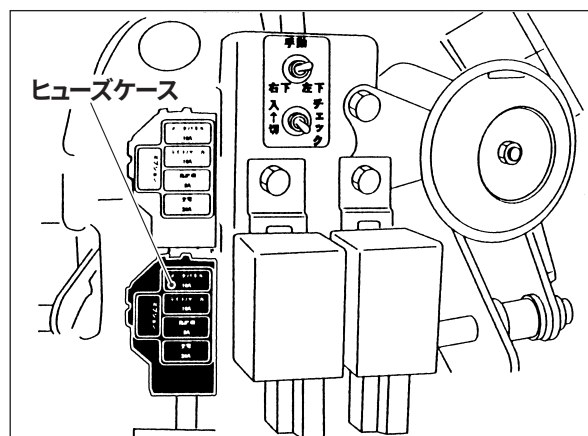
- 調整後は、ロックナットを確実にしめつけてください。



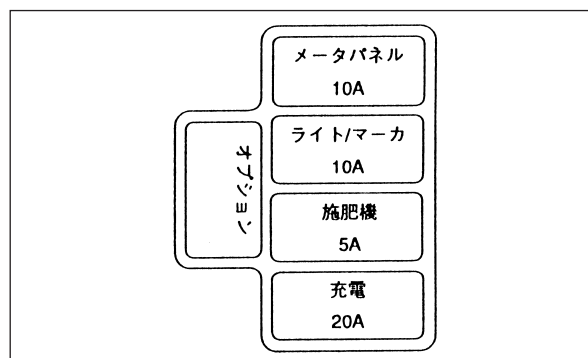
PG0213

9.1.15 ヒューズの交換（5 A，10 A，20 A）

- 1 ボンネットを外し、ヒューズケースを開いてください。
- 2 中にヒューズが入っています切れたヒューズを外します。
（5 A，10 A，20 A）
- 3 同容量のヒューズと交換してください。



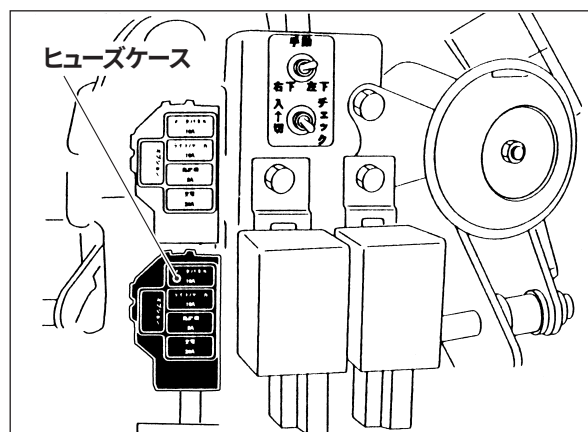
PG0214



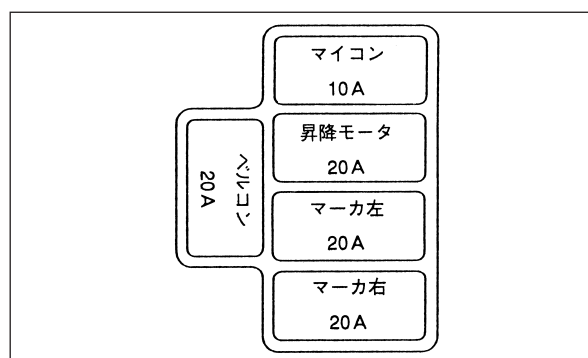
PG0215

9.1.16 ヒューズの交換（10 A，20 A）

- 1 ボンネットを外し、ヒューズケースを開いてください。
- 2 中にヒューズが入っています切れたヒューズを外します。
（10 A，20 A）
- 3 同容量のヒューズと交換してください。



PG0216



PG0217

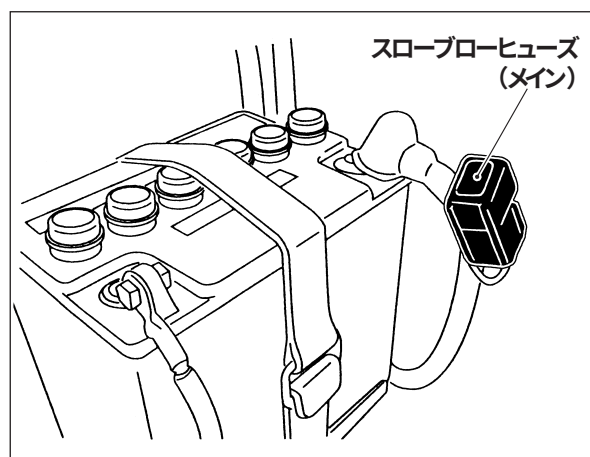
補足

- ヒューズを交換しても再びヒューズが切れる場合は、お買い上げいただいた先へご相談ください。

9.1.17 スローブローヒューズの交換

- 1 ボンネットを外してください。
- 2 バッテリ＋端子部にスローブローヒューズがあります。焼損したスローブローヒューズを抜き、同容量のスローブローヒューズと交換してください。

部品コード	品 名	容量
1650-650-222-00	ヒューズ(スローブロー)	40A

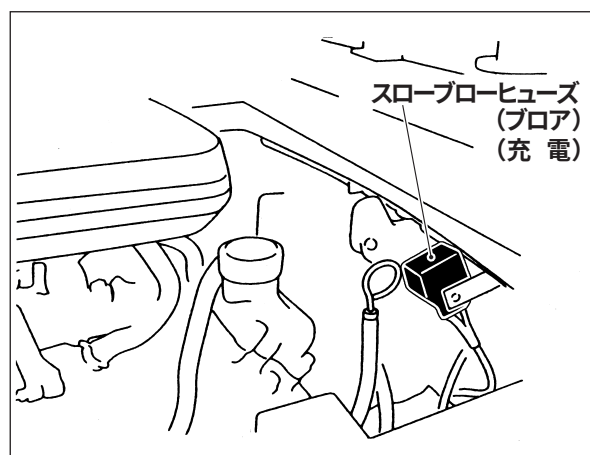


PG0218

9.1.18 スローブローヒューズの交換 (F型) (2ヶ)

- 1 エンジンカバーをあけてください。
- 2 エンジン後部にスローブローヒューズがあります。焼損したスローブローヒューズを抜き、同容量のスローブローヒューズと交換してください。

機種	部品コード	品 名	容量
PG10	1650-650-222-00	ヒューズ(スローブロー)	40A



PG0219

補 足

- スローブローヒューズが焼損した場合は、お買い上げ先へご相談ください。

9.1.19 ランプの交換

ランプを外し、同型のランプと交換してください。

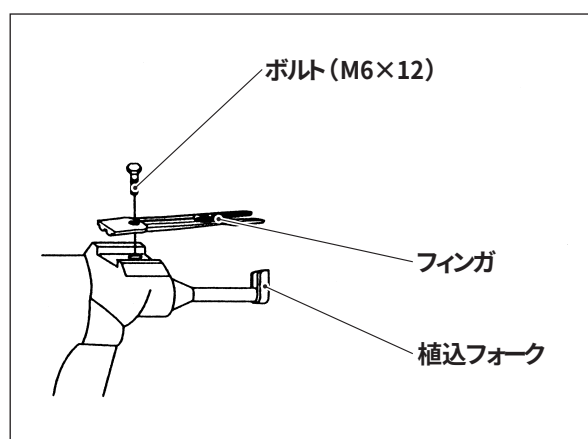
補足

- ランプが切れた場合は、お買い上げ先でご注文ください。

部品コード	品 名	使用場所
2161-532-202-00	バルブ(12V18W)	ヘッドランプ
2132-524-204-00	バルブ (ランプ/12V18W)	センターマス コットランプ
1560-658-280-40	バルブ(ランプ) SET	モニター ランプ

9.1.20 フィンガ（13/G）（14/G）の点検交換

フィンガが摩耗又は変形すると植付姿勢が悪くなります。この様な時はフィンガを交換してください。

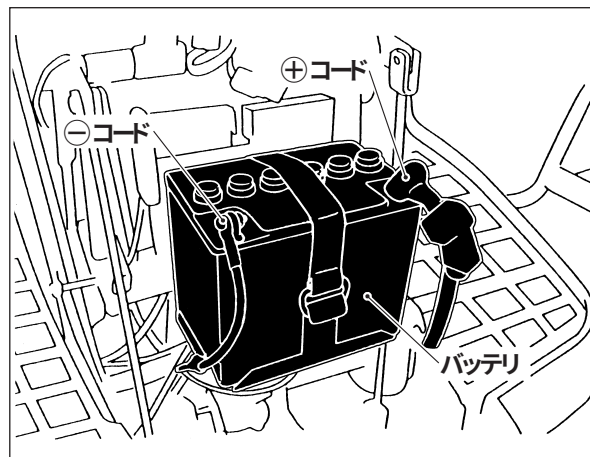


PG0220

9.2 電装関係を取扱うときは

9.2.1 電気配線点検時の注意事項

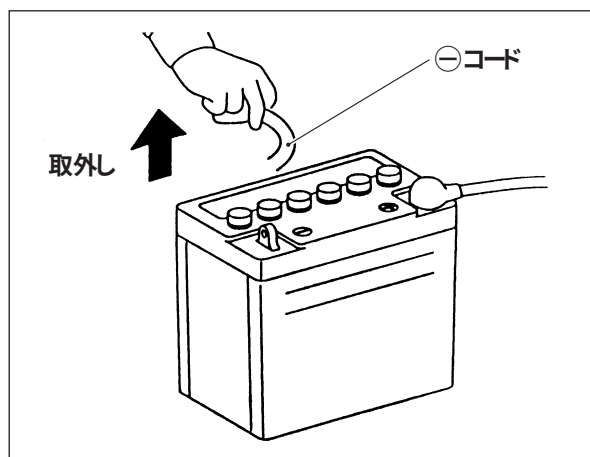
- 1** 電気配線の点検は、必ずエンジンを停止して行ってください。エンジンをかけた状態での点検は、手や衣服を回転部に巻き込まれたりして大変危険です。
- 2** 接続部の点検は、メインスイッチを「切」にし、バッテリーの⊖コードを外して行ってください。これを怠ると、火花がとんだり、感電したり思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。
- 3** 配線の端子や接続部のゆるみおよび配線の損傷は、電気部品の性能を損なうだけでなく、ショート（短絡）・漏電の原因となり火災事故になる恐れがあり大変危険です。傷んだ配線は、早めに交換・修理してください。
- 4** バッテリー、電気配線およびマフラやエンジン周辺部のワラくず・ゴミなどは、取り除いてください。これを怠ると火災の原因となります。



PG0221

9.2.2 バッテリー取扱い時の注意事項

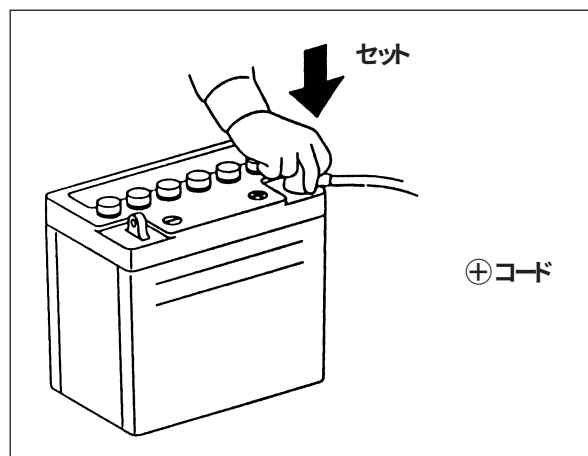
- 1** ショートやスパークさせたり、たばこ等の火気を近づけないでください。また充電や使用は、通風のよいところで行ってください。これを怠ると引火爆発することがあり大変危険です。
- 2** バッテリー液（電解液）は、希硫酸で劇物です。バッテリー液を体や服につけないようにしてください。失明ややけどをすることがあり大変危険です。もし目・皮膚・服についたときは、直ちに多量の水で洗ってください。なお目に入ったときは、水洗い後、医師の治療を受けてください。



PG0222

3 バッテリーの脱着および点検をするときは、エンジンを停止し、メインスイッチを「切」にしてください。これを怠ると、思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。

4 バッテリーコード（端子）を取外すときは、 $\ominus$ のコードを先に外します。バッテリーコードを取付けるときは、 $\oplus$ コードを先に取付けます。これを怠るとショートして火花がとんだりして危険です。



PG0223

9.2.3 バッテリーの点検と取扱い

■バッテリー液の点検

⚠ 危険



ショートやスパークさせたり、タバコ等の火気を近づけないでください。また充電は、通風のよいところで行なってください。

※ これを怠ると引火爆発することがあり大変危険です。



バッテリー液（電解液）を体や服につけないようにしてください。
バッテリー液は、希硫酸で劇物です。

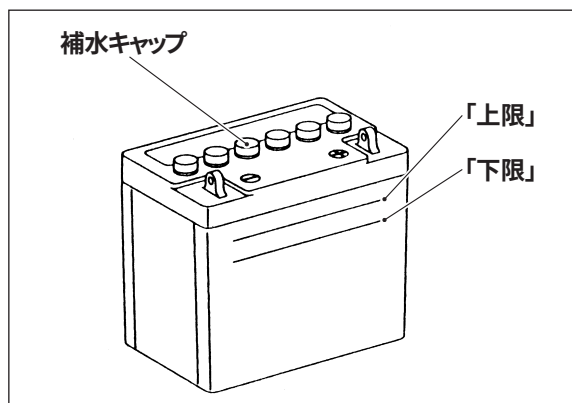
※ 万一目・皮膚・服についたときは、直ちに多量の水で洗ってください。
なお目に入ったときは、水洗い後、医師の治療を受けてください。

ブースターケーブル使用時には、危険のないように取扱ってください。（ 109ページ）

※ これを怠ると、重大な傷害事故を引き起こす原因となります。

バッテリー液は使っているうちに蒸発して減少します。バッテリー液量の点検は作業前に必ず実施し表示されている2本の線（レベル）の間に液面があるよう少ないときは、蒸留水を補給してください。

※ バッテリーの液量が下限以下になったまま、使用または充電すると、バッテリーの破裂（爆発）の原因となり大変危険です。（ 109ページ）



PG0224

補足

- バッテリー液が不足すると、バッテリーを傷め、多過ぎると液がこぼれて車体を腐蝕させます。

9.2.4 バッテリーの取扱い

- 1 気温が低下すると、バッテリーの性能も低下します。冬期は特にバッテリーの管理に注意してください。
- 2 バッテリーは使用しなくても自己放電しますから補充電を行ってください。
夏期… 2 ヶ月毎
冬期… 3 ヶ月以内
- 3 新品のバッテリーと交換する場合は必ず指定した型式（32A19L）のバッテリーを使用してください。

補足

- バッテリーは必ず車体から取り外して充電してください。電装品の損傷の他に配線などを痛めることがあります。
- バッテリーの急速充電はバッテリーの寿命を短くしますから、できるだけ避けてください。
- 充電は、バッテリーの⊕を充電器の⊕に、⊖を⊖にそれぞれ接続して、普通の充電法で行なってください。
- バッテリーを外し、再度取付けるときにはバッテリーの⊕、⊖のコードを元どおりに配線し、周りに接触しないように取付けてください。
- バッテリーコード（端子）を取外すときは⊖コードを先に外します。バッテリーコードを取付けるときは⊕コードを先に取付けます。これを怠るとショートして火花が飛んだりします。

9.2.5 ブースタケーブル使用時の注意事項

ブースタケーブル使用時には、危険のないように取扱ってください。

- 1 バッテリーの補水キャップを取外してから接続してください。補水キャップが取外してあれば、万一引火しても爆発力は低下しますので、被害は少なくなります。

- 2 ブースタケーブル接続前には、エンジンを停止してください。これを怠ると思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。
- 3 ブースタケーブルは、できるだけ通電容量の大きいものを選んで使用してください。通電容量が小さすぎると、ブースタケーブルが熱をもったり、焼損したりして危険です。

9.2.6 バッテリー液の注意事項

⚠ 注意

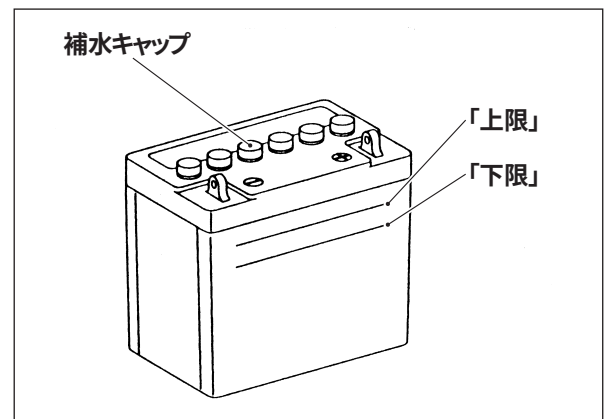


バッテリー交換をした際の古いバッテリーは、不法投棄をしないでください。

※ 法令により処罰されることがあります。お買い上げ先にご相談ください。

バッテリー液量の点検は作業前に必ず実施してください。

※バッテリーの液量がバッテリーの側面に表示されている下限（LOWER LEVEL）以下になったまま使用または充電すると、容器内の各部位の劣化が促進され、バッテリーの寿命を縮めたり、破裂（爆発）の原因となる恐れがあります。



PG0225

10. 格納時の手入れ

⚠ 警告



作業が終了して、シートカバー等を機械にかけるときは、過熱部分が完全に冷えてから行ってください。

※ 熱いうちにカバー類をかけると、火災の原因となります。

田植機の格納場所は、十分な明るさを。

※ 点検や移動のとき、暗い場所で行っていると、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 注意



点検・整備をするときは、必ずエンジンを停止し、メインスイッチを抜いてから行ってください。

※ 守らないと、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

10.1 日常の格納

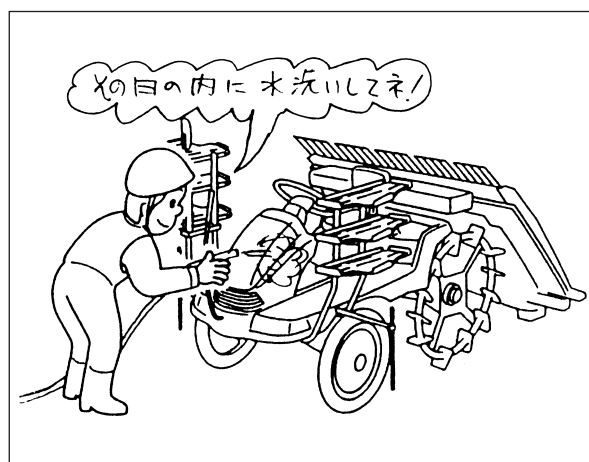
10.1.1 作業機の手入れ

1 作業後、その日の内に水洗いし、回転部などに巻き付いたゴミなどをきれいに取り除いてください。

2 水洗後、水滴を十分ふき取ってください。

3 回転部、しゅう動部にたっぷり油をさし、錆びやすい所にはグリースを塗ってください。
( 49・50・51ページ)

4 田植機を長期格納する場合は、バッテリーを外し、日光の当たらない乾燥した場所で保管してください。どうしても田植機に取り付けたまま保管しなければならないときは、必ずアース側(⊖側)を外してください。



PG0226

10.2 長期格納

⚠ 危険



燃料は必ず抜き取ってください。

※ 放置すると燃料が変質するばかりでなく、引火など火災の原因となる恐れがあり、大変危険です。



燃料抜取時は火気厳禁です。

※ 守らないと、火災の原因となります。

⚠ 警告



燃料がこぼれた場合はきれいにふき取ってください。

※ 守らないと、火災の原因となります。

1 格納場所は直射日光の当たらない風通しの良い場所を選定し、シートを掛けるようにしましょう。

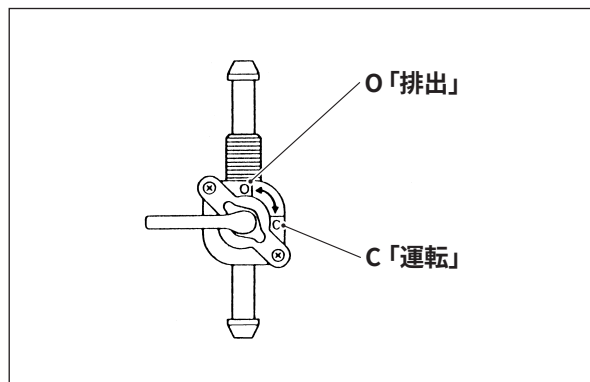
2 燃料は必ず抜き取ってください。

①燃料タンク、気化器

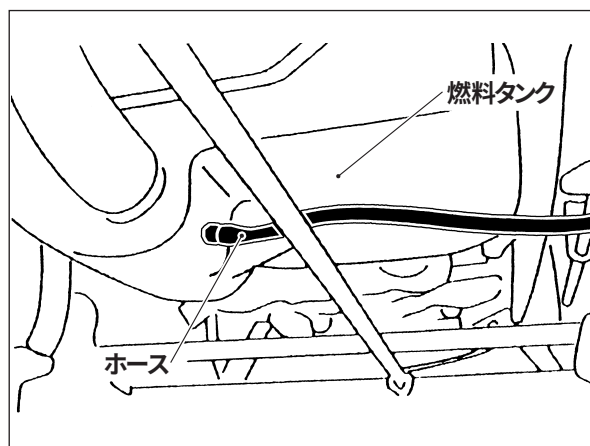
ワンタッチドレンコックを「O」位置にして、気化器の燃料を抜き取り、抜き取り後「C」の位置に戻してください。燃料タンク下側のホースを外して、燃料を抜き取り、抜き取り後、元に戻してください。

②ポット

リングナットをゆるめ、ポットを外し、灯油、ガソリン等で洗浄し、元通り組付けてください。



PG0227



PG0228

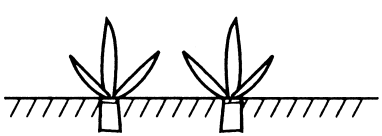
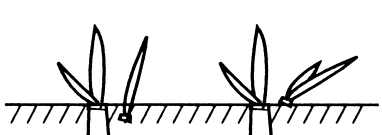
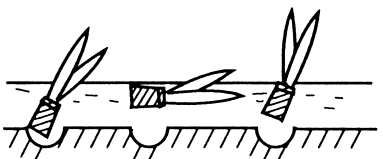
- 3 ラジエータの冷却水を抜いてください。排水後「水なし」と書いた札をハンドルにかかげておきましょう。
- 4 植付部は降してください。
- 5 クラッチペダルは踏込みロックしてください。
- 6 バッテリーは取りはずし充電を行ない日光の当たらない乾燥した場所に保管してください。

補足

- 夏期には2ヶ月、冬期には3ヶ月以内に充電をしないとバッテリーが長く使用できません。

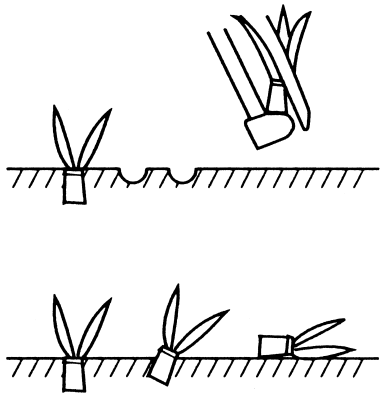
11. 不調時の処置

11.1.1 不調と処置

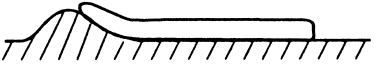
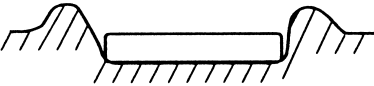
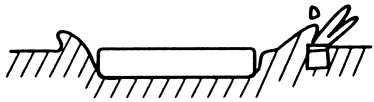
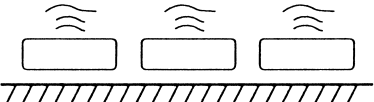
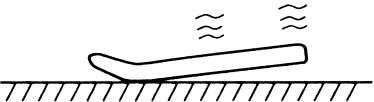
不 調 の 内 容	原 因	処 置 方 法
苗がバラけて植わる。 	●苗の根張りが悪い。 ●苗の床土が砂質で苗床に粘りが無い。	●苗に水をかける。 ●植付速度を遅くする。
	●苗の床土が乾いている。	●苗に水をかける。
	●植付速度が早すぎる。	●植付速度を遅くする。
苗が一本、二本だけ離れ植付が乱れる。 	●苗の根張りが悪い。 ●苗の床土が砂質で苗床に粘りが無い。	●抵抗棒のセット位置をかえる。 (80ページ) ●苗に水をかける。
	●抵抗棒のセット位置が悪い。	●抵抗棒のセット位置をかえる。 (80ページ)
	●苗の床土が乾いている。	●苗に水をかける。
植付爪であけた穴がふさがらず、水を入れると浮き苗となる。 	●ほ場が硬い。 ●砂質系のほ場。	●水を1～2cm入れてほ場の表土を軟らかくして植える。 ●代かき直後に植える。

PG0229

11. 不調時の処置

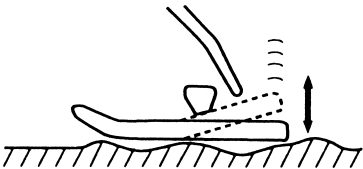
不 調 の 内 容	原 因	処 置 方 法
苗が植付爪より離れず欠株又は苗がコロブ。 	● 苗床が粘土質で粘りが悪い。 ● 粘土質のほ場で水が少ない。 ● 抵抗棒のセット位置が悪い。 (抵抗のかけすぎ) ● 植込フォークの押し出しが遅い。	● 苗床に十分水が含む様、水をかける。 ● ほ場に1～2cm程水を入れる。 ● 抵抗棒のセット位置をかえる。 (80ページ)
前進方向に傾き植わる。 	● 抵抗棒のセット位置が悪い。 (抵抗のかけすぎ)	● 抵抗棒のセット位置をかえる。 (80ページ)
前進方向と反対側に傾き植わる。 	● 抵抗棒のセット位置が悪い。 (抵抗が弱い)	● 抵抗棒のセット位置をかえる。 (80ページ)

PG0230

不 調 の 内 容	原 因	処 置 方 法
フロートで泥を押す。  フロートが沈み跡が深く付く、又は苗が内側に倒れ込む。   サイドフロートで泥を押し隣接苗を倒す。 	●油圧感度調節が田んぼの硬さにあっていない。 ●田んぼの表土がやわらかい。 ●植付速度が速すぎる。 ●田んぼの表土がトロトロでやわらかい。 ●苗のせ台に20枚以上の苗を乗せている。	●油圧感度調節レバーを「軟」方向に泥を押さなくなるまで調節する。 ●植付速度を遅くする。 ●水を落とし表土を硬くする。又は硬くなるまで植付を延期する。 ●苗のせ台に20枚以下の苗を乗せる。
フロートが浮き上がる。  	●油圧感度調節が田んぼの硬さにあっていない。 ●下降ロックレバーが、「植付部固定」の位置になっている。	●油圧感度調節レバーを「硬」方向にフロートが浮き上がらなくなるように調節する。 ●下降ロックレバーを植付できる適正な位置に調節する。

PG0231

11. 不調時の処置

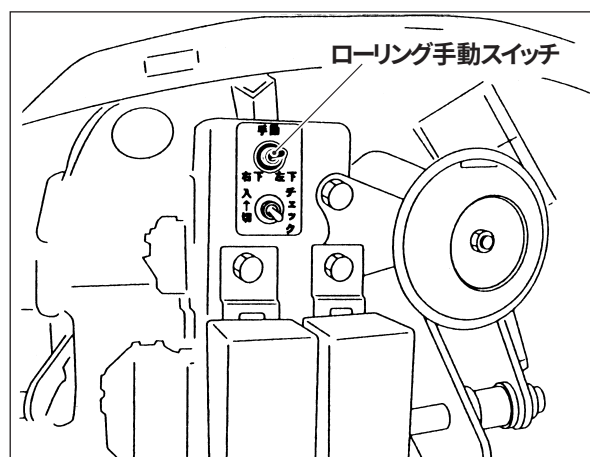
不 調 の 内 容	原 因	処 置 方 法
植付部全体がバタバタする。 	●油圧感度調節が「軟」側によりすぎている。 ●エンジン回転数が高すぎる。 ●田んぼの耕盤が凸凹している。 ●土のかたまりの上にセンサーフロートが乗っている。	●油圧感度調節レバーを「硬」方向にバタつきがなくなるように調節する。 ●エンジン回転数をさげる。 ●植付速度を遅くする。 ●そのまま前進する。 ●植付レバーを油圧「中立」位置にする。
サイドフロートの片方だけが浮き上がる。 	●植付部の左右のバランスがとれていない。	●バランススプリングの張りをかえ左右のバランスを取る。 (お買いあげ先にご相談ください。) ●傾き調節ダイヤルで左右バランスを調節する。

PG0232

11.1.2 油圧ローリングの応急処置

もし、ローリングが正常に作動しなくなった場合は、下記の要領で応急処置ができます。

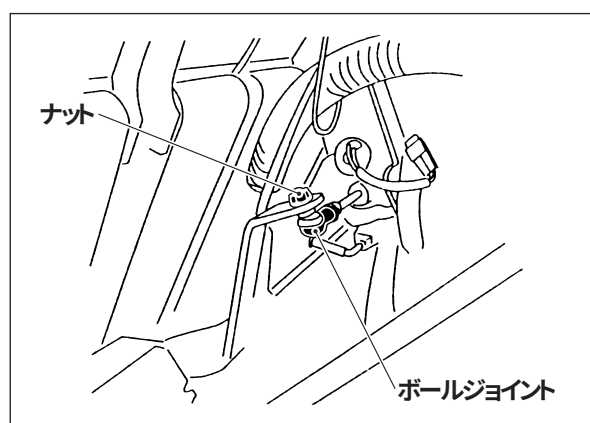
- 1 ローリング手動スイッチで植付部を水平にします。
- 2 ローリングシリンダー部に連結されているボールジョイントのナットをゆるめて、油圧シリンダとの連結を外すことにより応急的に作業ができます。



PG0233

補足

- センサー、スイッチの点検または、配線の修復を必要とする故障と考えられますので、お買いあげ先にご連絡ください。



PG0234

11.1.3 植付ポジションレバーの応急処置

⚠ 注意

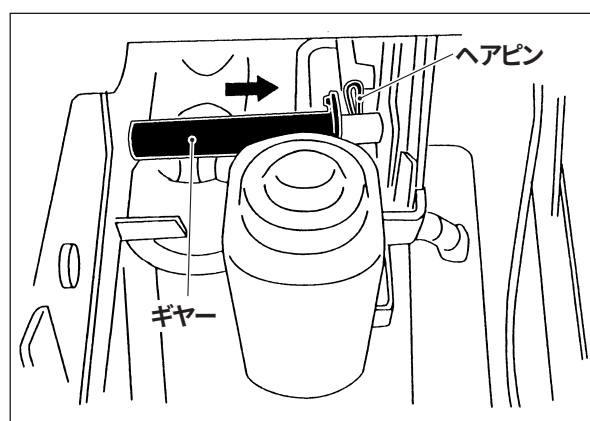


応急処置の作業をするときは、必ずメインスイッチを「切」にして行なってください。

※ これを怠ると、重大な傷害事故の原因となります。

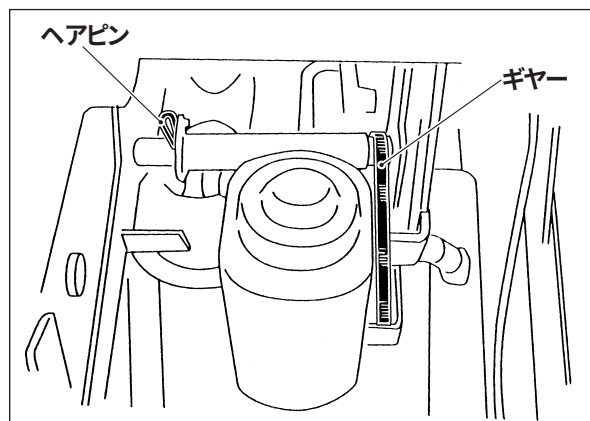
もし、植付ポジションレバーが正常に作動しなくなった場合は、下記の要領で手動に切り替えて、応急的に作業ができます。

- 1 ステップ等の外装を取り外します。
- 2 ヘアピンを抜き、ギヤーを図の矢印の方向に止まるまで移動します。



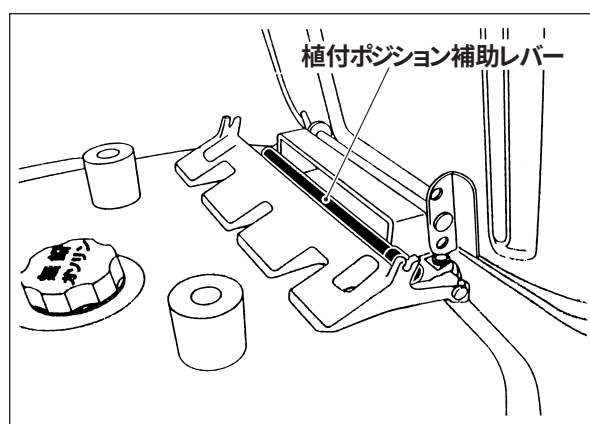
PG0235

3 2で抜いたヘアピンを図の位置に挿入します。



PG0236

4 植付ポジション補助レバーをシート下から取り外します。



PG0237

5 植付ポジションレバーの先端のキャップを抜いて、植付ポジション補助レバーを差し込んで**4**で抜いたヘアピンでレバーを手で操作して、応急的に作業ができます。

補足

- センサー、スイッチの点検または、配線の修復を必要とする故障と考えられますので、お買いあげ先にご連絡ください。



PG0238

11.2 ブザーが鳴り続くとき（水冷エンジンの場合）

オーバーヒートの可能性があります。

機械をアイドリング運転後停止し、十分冷やしてから冷却水の有無、水漏れ、防虫網の点検、清掃を行ってください。（ 97～99ページ）

12. 付表

12.1 推奨潤滑油一覧表

区 分		メーカ名	商 品 名
エンジンオイル		井関農機	キセキ純正オイル 10W30 # (20リットル缶：7019-009-300-00) (4リットル缶：7019-009-400-00)
ギヤ ー オイル	チェンジミッションオイル	井関農機	キセキハイポイドギヤーオイル 80 # (20リットル缶：7019-001-300-00) (4リットル缶：7019-001-400-00)
	リヤミッションオイル		
	植付クラッチケースオイル		
	植付部ケース		
	サイドフレーム	他有名メーカーのグレードGL-4以上使用	
HTS オイル	油圧無段変速機オイル	井関農機	キセキU・T・Hオイル (20リットル缶：7019-019-300-00) (4リットル缶：7019-019-400-00)
グ リ ー ス	一般グリース		エトライト No.2
	ロータリーケース		ユニループ 00 #
	植込杆		ウエコミカングリス (ワンルーバーMP1 #)
燃料		有名メーカー品	自動車用無鉛ガソリン
不凍液		モービル石油 シェル石油 有名メーカー品を使用	モービルロングライフクーラント アンチフリーズ

12. 付表

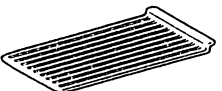
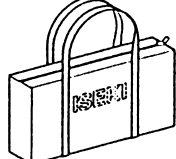
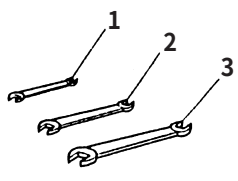
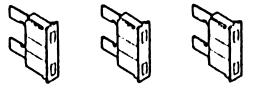
12.2 主要諸元

名 称			PG10DG					
型 式 名			P03310					
区 分			Q	QB	QJ	QA	QABY	QAS
駆 動 方 式			4輪駆動					
機 体 寸 法	全 長 (mm)		3240			3340	3240	
	全 幅 (mm)		2220			2420		
	全 高 (mm)		1900	2500	2090	1650	2500	
	最 低 地 上 高 (mm)		420					
重 量 (kg)			820	900	830	850	910	
エ ン ジ ン	型 式 名		FD620D					
	種 類		水冷4サイクルV型2気筒OHVガソリンエンジン					
	総 排 気 量 (ℓ)		0.617					
	出 力 / 回 転 速 度 (PS[kw]/rpm)		18.8{13.8}/3500 (最大20.0{14.2}/3800)					
	使 用 燃 料		自動車用無鉛ガソリン					
	タ ン ク 容 量 (ℓ)		22					
	始 動 方 式		セルモータ					
走 行 部	か じ 取 り 方 式		センターヨーク式					
	車 輪	種 類 個 数	前 輪		幅広ノーパンクタイヤ×2			
			後 輪		太リムラグ車輪×2			
		外 径 (mm)	前 輪		650			
			後 輪		900			
	変 速 段 数 (段)		前進4・後進2					
植 付 部	植 付 部 の 位 置		後部					
	植 付 部 の 昇 降 方 式		油圧式					
	植 付 部 の 装 着 方 式		4点リンク					
	植 付 方 式		ロータリー					
	植 付 条 数 (条)		10					
	植 付 条 間 (cm)		30			33		
	植 付 株 数 (株/3.3㎡)		45・50・55・60・65・70・80			A,BY:45・50・60・65・80・90 AS:65・70・75・80・85・90		
	植 付 深 さ (cm)		1.2～4.8(7段)					
	一 株 本 数 調 節 方 法		横送り10.0～15.6mm/株、縦かき取り8～18mm/株					
植 付 速 度 (m/秒)			1.4					
作 業 能 率 (分/10a)			7					
苗 条 件	苗 の 種 類		マット苗、キセキポット苗					
	草 丈 (cm)		10～25					
	葉 令 (葉)		マット苗2～4					
予 備 苗 と う 載 数 (箱)			10	40	20	14	40	
型 式 検 査 合 格 番 号			—					
安 全 鑑 定 番 号			27198					

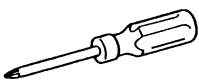
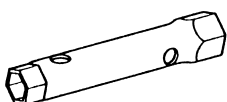
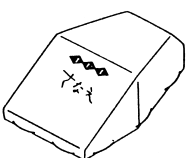
12.3 機能装備一覧表

		PG10DG					
		Q	QB	QJ	QA	QABY	QAS
エンジン	20.0PS	○	○	○	○	○	○
変速	ベルコン	○	○	○	○	○	○
パワーステアリング		○	○	○	○	○	○
前輪広幅ノーパンク (φ650)		○	○	○	○	○	○
後輪太リムラグ (φ900)		○	○	○	○	○	○
パモ ネ ニ ル タ	アワーメーター	○	○	○	○	○	○
	燃料系	○	○	○	○	○	○
マイ コ ン	らくらくレバー	○	○	○	○	○	○
	バックリフト (切替え付)	○	○	○	○	○	○
	油圧ローリング	○	○	○	○	○	○
	音声モニター	○	○	○	○	○	○
	自己診断	○	○	○	○	○	○
スーパーくるっとターン		○	○	○	○	○	○
超低速		○	○	○	○	○	○
ASシフト (自動減速)		○	○	○	○	○	○
フロントホイルクヤップ		○	○	○	○	○	○
前輪デフロック		○	○	○	○	○	○
後輪ローリング		○	○	○	○	○	○
SQスライド		○	○	○	○	○	○
ワンタッチ迎角調節		○	○	○	○	○	○
ワンタッチ横送り4段		○	○	○	○	○	○
ロング苗タンク		○	○	○	○	○	○
フロート間均平レーキ		○	○	○	○	○	○
ショートフロート		○	○	○	○	○	○
あぜクラッチ		○	○	○	○	○	○
電動マーカ		○	○	○	○	○	○
両側線引可能水車マーカ		○	○	○	○	○	○
スペースマーカ						○	
補助苗搭載量 (箱)		10	10	40	20	14	40
苗取板枚数 (枚)		1	1	1	1	1	1

12.4 標準付属品一覧表

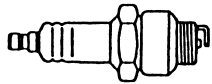
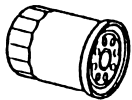
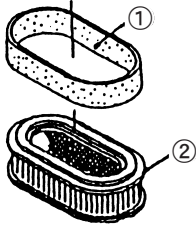
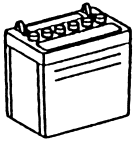
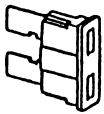
形 状	型 式	品 名	部品コード	個数
	全型式	マニュアル (オペレーション)	2200-971-007-10	1
	全型式	ナエトリイタ	2161-971-004-00	1
	全型式	ナエトリクチゲージ	2144-930-002-10	1
	全型式	コウグブクロ	3560-702-001-10	1
	全型式	アブラサシ	3502-602-004-00	1
	全型式	プライヤG150	V936-150-015-00	1
	全型式	①リョウグチスパナ(ヤリ)(12-14) ②リョウグチスパナ(ヤリ)(10-13) ③リョウグチスパナ(ヤリ)(17-19)	V922-551-201-4 V922-551-001-3 V922-551-701-9	1 1 1
	全型式	ヒューズ (スペア) SET	2186-971-200-00	1

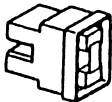
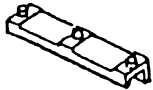
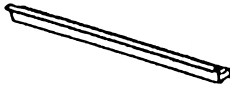
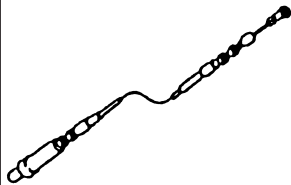
PG0239

形 状	型 式	品 名	部品コード	個数
	全型式	PLジョウゴASSY	2130-931-200-00	1
	全型式	サシカエドライブASSY	2130-931-210-00	1
	全型式	ツール（レンチ）19×21	92110-2051	1
	全型式	カバー（タウエキ）	2162-970-005-00	1

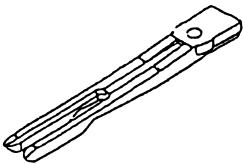
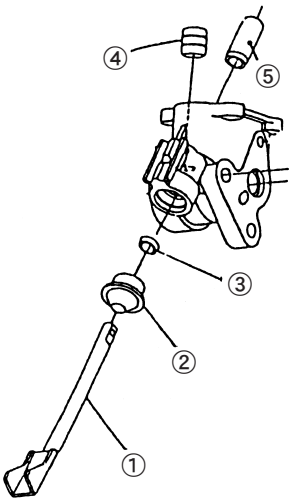
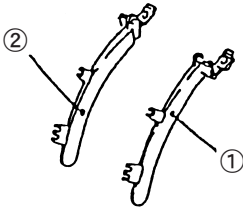
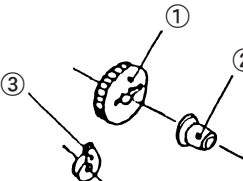
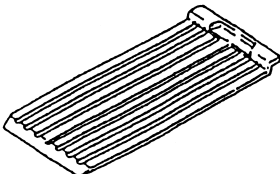
PG0240

12.5 主な消耗品一覧表

形 状		型 式				品 名	部品コード	備 考
		Q	QB	QA	QABY			
		○	○	○	○	プラグ(NGK BPR4ES)	5920-701-112-XX	
〈エンジンオイル用〉 		○	○	○	○	オイルフィルター	5490-652-071-XX	200時間 毎に交換
		○	○	○	○	①エレメント (エアフィルタ)	5110-132-161-XX	
						②エレメント (エアフィルタ)	5110-132-162-XX	
		○	○	○	○	バッテリー (32A19L/CA)	2186-541-200-00	亀裂・摩耗時 交換
	エンジンベルト	○	○	○	○	ベルト (VB054)	2161-105-005-00	
	ベルコンベルト	○	○	○	○	ベルト (ベルコン)	2161-131-203-00	
		○	○	○	○	ヒューズ (ブレード/32V05A)	1650-664-264-00	ヒューズ 切れ時交換
						ヒューズ (ブレード/32V10A)	1757-623-010-00	
						ヒューズ (ブレード/32V20A)	1593-623-203-00	

形 状	型 式				品 名	部品コード	備 考
	Q	QB	QA	QABY			
	○	○	○	○	ヒューズ (スローブロー)(40A)	1650-650-222-00	ヒューズ 切れ時交換
〈ヘッドランプ〉 	○	○	○	○	バルブ(12V 18W)	2161-532-202-00	ヒューズ 切れ時交換
〈センターマスコット用〉 	○	○	○	○	バルブ(12V 18W)	2132-524-204-10	
〈モニターランプ用〉 	○	○	○	○	バルブ(ランプ)SET	1560-658-280-40	
〈しゅう動板スライダー〉 	○	○	○	○	スライダー (E12)	2161-831-002-00	摩耗時 交換
	○	○	○	○	しゅう動板 (マエイタ)		
	○	○	○	○	ナエタンクローラ	2142-9801-005-20	
	○	○	○	○	各ケーブル		作動が重く なったら 交換

12. 付表

形 状	型 式				品 名	部品コード	備 考
	Q	QB	QA	QABY			
	○	○			フィンガ (13/G)	2186-738-033-00	摩耗時又は 変形時 交換
			○	○	フィンガ (14/G)	2186-740-033-00	
	○	○	○	○	①フォーク (ウエコミ/E)COMP	2190-738-230-00	摩耗時交換
	○	○	○	○	②フォークシール (ウエコミフォーク)	2186-738-046-00	
	○	○	○	○	③グリスシール (ウエコミフォーク)	2186-738-047-00	
	○	○	○	○	④クッション	2186-738-029-20	
	○	○	○	○	⑤ブッシュ (08×12×29)	2186-738-024-00	
	○	○	○	○	①ガイド (ナエアンナイ LH)	2186-803-003-00	
	○	○	○	○	②ガイド (ナエアンナイ RH)	2186-803-003-00	
	○	○	○	○	①ラチェットホイール (35)	2161-835-002-00	
					②ブッシュ (ナエオクリアーム)	2161-835-003-00	
					③ラチェットツメ	2161-835-006-00	
	○	○	○	○	ナエトリイタ	2161-971-004-00	

PG0243

12.6 注文部品一覧表

No.	S E T 品 名	部品コード	対 象 型 式
1	ステアリング（グリップ）ASSY	2175-301-400-00	全
2	レーキ（PAA）SET	8821-027-200-00	PG63,53外付補助車輪装着機
3	ウエコミカングリス（300G）ASSY	8849-001-200-00	（約8条分）
4	ウエコミカングリス（150G）ASSY	8849-001-300-00	（約4条分）
5	ブンリバリ	2186-738-052-00	全
6	ヒロハバブンリバリ	2186-738-053-00	全
7	ブンリバリトリツケイタ	2186-738-051-00	ブンリバリ又はヒロハバブンリバリとセットでご使用下さい。
8	フォークピース	2186-751-001-00	全
9	フォーククリーナー	2186-738-055-00	分離針、広幅分離針装着機
10	ハンガーウエイト（30）SET	2190-340-300-00	
11	Yガタ（ナエワク）SET	2200-513-500-00	Y型苗枠延長用

純正部品を使いましょう

補修用部品は、安心してご使用いただける純正部品をお買い求めください。
市販類似品をお使いになりますと、機械の不調や、機械の寿命を短くする原因になります。

純正アタッチメントを使いましょう

純正アタッチメントは、一番よくマッチするように研究され、徹底した品質管理のもとで生産・出荷していますので、安心して使っていただけます。
市販類似品をお使いになりますと、作業能率の低下や機械の寿命を短くする原因になります。

取扱方法、手入れの仕方、故障修理などお困りのときは、購入先へご相談ください。

●ここにメモされておくと後々便利とおもいますので、ぜひ記入しておいてください。

購入先名	担当者名	電話 () -
御購入日 平成 年 月 日	型式	区分
車台番号（本機番号）	エンジン番号	同時購入作業機